
社 会 活 動

本学における「地域貢献」とは

定義＝「学生」に対する主たる教育活動以外に、専門的研修、共同研究、外部委員その他教員の取り組みなどをさす。

分類 番号	区 分	趣 旨	例 示
1	生涯学習	一般市民への生涯学習や知識の向上を支援するもの	公開講座、高大連携、一般県民対象の各種研修会などの講師
2	人材育成	保健医療福祉の専門職者を対象に専門的な知識を提供し、人材を育成するもの	病院・社会福祉施設職員などの専門職者に対する各種研修講師、認定看護師養成、看護管理セカンドレベル研修の講師など
3	産官学連携	産・官との連携による研究・研究開発に関するもの	実用技術開発研究、各種共同研究、健康教室等
4	国際交流	国際交流を通じた地域貢献	国際交流に資するもの全般、留学生の受け入れなど
5	地域交流	地域住民との交流に関するもの	ボランティアやサークル活動などを通して地域住民との交流があるもの
6	情報発信	学会・学会誌への発表以外の公表、マスコミへの発表など	研究者が保有する情報を広報誌、各種刊行物などへ発信したものの
7	外部委員・ 学会活動	他機関から委嘱を受け就任したもの、学会等における活動状況	国や地方公共団体を含めた公的委員会、各種財団などの各種委員、理事等への就任、及び学会活動など
8	その他	上記以外の地域貢献	NPO法人の設立・参画など

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護	赤羽衣里子	人材育成	・平成19年度 乳幼児の育ちを支える食育研修会	講師	上北地方健康福祉こどもセンター	平成19年8月30日	三沢市国際交流教育センター ホール	上北地方の保育士、歯科医師、助産師・看護師等保健医療職者や行政の乳幼児に携わる人々	
3	看護	赤羽衣里子	産官学連携	・小児フィジカルアセスメント実践DVD開発研究	研究分担者	青森県立保健大学	平成19年4月～平成20年3月に全体会議の他学内会議、撮影会開催	青森県立保健大学	研究メンバー	
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・日本看護研究学会会員	会員	日本看護研究学会				
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・日本小児看護学会会員	会員	日本小児看護学会				
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・日本家族看護学会会員	会員	日本家族看護学会				
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・日本家族看護学会第14回学術集会企画委員会	委員(事務局総括)	日本家族看護学会	平成19年4月～12月までにだいたい1～2回以上企画会議、9月1・2日学術集会開催	青森県立保健大学	小会議では学内企画委員、全体会議は学内外企画委員、学術集会は全国の保健医療、教育関係者	
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・青森県看護教育研究会会員	会員	青森県看護教育研究会				
7	看護	赤羽衣里子	外部委員・学会活動	・多胎育児サポートネットワーク会員	会員	多胎育児サポートネットワーク				
2	看護	藤井 博英	人材育成	看護研究基礎研修	講師	岩手県医療局	4月15・16日	岩手県立中央病院	看護師	
2	看護	藤田 あけみ	人材育成	保健師助産師看護師実習指導者講習会	講師	青森県看護協会	7月29日、30日、8月5日	青森市 元気プラザ	保健師、助産師、看護師	
2	看護	福井 幸子	人材育成	認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修会	講師	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成19年7月	青森県立保健大学	セカンドレベル32名	
2	看護	福井 幸子	人材育成	医療安全に関わる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム研修	デモンストレーター	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成20年2月	青森県立保健大学	看護師30名	
2	看護	福井 幸子	人材育成	青森県訪問看護協議会東青支部研修会	講師	青森県訪問看護協議会東青支部	平成19年6月	青森市	訪問看護ステーション管理者	
1	看護	福井 幸子	生涯学習	七戸高校模擬講義	講師	七戸高校	平成19年7月	青森県立保健大学	総合学科1年38名	
2	看護	早川 ひと美	人材育成	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	北海道看護協会	平成20年2月5日	北海道看護協会		
4	看護	早川 ひと美	国際交流	青森県立保健大学国際科 ベレノバ交流事業	青森県立保健大学健康科学教育センター 国	平成19年5月13日～19日				
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	青森県看護協会ファーストレベル教育運営委員会	委員	青森県看護協会				
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	第38回日本看護学会－看護管理－論文選考ワーキンググループ	委員	日本看護協会				
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本母性衛生学会	会員					
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本看護管理学会	会員					
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本看護学教育学会	会員					
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本医療・病院管理学会	会員					
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	会員					
7	看護	早川 ひと美	外部委員・学会活動	日本在宅ケア学会	会員					
1	看護	平尾 明美	生涯学習	平成19年度あすなろマスターカレッジ健康福祉コース(青森校)	講師	青森県総合社会教育センター	7月11日・18日	青森県立保健大学		
1	看護	平尾 明美	生涯学習	平成19年度救急看護認定看護師教育課程	主任教員	健康科学教育センター(地域連携・国際センター)	6月7日～12月6日	青森市	選抜試験合格者定員10名	
2	看護	平尾 明美	人材育成	第8回名古屋掖済会病院P T L S講習会看護師コース	講師・インストラクター	名古屋掖済会病院	7月14日	名古屋掖済会病院	看護師	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
1	看護	平尾 明美	生涯学習	第4回八戸プライマリケア外傷蘇生看護師コース	講師・インストラクター	地域医療振興協会	10月20日・21日	八戸市立市民病院	看護師	
1	看護	平尾 明美	生涯学習	平成19年度レベルⅢ在宅呼吸管理看護研修会	講師	青森県看護協会	11月3日・4日	青森県立保健大学	在宅看護に関わる看護師	
2	看護	平尾 明美	人材育成	第9回名古屋掖済会病院PTLS講習会看護師コース	講師・インストラクター	名古屋掖済会病院	1月12日	名古屋掖済会病院	看護師	
7	看護	平尾 明美	外部委員・学会活動	トリアージナース育成検討委員会	委員	日本救急看護学会・日本臨床救急医学会合同				
2	看護	石鍋 圭子	人材育成	県内就職説明会 リンパ腫腫ケア						
2	看護	木村 恵美子	人材育成		講師・デモンストレーター、実践指導	青森県立病院緩和ケアチーム、弘前大学医学部付属病院看護部、十和田市立市民病院、青森県健康福祉医療業務課 など	2005年2月・3月・6月・7月・9月、2006年2月～5月（現在に至る）、2007年4月-9月	秋田赤十字病院、青森県立中央病院、弘前大学医学部付属病院、十和田市立市民病院、国立中央がんセン	医師・看護師・薬剤師・音楽療法士など	
1	看護	リボウィツ よし子	生涯学習	ペンシルバニア大学コッター教授講演「高齢者ケア：米国の抑制・痴呆への取り組み」	企画・実施 講師	青森高齢者研究会（国際科共催）	7月24日	青森県立保健大学	青森県の病院・施設・在宅ケアに従事している看護師約70名	
2	看護	村上 眞須美	人材育成	看護管理者教育課程サードレベル	運営委員	青森県立保健大学地域連携・国際センター				
1	看護	大串靖子	生涯学習	青森県立三沢高等学校	講師	三沢高等学校	平成19年6月23日	三沢高等学校	県立三沢高等学校生徒看護系志望者	
1	看護	大串靖子	生涯学習	市立函館高等学校出張講義	講師	函館高等学校	平成19年10月30日	市立函館高等学校	市立函館高等学校2年生看護系学校志望者66名	
2	看護	大串靖子	人材育成	平成19年度認定看護管理者教育セカンドレベル	講師	青森県立保健大学	平成19年6月26日	青森県立保健大学	認定看護管理者教育セカンドレベル受講者 青森県内、秋田県等	
2	看護	大串靖子	人材育成	保健師助産師看護師実習指導者講習会	講師	青森県看護協会	平成19年7月19日	青森県健康福祉プラザ	青森県内病院看護職員	
2	看護	大串靖子	人材育成	学び直しプログラム	講師	青森県立保健大学教育センター	平成20年3月7日	青森県立保健大学	青森県内看護職員	
2	看護	大串靖子	人材育成	八戸平和病院看護職員研修会	講師	八戸平和病院	平成20年2月23日	八戸平和病院	八戸平和病院看護職員	
2	看護	大串靖子	人材育成	基礎看護学方法論授業	講師	八戸看護専門学校	平成19年4月-6月	八戸看護専門学校	八戸看護専門学校生	
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	評議員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護管理学会	評議員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護管理学会	査読委員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	和文査読委員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護学教育学会	評議員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護学教育学会	査読委員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護研究学会	評議員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護研究学会	査読委員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護歴史学会	会員					
7	看護	大串靖子	外部委員・学会活動	日本看護技術学会	会員					
2	看護	大関 信子	人材育成	1.第19年度看護大学等進路説明会 相談員 青森県看護協会・青森県教育委員会・2.高大連携事業「医療人類学」講師 青森県立青森東高等学校・3.高大連携事業「グローバル社会と文化」講師 青森県立青森東高等学校・4.福井県立大学「国際看護学」講師 福井県立大学・5.救急看護認定看護コース「看護倫理学」講師 青森県立保健大学研究センター	講師					
2	看護	佐藤 真由美	人材育成	平成19年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	講師	青森県看護協会	平成19年8月7日・8日	県民福祉プラザ	保健師・助産師・看護師で、実務経験5年以上、実習指導者として基礎的研修の未受講者	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護	佐藤 真由美	人材育成	平成19年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	平成19年8月22日	青森県立保健大学C棟2階N-講義室1	看護管理者	
8	看護	佐藤 愛	その他	あおもり思春期研究会	事務局	一般市民、医療関係者、教育関係者等を対象に、年2回の市民公開講座・例会の開催、電話相談、ピアカウンセラー養成とその活動支援を				
1	看護	吹田 夕起子	生涯学習	平成19年度あすなるマスターカレッジ健康福祉コース	講師	青森県総合社会教育センター	2007/8/1	青森県立保健大学	第3期あすなるマスターカレッジ健康福祉コース受講者	
1	看護	吹田 夕起子	生涯学習	もの忘れフォーラムin弘前	講師	エーザイ株式会社、ファイザー株式会社	2008/3/29	弘前文化センター	一般県民	
2	看護	吹田 夕起子	人材育成	平成19年度救急看護認定看護師教育課程	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	2007/7/26	青森県立保健大学	救急看護認定看護師教育課程受講生	
2	看護	吹田 夕起子	人材育成	平成19年度介護員養成研修3級課程	講師	社会福祉法人青森市社会福祉協議会	2007/10/3	青森市福祉増進センター「しあわせプラザ」	介護員養成研修3級課程受講者	
6	看護	吹田 夕起子	情報発信	あおもりTODAY ラジオ番組「なぜなに認知症～守ろう人権」	出演者	青森放送株式会社	2008/3/11	青森放送株式会社	一般県民	
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	地域密着型サービスの外部評価審査委員会	委員長	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	2007/6/8、2008/3/27	アピオあおもり、県民福祉プラザ		
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	八戸看護専門学校通信制2年課程 添削指導員連絡会議	添削指導員	八戸看護専門学校	2007/9/13、2008/2/7	八戸市 ユートリー		
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本認知症ケア学会	査読委員					
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	会員					
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本看護研究学会	会員					
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本老年看護学会	会員					
7	看護	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本老年社会科学学会	学会					
8	看護	吹田 夕起子	その他	青森高齢者ケア研究会	世話人(事務)					
1	看護	竹森幸一	生涯学習	第3回下北フォーラムin 現代GP	講演	主催 青森県立保健大学、後援 むつ市社会福祉協議会	平成20年3月21日	むつ市中央公民館	むつ市民	
6	看護	竹森幸一	情報発信	年報に記載						
7	看護	竹森幸一	外部委員・学会活動	青森統計情報利活用調査研究会 日本衛生学会評議員 任期なし 日本循環器管理研究協議会評議員 任期満了 日本民族衛生学会評議員 任期なし 日本公衆衛生学会評議員 任期平成17年7月1日～平成20年6月30日、平成20年7月1日～平成23年6月30日 日本栄養・食糧学会会員 日本学校保健学会会員 日本健康教育学会 日本家族看護学会	アカデミーメンバー	青森県	随時	県庁		
2	看護	田中広美	人材育成	平成19年度介護専門職員講座	講師	社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護実習・普及センター	平成19年7月13日	県民福祉プラザ	居宅介護に従事する介護経験1～2年の介護職員	
2	看護	田中広美	人材育成	平成19年度社会福祉主事 資格認定講習会	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	平成19年5月	青森県立保健大学	社会福祉主事	
2	看護	鄭 佳紅	人材育成	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター・日本看護協会看護教育研究センター・日本看護協会神戸研修センター・石川県看護協会・山形県看護協会	2007年6月20日、7月24日、7月31日、8月7日、9月27日、10月15日、10月28日	青森県立保健大学健康科学教育センター・日本看護協会看護教育研究センター・日本看護協会神戸研修センター・石川県看護協会・山形県看護協会	認定看護管理者教育課程セカンドレベル受講者	
2	看護	鄭 佳紅	人材育成	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	青森県看護協会・北海道看護協会	2007年7月17日、7月25日、2008年2月1日	青森県看護協会・北海道看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講者	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護	鄭 佳紅	人材育成	看護継続教育トピックス研修	講師	山形県看護協会・北海道看護協会	2007年10月16日、11月8日	山形県看護協会・北海道看護協会	看護職	
2	看護	鄭 佳紅	人材育成	院内看護継続教育研修	講師	公立野辺地病院、鱈ヶ沢町立中央病院、山形県立新庄病院	2007年7月28日、9月7日、10月16日			
2	看護	山本 加奈子	人材育成	社会福祉主事資格認定講習会	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	5月28日、6月4日	青森県立保健大学	青森県および青森市福祉事務所職員、民間福祉施設職員 約60名	
2	看護	山本 加奈子	人材育成	介護専門職員講座	講師	青森県社会福祉協議会	7月13日	青森県民福祉プラザ	青森県内の居宅介護に従事する介護職員 約40人	
2	看護	山本 加奈子	人材育成	アロマセラピー研修会	講師	十和田市立中央病院	7月12日	十和田市立中央病院	十和田市立中央病院 緩和ケアリンクナース 約	
2	看護	山本 加奈子	人材育成	アロマセラピー研修会	企画・運営・講師	青森県立保健大学	11月10・11日	青森県立保健大学	県内看護職者44名	
4	看護	山本 加奈子	国際交流	ラオスにおける学校保健プロジェクト	代表	日本財団	8月、3月（各約4週間）	ラオス人民民主共和国	ラオス国民約2000人	
4	看護	山本 加奈子	国際交流	青年海外協力隊募集説明会	情報提供	JICA	4月	水産会館ビル	国際協力を目指す青森市	
4	看護	山本 加奈子	国際交流	青年海外協力隊募集説明会・国際協力推進説明会	情報提供者	JICA・青森県立保健大学国際科委員会	5月30日	青森県立保健大学	国際協力に興味のある青森県民	
6	看護	山本 加奈子	情報発信	NHK全国ケーブルテレビ大賞	出演	NHK	7月28日	NHKBS 1	日本全国	
7	看護	山本 加奈子	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	学会委員					
5	看護	山本真樹子	地域交流	スマイル・オン	会員 助産師	児童虐待防止を目指す民間グループ「スマイル・オン」	毎週火曜13:30～ 毎月土定例会	ファミリー・リカバリー・センター（新田）事務局内	小さなお子さんのいる女性（青森県在住の方）	
5	看護	山本真樹子	地域交流	あおもり思春期研究会	会員 事務局（世話人）	あおもり思春期研究会	青森市内	青森県の青年、そのご両親		
5	看護	山本真樹子	地域交流	青森市民クリスマス「共に生きるいのちの喜び」	大学側と民間の福祉グループとの調整（運営）	LOVE青森Jミッション	2007年12月1日	青森県立保健大学講堂	青森県在住の方。	
2	理学療法	藤田 智香子	人材育成	平成19年度社会福祉主事資格認定講習会	講師	青森県立保健大学	平成19年9月14日13:00-16:00	青森県立保健大学（青森市）	福祉事務所・児童相談所・更生相談所等の町村福祉業務現業員等	福祉事務所・児童相談所・更生相談所等の町村福祉業務現業員等約10名
2	理学療法	藤田 智香子	人材育成	村上病院リハビリテーション科研修会	講師	村上病院リハビリテーション科	平成19年9月12日	村上病院	芙蓉会所属の理学療法士等	
1	理学療法	藤田 智香子	生涯学習	あすなるマスターカレッジ健康福祉コース	講師	青森県総合社会教育センター	平成19年7月5日・12日	青森県立保健大学他	一般市民	受講者5～6名
1	理学療法	藤田 智香子	生涯学習	青森県立青森戸山高校出張講義	講師	青森県立青森戸山高校	平成19年10月30日	青森県立青森戸山高校	高校1・2年生	約40名
3	理学療法	藤田 智香子	産官学連携	今別町老人保健事業の機能訓練事業	講師	今別町	平成19年4月～8月の第3土曜日	今別町デイサービスセンター「ひよ	在宅の脳卒中後遺症者等	10名前後
4	理学療法	藤田 智香子	国際交流	韓国・仁済（インジェ）大学校との国際交流	研修計画立案・文書作成等	青森県立保健大学および仁済（インジェ）大学校	仁済大学校から本学へ来日：平成19年7月10日～8月7日・本学より仁済大学校へ訪韓：平成19年8月22日～9月5日	仁済大学校学生研修先：本学・黎明郷リハビリテーション病院等・本学学生研修先：仁済大学校・附属白	理学療法学科3年生	仁済大学校から来日：4名・本学より訪韓：3名
1	理学療法	岩月 宏泰	生涯学習	職業講話	講師	青森市立戸山西中学校	2007年11月12日	青森市立戸山西中学校	中学生	
1	理学療法	岩月 宏泰	生涯学習	学部説明・模擬講義	講師	青森県立八戸高校	2007年8月22日	青森県立八戸高校	高校生	
1	理学療法	岩月 宏泰	生涯学習	健康講話	講師	NPO法人斗南どんどご健康村	2007年6月17日、9月22日	むつグランドホテル	一般市民	
2	理学療法	岩月 宏泰	人材育成	職員研修	講師	となみ療護園	2007年10月28日	となみ療護園	職員	
1	理学療法	盛田 寛明	生涯学習	青森県立保健大学高大連携授業担当（理学療法原論）	講師	青森県立保健大学	平成18年度～現在に至る（各年度前期14回 17:10～18:30）	青森県立保健大学	青森県立東高等学校生	
1	理学療法	盛田 寛明	生涯学習	青森県立保健大学平成19年度公開講座第3回「訪問リハビリテーションの実際」	講師	青森県立保健大学	平成19年6月30日 14:10～15:10	青森県立保健大学	一般住民、本学学生教職員	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
1	理学療法	盛田 寛明	生涯学習	平成19年度あすなるマスターカレッジ健康福祉コース「日常生活活動と障害予防」	講師	青森県総合社会教育センター	平成19年11月8日 17:30～19:30	青森県立保健大学	青森県民（あすなるマスターカレッジ健康福祉コース受講生）	
1	理学療法	盛田 寛明	生涯学習	青森県立保健大学平成19年度高校生対象模擬講義	講師	青森県立保健大学	平成19年12月19日 12:40～13:30	青森県立保健大学	青森県立大間高校1年生25名	
2	理学療法	盛田 寛明	人材育成	平成19年度六ヶ所村介護予防ボランティア育成事業	講師	六ヶ所村社会福祉協議会	平成19年10月26日	六ヶ所村老人福祉センター	介護予防ボランティア、保健福祉専門職	
3	理学療法	盛田 寛明	参官学連携	六ヶ所村健康教育学事業・生き生き高齢者健康学習事業	講師	六ヶ所村健康福祉課	平成14年～19年度（平成20年:1月25日 戸鎖公民館）	六ヶ所村保健相談センター、老人福祉センター、および村内各地域公民館・集会所	一般住民、専門職（保健師等）	
3	理学療法	盛田 寛明	参官学連携	横浜町訪問指導事業指導	非常勤講師	横浜町住民生活福祉課	平成14年～現在に至る（平成20年:3月13日、4月23日、5月30日、9月4日）	横浜町役場および町内障害者宅	横浜町在宅障害者および専門職（保健師等）	
4	理学療法	盛田 寛明	国際交流	韓国仁済大学校物理治療学科との国際交流事業	計画・引率・実習指導	青森県立保健大学	平成14年～現在に至る（毎年夏季）	青森県立保健大学、県内のリハビリテーション施設・保険福祉医療	韓国仁済大学校物理治療学科3年生	
1	理学療法	山下 弘二	生涯学習	青森県立保健大学 弘前南高等学校出前講義	講師	青森県立弘前南高等学校	2007年10月10日	青森県立弘前南高等学校	高校2年生	
1	社会福祉	増山 道康	生涯学習	飛び出せオープンカレッジ	ボランティアサポーター	飛び出せオープンカレッジ実行委員会・（ドアドアらんど・発達保障研究会）	年4回（平成20年度は5/25、9月、12月、2月予定）	青森県立保健大学	18歳以上の知的障害者	青森県内在住者（過去の実績は青森市内とその周辺地域からの参加）
2	社会福祉	増山 道康	人材育成	青森県立保健大学健康科学教育センター研修科企画研修事業・社会保障制度・地域生活保障に関する研修	総括責任者・講師	青森県立保健大学健康科学教育センター研修科	2007年 10・12月、2008年3月・2008年 10～11月（予定）	青森県立保健大学	青森県内民間社会福祉従事者（2007年度は高齢福祉を中心とした）・2008年度は県内障害者福祉施設職員を対象とする予定	青森県内
8	社会福祉	増山 道康	その他	高大連携授業	社会福祉学概論提供（栄養学科授	青森県立保健大学	前期セメスター中・2007年4～7月（社会福祉学科通年授業の一部）・2008年 4～7月（栄養学科前期開講	青森県立保健大学	青森県立青森東校等学校生徒	2年生希望者
2	社会福祉	石田賢哉	人材育成	平成19年度社会福祉主事認定講習会	講師（社会福祉概	青森県	平成19年5月25日 平成19年5月28日	青森県立保健大学	社会福祉施設従事者及び社会福祉行政従事職員対	
2	社会福祉	石田賢哉	人材育成	青森県介護支援専門員研修 I	講師	NPO法人青森県介護支援専門員協会	平成19年7月10日	青森市文化会館	青森県内の介護支援専門員	
2	社会福祉	石田賢哉	人材育成	平成19年度児童厚生2級指導員研修会	講師	青森県児童館連絡協議会	平成19年9月18日	県民福祉プラザ	青森県内外の児童厚生員、放課後児童クラブ関	
2	社会福祉	石田賢哉	人材育成	平成19年度中部上北2町介護支援専門員研修会	講師	七戸町・東北町	平成19年2月19日	七戸町天馬林保健センター	七戸町・東北町の居宅介護支援専門員及び在宅介護支援センター職員	
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本社会福祉学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	大正大学社会福祉学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本デイケア学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本保健福祉学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本精神障害者リハビリテーション学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本社会事業大学社会福祉学会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本社会福祉士会	会員					
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	SST普及協会	会員					

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
7	社会福祉	石田賢哉	外部委員・学会活動	横浜市精神障害者地域生活支援連合会	調査部会協力者	横浜市精神障害者地域生活支援連合会				
1	社会福祉	千葉 多佳子	生涯学習	地球市民学習会	企画・講師	「地球市民ネットワーク・あおも	毎月1回	青森市	青森市民	青森市民
1	社会福祉	千葉 多佳子	生涯学習	インド開発研修会	講師	WE21ジャパン	平成19年5月11日	かながわ県民活動サポートセンター	WE21ジャパン会員	WE21ジャパン会員
1	社会福祉	千葉 多佳子	生涯学習	平成19年度あすなろマスターカレッジ健康福祉コース	講師	青森県総合社会教育センター	平成19年7月30日	青森県立保健大学	平成19年度あすなろマスターカレッジ健康福祉コース受講生	平成19年度あすなろマスターカレッジ健康福祉コース受講生
1	社会福祉	千葉 多佳子	生涯学習	世界を考え行動する高校生～インドでの本校の支援活動の現状～	講師	青森県立むつ工業高等学校	平成19年5月25日	青森県立むつ工業高等学校	青森県立むつ工業高等学校生徒	青森県立むつ工業高等学校生徒
1	社会福祉	千葉 多佳子	生涯学習	大学模擬講義	講師	青森県立八戸南高等学校	平成19年6月23日	青森県立八戸南高等学校	青森県立八戸南高等学校生徒	青森県立八戸南高等学校生徒
4	社会福祉	千葉 多佳子	国際交流	「地球のステージ」その3	企画運営主体	青森県立保健大学教育センター国際科	平成19年5月30日	青森県立保健大学	県民一般	県民一般
4	社会福祉	千葉 多佳子	国際交流	「あおもり地球市民講座」	企画運営主体	青森県立保健大学教育センター国際科	平成19年10月13日、11月10日、12月15日	青森県立保健大学	県民一般	県民一般
7	社会福祉	千葉 多佳子	外部委員・学会活動	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金運営委員	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金運営	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	年に3～4回の委員会出席	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金関係者	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金関係者
7	社会福祉	千葉 多佳子	外部委員・学会活動	社会福祉法人青森県社会福祉協議会評議員推薦委員	社会福祉法人青森県社会福祉協議会評議員の	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	平成19年10月	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	社会福祉法人青森県社会福祉協議会関係者	社会福祉法人青森県社会福祉協議会関係者
8	社会福祉	千葉 多佳子	その他	NGO活動「あおもりとベンガルをつなぐ会」	代表	「あおもりとベンガルをつなぐ会」	毎月1回の学習会と年3回の現地訪問	国内は青森市の「アウガ」、現地はインド国西ベンガル州コルカタ周	市民一般	市民一般
8	社会福祉	千葉 多佳子	その他	NGO活動「地球市民ネットワーク・あおもり」	代表	「地球市民ネットワーク・あおもり」	毎月1回の学習会開催	青森市の「アウガ」あるいは県民福祉プラザ	市民一般	市民一般
8	社会福祉	千葉 多佳子	その他	青森県青年海外協力協会	理事	青森県青年海外協力協会	年に24回程度の企画	青森県内	企画運営の主体は会員	県民一般
2	社会福祉	入江 良平	人材育成	社会福祉主事認定講習会	講師	すこやか事業団	12月3日、10日	青森市	福祉施設・機関職員	
7	社会福祉	大竹 昭裕	外部委員・学会活動	青森紛争調整委員会	委員	厚生労働省青森労働局				
2	社会福祉	大和田 猛	人材育成	平成19年度高齢者虐待防止ネットワーク推進事業、研修	講師	新潟県魚沼地域振興局	平成19年5月30日	魚沼市市民会館	福祉サービス事業者、グループホーム事業者、一般住民	
2	社会福祉	大和田 猛	人材育成	平成19年度青森県認知症介護実践研修	講師	青森県老人福祉協会	平成19年6月5日	青森市、アビオ青森	青森県介護老人福祉施設・事業所などに従事する介護職員	
2	社会福祉	大和田 猛	人材育成	介護サービス情報の公表制度研修会	講師	青森県社会福祉協議会	平成19年8月27日	青森市文化会館	介護保険事業所、福祉サービス提供事業所の関係職員	
2	社会福祉	大和田 猛	人材育成	平成19年度高齢者虐待防止研修会	講師	青森県老人福祉協会	平成19年9月10日	青森市、アビオ青森	県内の老人福祉施設・事業所の関係職員	
2	社会福祉	大和田 猛	人材育成	平成19年度福祉サービス評価事業推進セミナー	講師	青森県福祉サービス第三者評価推進委員会事務局	平成19年9月24日	青森市、県民福祉プラザ	福祉サービス事業所、グループホーム事業所	
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	日本社会福祉学会	査読委員	日本社会福祉学会	年間2回程度	東京都	学会から選出された学識者	
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	日本社会福祉学会東北部会	幹事	日本社会福祉学会	年間6回程度	仙台市	学会から選出された学識者	
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	福祉サービス第三者評価推進委員会	委員長	福祉サービス第三者評価推進委員会事務局	年間4回程度	青森市	関係団体の長及び学識者	
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県高齢者サービス総合調整推進会議	委員	青森県健康福祉部高齢福祉保険課	年間5回程度	青森市	職能団体の代表者、行政組織の代表者、学識者	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県社会福祉士会	理事	青森県社会福祉士会	年間6回程度	青森市	学識者、社会福祉士会理事	
7	社会福祉	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県すこやか福祉事業団	理事	青森県すこやか福祉事業団	年間5回程度	青森市	学識者、事業団理事	
8	社会福祉	齋藤 史彦	その他	NPO法人光の岬福祉研究会の運営、調査等の助言	正会員	NPO法人光の岬福祉研究会				
3	人間	熊谷貴子	産官学連携	黒石市健康教室	栄養指導、食選択の講話	青森県 黒石市 健康福祉部	2007年7月～10月 毎月2回	スポカルイン黒石、産業会館・黒石市	黒石市の市民	
5	人間	熊谷貴子	地域交流	佐井村健康フェア	栄養指導	青森県 佐井村	2007年7月27日	アルサスしおさいホール・佐井村	佐井村の住民	
5	人間	熊谷貴子	地域交流	いただきます！あおもり食育県民大会	本大学の研究展示、食育のお話（紙芝居）	青森県、青森県食育推進会議	2007年11月3日	青森県立保健大学・青森市	青森県民	
7	人間	熊谷貴子	外部委員・学会活動	全国研究教育栄養士協議会 代表者会議	青森県代表（代）	社団法人 日本栄養士会	2008年3月7日	キャンパスプラザ 京都・京都市	全国研究教育栄養士協議会 会員	
7	人間	熊谷貴子	外部委員・学会活動	青森県研究教育栄養士協議会 研修会	全国研究教育栄養士協議会 代表者会議	社団法人 青森県栄養士会	2008年3月22日	東北女子短期大学・弘前市	青森県研究教育栄養士協議会 会員	
2	人間	浅田 豊	人材育成	保健師助産師看護師実習指導者講習会「教育原理」	講師	青森県看護協会	平成19年7月	県民福祉プラザ	看護師等	青森市
2	人間	浅田 豊	人材育成	西北地区放課後子どもプランフォーラム・講演	講師	西北教育事務所	平成19年7月	柏ふるさと交流センター	教師、安全管理員、指導員等	つがる市
2	人間	浅田 豊	人材育成	下北地区放課後子どもプラン合同指導員等研修会・講演	講師	下北教育事務所	平成19年6月～10月	中央公民館	教師、安全管理員、指導員等	むつ市
1	人間	浅田 豊	生涯学習	あすなるマスターカレッジ講座講師「修了レポート・資料収集方	講師	青森県総合社会教育センター	平成19年7月	青森県立保健大学	地域住民	青森市
1	人間	浅田 豊	生涯学習	青森市家庭教育支援総合推進事業・講演「子どもの心と体を守り育てるには」	講師	青森市子育てサポートセンター	平成20年2月	アピオ青森	地域住民	青森市
7	人間	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本教育学会・日本教科教育学会・日本社会科教育学会・日本健康教育学会・日本公衆衛生学会・北海道社会福祉学会・日本家族看護学会・日本循環器管理研究協議会・日本小児保健学会・日本民族衛生学会				
3	人間	藤田 修三	産官学連携	生活習慣病改善にむけた健康教室	班長	健康寿命アッププロジェクト食生活研究班	2007年7月～11月	黒石市産業会館	住民	
3	人間	藤田 修三	産官学連携	食育講演	講師	つがる市	平成19年7月4日	つがる市生涯学習センター	つがる市食生活改善普及員	
3	人間	藤田 修三	産官学連携	スポレクあおもり2007協賛イベント(クオリティ)	公認審判員	青森県、協賛：青森県クオリティ協会	平成19年9月23日	青い森公園(青森市)		
3	人間	藤田 修三	産官学連携	高大連携：青森東高校出張講義	講師	青森県立青森東高等学校	平成19年11月15日	青森県立青森東高等学校	高校生	
3	人間	藤田 修三	産官学連携	給食管理室の衛生	講師	青森市	平成20年2月28日	元気プラザ(青森)	青森市内施設栄養士	
8	人間	廣森 直子	その他	健康科学教育センター研修科事業	兼任研究	健康科学教育センター研修科	平成16年度～	青森県立保健大学	県内医療福祉専門職等	
1	人間	岩井 邦久	生涯学習	第9回食育と未病フォーラム	運営、講	日本未病システム学会	平成19年10月27日	青森中央学院大学	一般市民	
1	人間	岩井 邦久	生涯学習	模擬講義	講師	保健大学	平成19年11月19日	保健大学	三戸高校生	
1	人間	岩井 邦久	生涯学習	出張講義・栄養	講師	青森南高校	平成19年11月8日	青森南高校	高校生	
1	人間	岩井 邦久	生涯学習	出張講義・栄養	講師	青森戸山高校	平成19年10月30日	青森戸山高校	高校生	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	共同研究(新規)	共同研究	保健大、NPO法人(県内)、企業(東)	平成19年6月～	保健大		
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	共同研究(更新)	共同研究	保健大、企業(東京)	平成19年6月～	保健大		
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	共同研究(継続)	共同研究	保健大、企業(県内)	平成18年12月～	保健大		
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	共同研究(継続)	共同研究	保健大、企業(県内)	平成18年12月～	保健大		
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	ヘルシーフード創造研究会	代表	保健大	平成17年9月～随時	保健大、他県内	県内企業(研究成果を活用した製品開発)	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	ガマズミ活用研究会	代表	保健大、県	平成19年11月～	保健大、他県内	県内企業（ガマズミを利用した製品開発・事業）	ガマズミ活用研究会のホームページ
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	知的財産管理体制構築セミナー	運営	保健大	平成19年9月25日	保健大	教職員	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	医療健康福祉ビジネスサロン	講師	青森県新産業創造課	平成19年10月26日	八戸市	企業、生産者、一般市民	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	地域産業活性化に向けた異業種交流会	講師	八戸インテリジェントプラザ	平成20年2月18日	八戸市	企業、研究機関	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	健康博覧会2008	出展者	CMPジャパン株式会社	平成20年2月27～29日	東京国際展示場	企業、研究機関、一般	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	ガマズミ活用研究会・ガマズミ試作展示試食会	企画・コーディネーター	ガマズミ活用研究会、青森県新産業創造課	平成20年3月14日	青森市	企業、研究機関、一般市民	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	実用技術開発研究	研究代表	青森県立保健大学	平成19年4月～	青森県立保健大学	企業	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	健康科学特別研究	研究代表	青森県立保健大学	平成19年4月～	青森県立保健大学	企業	
3	人間	岩井 邦久	産官学連携	健康科学特別研究	研究分担	青森県立保健大学	平成19年4月～	青森県立保健大学	企業、研究機関	
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ビジネスサロン・ちょこっとコラム	執筆	青森県新産業創造課	随時	医療・健康福祉関連ビジネスサロン		
6	人間	岩井 邦久	情報発信	野老ってなあに？え、これって食べられるの？	解説・出演	RAB	平成19年4月15日	かっぱいのいったりきたり149回		
6	人間	岩井 邦久	情報発信	アピオス新製品発表	発表・取材	テレビ・新聞5社	平成19年5月31日～			
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ新製品発表	発表・取材	テレビ3社、新聞6紙	平成19年7月24日～			
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ナガイモ	取材	祥伝社	平成19年8月16日	からだにいいこと10月号		
6	人間	岩井 邦久	情報発信	青森県立保健大学・健康志向食品開発後押し	取材	日本経済新聞	平成19年8月21日	日本経済新聞朝刊・39面		
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ	取材	NHK	平成19年10月12日	NHKおはようごっぽん・まちかど情報		
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ活用研究会発足会	取材	テレビ2社、新聞2紙	平成19年11月12日			
6	人間	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ試作展示試食会	取材	NHK	平成20年3月14日	NHKニュース		
7	人間	岩井 邦久	外部委員・学会活動	あおもり地域産業総合支援会議	新事業推進員	財団法人21あおもり産業総合支援センター				
7	人間	岩井 邦久	外部委員・学会活動	日本未病システム学会	評議員	平成17年～				
7	人間	岩井 邦久	外部委員・学会活動	日本栄養・食糧学会、他6学会	会員					
7	人間	岩井 邦久	外部委員・学会活動	学術雑誌	査読委員	American Chemical Society, 他	J. Agric. Food Chem. 誌, 他6誌			
5	人間	森永 八江	地域交流	調査研究	調査員	五所川原市、健康寿命アッププロジェクトリスク解析研究班	平成19年5月9、11日	住民基本健診会場	五所川原市住民基本健診受診者	
5	人間	森永 八江	地域交流	三戸町幼児育成連絡協議会「子どもの生活リズムと健康」～特に食育について	講師	三戸町幼児育成連絡協議会	2007/5/19	三戸中央公民館	三戸町幼児育成連絡協議会員	
5	人間	森永 八江	地域交流	黒石市健康教室	栄養指導	黒石市健康福祉課	平成19年7月～10月の毎月2回	スポカルイン黒石、産業会館	黒石市の住民	
5	人間	森永 八江	地域交流	佐井村健康フェア	栄養指導	佐井村	2007/7/27	佐井村アルサスしおさいホール	佐井村の住民	
5	人間	森永 八江	地域交流	ごしょがわら産業まつり	栄養指導	ごしょがわら産業まつり運営委員会	2007/10/21	克雪ドームBIG	五所川原市の住民	
5	人間	森永 八江	地域交流	いただきます！あおもり食育県民大会	展示ブース	青森県、青森県食育推進会議	2007/11/3	青森県立保健大学	青森県民	
5	人間	森永 八江	地域交流	学校保健委員会事業	講師	小柳小学校	2007/11/22	小柳小学校	小柳小学校の児童、保護者、教員	
5	人間	森永 八江	地域交流	産業看護者研修・「職場でできる効果的な栄養指導 食事バランスガイドの使い方について」	講師	青森産業保健センター	2008/2/19	青森産業保健センター	産業看護者	
4	人間	メリッサ 小笠原	国際交流	Aomori Prefectural High School Visits	English Teacher		2007	Aomori Nishi High School, Hirosaki High School, Hachinohe Nishi		
1	教育センター	川内規会	生涯学習	平成19年度青森県手話通訳問題研究会講座	講師	青森県手話通訳問題研究会	平成19年4月8日	青森県聴覚障害情報センター	青森県手話通訳士	
1	教育センター	川内規会	生涯学習	五所川原市女性再チャレンジ事業コミュニケーション講座	講師	五所川原市女性再チャレンジ実行委員会	平成20年1月31日	五所川原地域職業訓練センター	一般市民・県民	

平成19年度 地域貢献活動実施状況報告書

分類番号	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
1	教育センター	川内規会	生涯学習	五所川原市女性再チャレンジ事業 コミュニケーション講座	講師	五所川原市女性再チャレンジ実行委員会	平成20年2月1日	金木公民館	一般市民・県民	
1	教育センター	川内規会	生涯学習	2007年度第4回市民講座	講師	心がかようコミュニケーションを考える会	平成19年2月17日	青森県立保健大学	一般市民・県民	
2	教育センター	川内規会	人材育成	青森産業保健推進センター 産業 看護者研修会	講師	労働者健康福祉機構 青森産業保健 推進センター	平成19年7月27日、8月10日	青森	産業看護者	
2	教育センター	川内規会	人材育成	平成19年度中部上北2町介護支援 専門員研修会	講師	七戸町健康福祉課	平成19年12月20日	東北町保健セン ター	介護支援専門員・在宅介 護支援センター職員	
2	教育センター	川内規会	人材育成	救急看護認定看護師フォローアッ プセミナー	講師	青森県立保健大学健康科学教育セン ター	平成20年3月6日	青森県立保健大学	救急看護認定看護師教育 課程修了者	
4	教育センター	川内規会	国際交流	2007年度あおもり地球市民講座	講師	青森県立保健大学健康科学教育セン ター国際科・JICA共催	平成19年11月10日	青森県立保健大学	一般市民・県民	
4	教育センター	川内規会	国際交流	留学生対象日本語支援クラス	講師	青森県立保健大学健康科学教育セン ター国際科	平成18年4月10日から平成 20年3月10日まで	青森県立保健大学	留学生	
4	教育センター	川内規会	国際交流	Safty Promotion視察	通訳	CSP/Prof. Leif Svanstrom	平成19年9月27日	青森県立保健大学	学生・一般	
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	文部科学省後援・実用英語技能検 定試験	二次試験 (英語) 面接委員	日本英語検定協会	第1回平成19年7月13日 第2回平成19年11月16日	青森山田高等学校	一般市民	
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	青森産業保健推進センター産業保 健相談員	特別相談 員	労働者健康福祉機構 青森産業保健 推進センター	平成19年4月1日から平成20 年3月31日		産業保健関係者	
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	日本コミュニケーション学会	理事・監 副支部 長、大会 実行委員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	日本コミュニケーション学会東北 支部(CAJ)						
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	国際コミュニケーション科学学会 (IACS)	会員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	異文化コミュニケーション学会 (SIETAR)	会員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	Pacific and Asian Communication	会員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	日本セーフティプロモーション学 会	会員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	心がかようコミュニケーションを 考える会	運営委員					
7	教育センター	川内規会	外部委員・学会活動	日本国際文化交流クラブ(IJCE)	理事					
3	研究センター	駒田亜衣	産官学連携	健康寿命アッププロジェクト	スタッフ	青森県立保健大学・五所川原市役所	平成19年5月7日、平成19年 5月8日、平成19年6月8日、 平成19年7月2日、平成19年 7月5日、平成19年7月18日	青森県五所川原市 内・健診センター	五所川原市 基本健康診 査受診者	
3	研究センター	駒田亜衣	産官学連携	健康寿命アッププロジェクト	スタッフ	青森県立保健大学・黒石市役所	平成19年7月6日、平成19年 7月20日	青森県黒石市・市 役所	黒石市 健康教室参加者	
3	研究センター	駒田亜衣	産官学連携	健康寿命アッププロジェクト	スタッフ	青森県立保健大学・佐井村	平成19年7月26～27日	青森県佐井村	佐井村 健康教室参加者	
4	研究センター	駒田亜衣	国際交流	JICA青森 役員会	委員	青森県国際交流協会 AOCA	平成19年4月14～15日	青森県弘前市	AOCA会員	
4	研究センター	駒田亜衣	国際交流	地球のステージ内・JICAブース	スタッフ	青森県国際交流協会 AOCA	平成19年5月30日	青森県立保健大学	「地球のステージ」参加	
8	研究センター	駒田亜衣	その他	料理教室	講師	青森県立保健大学	平成19年4月14～5月16日	青森県立保健大学	青森県立保健大学 学 生・教職員	

平成19年度青森県立保健大学公開講座実績

1 基本テーマ：「生活と健康」

2 会場：第1回～第4回、青森県立保健大学 講堂 第5回、むつ市（下北文化会館）

3 開催日時、講師及びテーマ等

回	日時	時間	講師		テーマ
第1回	6月 2日 (土)	14:05- 15:05	人間総合科学 科目	准教授 佐藤 伸	高血圧と活性酸素と食べ物のお話 ー食べ物で高血圧を予防！小豆を例にー
		15:20- 16:20	人間総合科学 科目	教授 嵯峨井 勝	脳卒中、心疾患、がんを予防するために ～原因の活性酸素を消す野菜・果実のすすめ～
第2回	6月 16日 (土)	14:05- 15:05	看護学科	講師 鄭 佳紅	かしこい病院のかかり方
		15:20- 16:20	社会福祉学科	講師 齋藤 史彦	少年非行への福祉施策 ー自立支援を中心にー
第3回	6月 30日 (土)	14:05- 15:05	社会福祉学科	講師 盛田 寛明	訪問リハビリテーションの実際
		15:20- 16:20	看護学科	講師 坂本 裕子	手術後の一過性の認知障害をご存知ですか
第4回	7月 14日 (土)	14:05- 15:05	看護学科	講師 木村 恵美子	手術後に起こるむくみ改善のケア ーリンパドレナージー
		15:20- 16:20	社会福祉学科	教授 大山 博史	地域で支える心の健康 ーストレス・うつ予防ー
第5回	7月 28日 (土)	13:05- 14:05	理学療法学科	准教授 勘林 秀行	障害がある人の生活とリハビリテーション
		14:20- 15:20	看護学科	教授 深谷 智恵子	入院期間短縮の陰で ー手術療法と早期回復のための看護ー

* 本学では、地域貢献活動における生涯学習として、一般の県民を対象とした、「公開講座」（基本テーマ「生活と健康」）を、本学において4回、むつ市において1回の計年5回開催しています。

（本学における「地域貢献」とは、「学生」に対する教育活動以外に、地域とともに行う研修、委員会、共同研究その他の「教員」の活動をいいます。）

深谷 智恵子

テーマ:「入院期間短縮の陰で—手術療法と早期回復のための看護—」

1. はじめに

心臓や脳などの生命維持に関連する器官や臓器の手術療法が日常的に行われるようになって半世紀程度のところである。手術療法というものは、手術の手法はもちろんのこと、手術前、手術中、手術後の患者の全身をケアする技術も同時に発展して、初めて成功するものである。

手術後、早期に回復するためには、手術前から合併症を予測した準備が重要である。

また、今日では低侵襲性手術として、手術部位の縮小化が試みられ、回復も早く入院期間短縮につながっている。

しかし、今まで手術対象にならなかった高齢者や重症患者にも手術療法が行われるようになり、合併症が発症することを前提に術後ケアを行っていかねばならない現状もある。

一般的な手術療法の流れと合併症の予防、早期回復に向けての看護の取り組みについて紹介する。

2. 手術療法の流れと看護

手術前

- 1) 病気の診断、治療法の選択、手術療法に関する説明を聞く患者・家族としての心の持ち方などについて
- 2) 患者の不安の軽減のために医療者（看護師、麻酔医、担当医）が行っていることについて
- 3) 手術前に行われる検査について
- 4) 手術後の早期回復に向けて手術前から備えておくことについて

手術中

- 1) 全身麻酔について
- 2) 手術によって体内に挿入されるチューブ類について
- 3) 手術中患者の安全のために行われていることについて

手術後

- 1) 手術後の状態が不安定な時期を無事に乗り越えるように医師や看護師が行うことについて（呼吸、血圧、尿量、疼痛の観察）
- 2) 手術後合併症の予防について（呼吸障害予防、

感染予防、深部静脈血栓予防）

高齢者の場合、肥満者の場合、長期喫煙者の場合

3) 早期離床の意義について

長期臥床による廃用萎縮によって起こる弊害
早期離床実現のための看護師の支援と患者の協力の必要性

3. 手術療法の縮小化の現状

医療機器の開発、医療技術の進歩によって、胸腔鏡下、腹腔鏡下、内視鏡による切除術が行われるようになり、手術層が縮小し、患者の身体的侵襲が少なくなった。身体の回復も早く、社会復帰も早くなっている。しかし、手術瘡が小さいということは目視や触感で情報を得ることが困難であり、画像によりそれを補わなければならない。そのことを踏まえて、医師や看護師は、手術後の観察を丁寧に行っている。

4. おわりに

手術療法がどのような手順で行われ、早期回復に向けて医師や看護師が行うことに加えて患者自身が行わなければならないことについても説明した。手術が縮小化しているとはいえ、全く侵襲を与えない手術はなく、そういう意味で慎重に行われるべきであり、患者も理解している必要性を伝えた。

木村 恵美子

テーマ:「手術後におこるむくみ改善のケア—リンパドレナージ—」

「リンパ浮腫」とは、リンパ経路に何らかの障害が起こり、リンパ液のうっ滞が生じておこる慢性的なむくみのことである。日本において、がんの手術時に行なわれるリンパ節郭清が主な原因となっている。2005年現在でリンパ浮腫患者は先天性・続発性を合わせて12-15万人と言われ、世界的にみると2億5千万人いる。

一般的なむくみは、いわゆる全身性浮腫であり下肢の両側に現われ、基礎疾患の治癒に伴って治る。しかし、リンパ浮腫は、病期(0-3期)に分けることができ、朝起きるとむくみが治っている段階から、象皮症の症状になるまでといった慢性的な経過を辿り、完治はせず、継続的なケアが必要になる。

リンパ液とは、蛋白質、白血球などの細胞、水分などである。このリンパ液を運ぶリンパ系の役割は、末梢組織に溜まっている静脈では回収されない蛋白

質を輸送して静脈に戻し、組織間隙にある余剰の水分を回収し、腸管から吸収された脂肪を運んだり、皮膚直下では外的侵入物に対して免疫機能を発揮するということである。リンパ浮腫になるとこれらが皮下にたまってしまうため、むくむのである。

このリンパ浮腫に対しては、現在複合物理療法(Complex Decongestive Physiotherapy:CDP)が最も有効とされている。CDPとは医療徒手リンパドレナージと運動療法、圧迫療法、皮膚のケアを患者の症状に合わせて適切に組み合わせて行なう方法である。特にリンパドレナージは、1秒に1回のゆっくりした早さで、極軽い圧で、リンパ管の弁の向きを考えながら、健全なリンパ節のある方へと誘導する手技である。この柔らかなタッチは、リンパ液をドレナージするだけでなく、非常に安楽をもたらすということで緩和ケアにも応用されている。リンパ浮腫ケアとしては今だ保険点数はなく、各地で自由診療となっているのが現状であるが、各医療機関では効果の検証を行っている。

手術した側の腕や脚がむくんできたら、強くもんだり、激しい運動をするなどの個人的なケアではなく、医療機関に相談して適切なケアを受けることが望まれる。

鄭 佳 紅

テーマ：「かしこい病院のかかり方」

病院にかかるときは、たいがい具合が悪い時であり、緊急を要する時である。つまり、元気な普段からはあまり「病院にかかる」ことを考えている人はあまり多くないだろう。しかし、困った時に、とっさにかかるとこからこそ、かしこく病院を利用したいものである。

国内の調査によれば、糖尿病、高血圧、がんなどの代表的な病気の年齢区分ごとの受療率や、自覚症状と通院率などから、加齢とともに病院の受診は身近なものになっている。

一方、国の医療政策により、病院の機能分化が進んでいるが、実際に受診する側(利用者)にしてみれば、なにを基準に病院を選ぶのかは定まっていない。そこで、保健医療福祉関係施設も含めて、病院の機能について概説し、青森県が取り組んできた「包括ケア」や「橋渡しナース」の考え方についても紹介した。

また、実際に用いられている情報源としてインター

ネット上のサイト、病院の看板(広告可能内容)の説明を行った。

そして、病院にかかる際の心構えとして、あらためて「患者の権利」や「インフォームド・コンセント」について説明を加えた。

病気になることは、あまり想定したくないことではあるが、普段から「具合が悪くなったら」「病気になったら」「身体に不自由が生じてきたら」「身の回りのことが自分だけでできなくなったら」を考えておくことは大切なことであり、さらに、家族で話し合っておくことは重要なことである。

病院にかかる前、病院にかかっている間、病院にかかった後も含めて、知っておく必要があること、考えておく必要があることについて、あらためて論じた。

理学療法学科

勘 林 秀 行

テーマ「障害がある人の生活とリハビリテーション」

リハビリテーションという言葉は、今や誰もが知っていることばになっている。しかし、その意味はとかく、スポーツ選手の治療や脳卒中の人の歩行訓練といった一面的なものとしてとらえられることが多い。本来その目指すものは「全人的復権」でありQOLの実現であることを認識すべきである。

このような観点から、まずリハビリテーションの意味を解説した。次に、健康増進、介護予防、医療の効率化と少しずつ改変されてきている諸制度についても触れ、リハビリテーションが本来もつ意味がますます重要になっていることについて述べた。

障害のある人が地域で生活するための制度として、高齢者については介護保険制度が普及し、障害者に対しては障害者自立支援法が整備されつつある。しかし、現場ではしばしばサービスを単にあてはめる場面に出くわす。これらの制度導入の本来の目的はまさに「全人的復権」であり、いずれの制度もその法律の冒頭でそのことが述べられている。

私は地域で生活している障害のある人々を支援してきた。その中でも今回、障害が極めて重度でありながら多くの人に勇気と感動を与え、生き生きと生活されている方とその家族を紹介し、リハビリテーションの考え方とその重要性について述べた。

盛田 寛明

テーマ：「訪問リハビリテーションの実際」

本講演では、理学療法士が行う訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）の実際として、具体例や実証的研究の紹介を交えつつ、利用者のQOL（生活の質）を最大限に高める取り組みを解説した。

訪問リハビリテーションは、決して、マッサージのみ、というような内容ではなく、リハビリテーションの側面から、対象者の生活そのものを支援する利用価値の高いものである。さらに、公的制度であるため、日本国民ならば原則的に誰でも利用可能な資源である。

訪問リハの対象者は、病気・怪我・老化などにより、生活機能が低下した者あるいは低下の可能性がある者のうち、外出が困難な者や在宅生活上何らかの問題がある者、および家族などの介護者である。訪問リハの実施内容は、対象者および対象者を取り巻く環境への対応がある。対象者へのアプローチとして、身体機能・動作能力・心理要因に配慮する。身体機能は、筋力・関節可動域・運動感覚麻痺・疼痛・姿勢動作バランス・体力持久力など、動作能力は、基本的動作・日常生活活動・応用動作などがアプローチ対象になる。さらに、廃用症候群の予防が訪問リハの目的の一つとなる。環境へのアプローチとしては、介護者などの人的環境、あるいは家屋状況や使用する道具などの物的環境が含まれる。

実際のケースおよび実証的研究の紹介を通して訪問リハの内容・必要性を解説した。事例①では、対象者の身体機能や介護者へのアプローチ、および効果的な用具（装具）の使用が、動作能力の向上、介護負担の軽減、障害（腰痛）予防につながる効果について説明した。事例②では、住宅環境改善・調整および身体機能へのアプローチと、動作能力向上および障害予防（転倒予防）との関連性について述べた。事例③では、物的環境の改善・調整を正しく行った場合に期待できる即時的効果について説明した。また、演者らが実施した、構造方程式モデリングによる心理要因と動作自立度との双方向因果分析および身体機能・環境要因から心理要因を介する動作能力への影響、さらに訪問リハの効果に関する7年間にわたる縦断的研究結果などを提示し、訪問リハの有効性について述べた。

最後に、訪問リハを実際に利用する場合の社会保障制度の仕組み、および訪問リハにおける理学療法

士の役割として、生活の一部を取り戻す「再構築」、あるいは新しい関係や生活の「創造」などの生活の質を支えることが求められていることについて概説した。

社会福祉学科

大山 博史

テーマ：「地域で支える心の健康—ストレス・うつ予防—」

現代社会は様々な側面で変化が著しく、大きなストレスを引き起こしている。ストレス状態は物理化学的ストレスや心理社会的ストレスにより生じるが、現代では後者の関与が大きい。心理社会的ストレスは主にライフイベントとデイリーハズルズから構成されている。主要なストレス対策には、ストレスの自己評価、リラクゼーションなどによるセルフケア、職場や家庭におけるストレス緩和の工夫などを挙げることができる。一方、ストレス状態が持続すると、様々な心身疾患を引き起こす。ストレスと関連の深い精神障害の一つにうつ病がある。うつ病の生涯罹患率は7%程度と高く、多くの事例では発症の契機にストレスが関わっている。うつ病には有効な治療法があり、多くの事例では予後も良好であるが、治療が不十分な場合には、再発や自殺のリスクが高まる。うつ病では絶望感や意欲低下などが生じるため、本人のセルフケアや援助を求める能力が低下することが多い。それゆえ、うつ病の早期発見のためには、本人のみならず、周囲の者の「気づき」が重要な役割を果たす。

近年、我が国で社会問題化している自殺は、その多くの事例で自殺へ至る経過の途上に、うつ病が関与していることが明らかにされている。最近、保健・医療・福祉の連携による地域介入によるうつ病対策が、地域の自殺予防に有効であることが実証された。我が国では、主として高齢者を対象に、地域介入による自殺予防プログラムに関するエビデンスが集積されつつある。その成果は、①一次予防として啓発・健康教育を実施し、二次予防としてうつ状態スクリーニングと精神科的治療管理によるフォローアップを実施すると、65歳以上自殺死亡率が男女とも介入前の1/4まで減少する、②一次予防として啓発・健康教育や集団援助を実施し、二次予防としてうつ状

態スクリーニングと、一般医によるフォローアップを実施すると、同死亡率が女性で 1/4 まで減少し、また、男性で 3/4 まで減少する可能性がある、③二次予防は行わず、一次予防として啓発・健康教育と集団援助のみを実施すると、同死亡率が女性のみ 1/4 まで減少する可能性がある、とする知見にまとめられる。

地域で自殺率低減効果を得るためには、上記の地域介入を 5 年以上継続することが必要であるが、スクリーニングは 3~5 年に一度の実施でよい。スクリーニングの受診率は少なくとも 60%を必要とし、スクリーニング陽性者のうち、途中で脱落した者に対しては「見守り」が必要である。これらに対して、小地域ネットワーク、すなわち、地域福祉関係者やボランティアと保健・医療関係者が連携する住民組織化によって対処する方法がある。

齋藤 史彦

テーマ：「非行少年への福祉施策・自立支援を中心に」

児童自立支援施設や少年院を退所した非行経験を有する児童（以下、非行少年）の立ち直りには、結婚や仕事の安定といった強い社会的絆が重要であると指摘されている。

しかし、非行少年にとって自立の第一歩となる就労先確保は、かなり困難であることが知られている。非行少年のスムーズな就労と自立を実現するためには、彼ら自身に対する支援の充実とともに、彼らに対する社会的な理解も必要である。講座ではこうした考えのもと、児童福祉法と少年法に基づく支援内容を説明するとともに、青森県内の保護司の方に行った調査結果から非行少年に対する支援の現状について、青森県内の五所川原市および八戸市の企業を対象とした調査結果から、企業の非行少年の雇用に関する意識について簡単に報告した。

講座では自立について望月彰氏の概念を用い、経済的自立を基盤にしつつ、その上に社会的自立、さらにその上に精神的自立が位置する三層構造で捉えられること、加えて精神的自立は他の二つを貫き、支える支柱のような位置づけにあることを指摘し、非行少年の自立実現に向け、これら 3 つのレベルへの働きかけがなされていることを説明し、基盤となる経済的自立の重要性を説明した。また、彼らにとっての就労の重要性に関するデータとして、保護観察中の再非行・再犯により再処分を受けた者の比

率では、無職少年の 50%以上が処分を受けているのに対し、有職少年の場合には約 14%とその割合が低いことなどを紹介し、非行少年の改善更生を促すために、より一層の就労指導・支援の充実が必要であると説明した。

また、調査結果から非行少年の就労を困難にさせている理由を 3 点指摘できると考える。1 つは社会全体の雇用が冷え込んでいること、2 つめは非行少年自身に関わる課題である。具体的には、彼らの中に就労や仕事に対する動機付けや責任感が低い者がおり、短期間で仕事を辞めてしまうことなどが、企業の彼らに対する雇用意欲を低下させていると思われる。3 つめは協力雇用主制度などの就労に有効な制度が十分活用されていないことである。

非行少年の就労支援においては、協力雇用主制度のより積極的な周知と活用が必要であるとともに、企業が雇用の際に重視する責任感や動機付け等について少年院や児童自立支援施設に入所している間にそれをどのように身につけられるよう支援するかが課題であると考えられる。

人間総合科学科目

佐藤 伸

テーマ：「高血圧と活性酸素と食べ物のお話 — 食べ物で高血圧を予防！小豆を例に —」

血圧が上昇するには様々な要因があるが、活性酸素もその 1 つである。そこで、活性酸素は血圧上昇にどのような影響を及ぼすかを示し、ポリフェノールを含む小豆を例にして食べ物で高血圧を予防することはできないかを解説した。

1) 心疾患を招く要因について

心疾患を招く遺伝的要因と環境的要因との間の相互作用について述べた。環境的要因では、食事のバランス、喫煙、運動、ストレスなどがある。そのリスク要因としては、高血圧、糖尿病、肥満、加齢、遺伝的背景などがあり、これが動脈硬化につながり、心筋梗塞、脳梗塞や慢性腎症などを引き起こすことになる。

2) 高血圧と活性酸素

活性酸素種は、高血圧、糖尿病、高脂血症等の生活習慣病をはじめ、老化などに影響を与えることが知られている。高血圧状態では活性酸素種の 1 つであ

るスーパーオキシドが NAD(P)H オキダーゼという酸化酵素により産生され、血管内皮機能異常、炎症細胞の活性化、肥大、血栓などを引き起こし、その結果として動脈硬化の進展に深く関与している。また、スーパーオキシドは血管の拡張作用、抗血栓作用などをもつ一酸化窒素と容易に結合し、血圧を上昇させる。もし、抗酸化能をもつ食べ物でスーパーオキシドを除去することが出来れば、血圧上昇を抑制できるのではないかと考えた。

3) 小豆と高血圧 (研究の紹介を含めて)

小豆は日本人には昔から馴染みの食べ物で、健康によいと言われてきた。ポリフェノールを含み、体内に発生した活性酸素を除去する働きがある。そこで、小豆ポリフェノールが血圧上昇を抑制するかを調べるために、高血圧モデルラットに投与した。その結果、血圧上昇の抑制を見出した。活性酸素を除去する食べ物には、小豆のほかにも、ブロッコリー、タマネギ、リンゴ等があり、ケルセチンやケンフェロールというポリフェノール類が含まれている。

最後に、ルネサンス時代の医師パラケルススの言葉を紹介した。すなわち、「すべてのものは毒であり、毒とならないものはない。毒でなくするものは、ただ量だけである」。健康によさそうだからといって、それだけを積極的に食べるというのはいかかなものか。パラケルススの言葉を借りると、どのくらいの量を食べるかが問題であり、たとえ血圧上昇を抑制する食べ物であれ、さまざまな食品を組合せバランス良く食べることが大切であるといえよう。

研究施設、設備備品などの整備状況

研究施設・設備備品などの整備状況

看護学科

竹森 幸一

研究実験室 3

島津シーケンシャル形高周波プラズマ発光分析装置 (ICPS-7000)

生化学自動分析装置 (バイエル エクスプレスプラス)

自動蛍光光度計 (カイロン 480)

自動分注装置 (ニチリョー NSS1000 II Basic)

海外研修記録

海外研修記録

看護学科

1) 上泉 和子

【会議名】 11th. National Magnet Conference.
(American Nurses Credentialing Center)

【期間】 October 3-5, 2007.

【国名】 米国 アトランタ

2) 大津 美香

タイトル Wandering behavior in elderly people with Alzheimer's Disease in relation to the degree of impaired cognitive function

発表者 Haruka Otsu¹, Shigeko Takayama², and Yoko Watanabe³

¹: 青森県立保健大学, ²: 神戸市看護大学, ³: 県立広島大学

会議名 23rd Conference of Alzheimer's Disease International

期間 2007年10月10日~2007年10月12日.

国名、都市名 Caracas, Venezuela

3) 其田 貴美枝

Kimie Sonota¹, Keiko Ishinabe¹, Yoshiko S.L¹, Yuki Nakayama², Sawako Kawamura¹:
Investigation of factors promoting and inhibiting the use of a communication aid among ALS patients receiving homecare: Based on a comparison with urban areas, The 3rd Annual ALS/MND Nursing Symposium, October 4-6, 2007, Radisson Hotel and Suites, Chicago, IL, USA

¹. Aomori University of Health and Welfare

². Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience
Dep. of Nursing Research for Intractable Disease
出張費: 35万円

4) 山田 典子

【目的】 児童虐待に対するケアと連携

【期間】 2007年4月28日~2007年5月6日

【成果】 カリフォルニア州サクラメント市の福祉事務所と児童精神総合ケアセンター所長メイリン.S. ペーターソン博士より、支援プログラムについて情

報提供を受けた。

【出張先】 米国カリフォルニア州立大学デイビス校
他

【目的】 国際学会発表

【期間】 2007年11月20日~2007年11月23日

【成果】 アジアセーフコミュニティ学術大会, Safe Thai'06,にて3題発表

【出張先】 タイ国バンコック市

【目的】 グローバリゼーションの加速と共に、先進国と途上国との間の格差が拡大していく中で、本学学生に対する紹介可能な海外研修の妥当性の検討のため。

【期間】 2008年2月26日~2008年3月1日

【成果】 サウスウエスタン大学で開講している英語研修の内容および施設と、現地にて視察可能な研修プログラムの探索。

【出張先】 フィリピン・セブ島 サウスウエスタン大学視察

理学療法学科

1) 岩月 宏泰

【目的】 学会発表

会議名 15th International WCPT Congress - World Physical Therapy 2007

【題名】 MORPHOLOGICAL EVIDENCE OF APOPTOSIS IN THE RAT KIDNEYS FOLLOWING STRENUOUS EXERCISE.

発表者: Hiroyasu Iwatsuki¹, Kazuhiko Shoumura², Takao Suzuki¹; ¹Aomori University of Health and Welfare, ² Hiroasaki University

【期間】 2007年5月31日~6月7日

【出張先】 カナダ (Vancouver)

2) 盛田 寛明

①【目的】 学会発表

タイトル: EFFECTS OF EXERCISE ON SELF-RATED

HEALTH IN RETIRED MEN IN JAPAN.

発表者: Hiroaki Morita and Hideki Sato

会議名: The World Confederation for Physical Therapy International Congress 2007

【期間】平成19年6月1日～6月8日

【出張先】Vancouver, Canada

② 【目的】学会発表

タイトル: EFFECTS OF LOW-FREQUENCY VISITING PHYSICAL THERAPY ON ACTIVITIES OF DAILY LIVING AND FAMILY RELATIONSHIPS OF SUBJECTS IN REHABILITATION-DEPRIVED REGIONS.

発表者: Hiroaki Morita, Hideo Ito, Yasuhiro Sakuragi, Sangun Lee, Hideyuki Kanbayashi, Keisuke Saito and Yoshinori Kanazawa

会議名: The World Confederation for Physical Therapy International Congress 2007

【期間】平成19年6月1日～6月8日

【出張先】Vancouver, Canada

3) 渡部 一郎

a. 学会発表 (韓国ソウルの第4回国際リハビリテーション医学会に4演題を発表した)

1. Ichiro Watanabe: The questionnaire survey of Japanese rehabilitation doctors in the therapist education. 4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
2. Ichiro Watanabe, Naoya Kishi : Thermotherapy on the neck improved the circulation of the hemi paralytic hands in stroke patients:4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
3. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The relationship between dietary habits and abdominal circumference in Japanese college students. 4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
4. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The

Dietary habits of the patients in rheumatoid arthritis and risks of metabolic syndrome.4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007

b. 国際科委員会として

1. フィリピンマダウエプロジェクトとセブ市のサウスウェスタン大学との大学交流の検討を進めた (2007.3.18-24、長門五城(理学)、山本加奈子(看護))
2. フィリピンマダウエプロジェクトとセブ市のサウスウェスタン大学との英語語学教育大学交流の検討を進めた (2007.8.7-12、川内(国際科)、山田(理学))

社会福祉学科

1) 千葉 たか子

① 【目的】科学研究費による研究のための調査活動

【期間】平成19年9月7日から14日

【出張先】インド国西ベンガル州農村

② 【目的】科学研究費による研究のための調査活動

【期間】平成19年12月24日から30日

【出張先】インド国西ベンガル州農村

③ 【目的】「平成19年度 青森とベンガルの幼児教育従事者による相互訪問2007年度プロジェクト」

【期間】平成19年8月15日から23日

JICAよりの補助金(30万円)を受けての事業

2) 齋藤 史彦

目的: ドイツ・デンマークにおける介護専門職制度に関する視察

期間: 平成19年4月17日(火)～4月27日(金)

出張先: 1) ドイツ (デュッセルドルフ)

① アルテンプフレーガー養成校

② 介護金庫 (MDK)

③ ノルトライン・ヴェストファーレン州政府行政機関

④ アルテンプフレーゲハイム (介護型有料老人ホーム)

2) デンマーク (スベンボー)

① 社会介護士養成学校

② 高齢者施設

3) デンマーク (コペンハーゲン)

- ① 教育省視察
- ② ペタゴーカーレッジ
- ③ ペタゴージスク大学
- ④ 社会ペタゴークー組合

人間総合科学科目

1) 長門 五城

【目的】 本学の国際協力及び国際交流活動に関する視察

【場所】 フィリピン共和国セブ市

【期間】 平成19年8月7日～12日

【主な訪問先】 マンダウエ中央学校、サウスウエストン大学、ハンセン病サナトリウム

健康科学教育センター

1) 川内 規会

【目的】 Philippines・Cebu Southwestern University 語学研修に関する調査

: 本学学生のS. W. U. における語学研修の可能性を判断するため、現地の英語語学教員から情報を得るとともに、学内の学習環境や学生の生活環境を視察し、より詳しい情報を得る。また、学生のフィールドワークとして現地で体験できるプログラム、施設等を視察し、その可能性を伝えるものである。

【期間】 2008年2月26日～3月1日

【出張先】 フィリピン国 (セブ市、マンダウエ市)

業 績 集

看護学科

1) 赤羽 衣里子

学会発表

工藤奈織美¹、赤羽衣里子²、藤田あけみ²、中村由美子²、三國裕子³、鳴海みどり³、工藤文子⁴、三上みどり⁴、西沢美子⁵：教科書の記述に見る家族看護—看護基礎教育に必要な家族看護の視点—。日本家族看護学会第14回学術集会。2007年9月1・2日。青森県立保健大学。青森市。日本家族看護学研究 Vol. 13/2. 2007.

¹：自治医科大学，²：青森県立保健大学，³：青森市立高等看護学校，⁴：弘前市医師会附属看護学校，⁵：弘前大学

2) 千葉 敦子

a 学術論文(原著)

1. 千葉敦子，山本春江，竹森幸一，工藤奈織美(自治医科大学)，浅田 豊，長谷川衣子，長谷川しぐれ(鶴田町役場)：健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索—減塩教室参加者の特性に関する検討—，青森保健大学雑誌，Vol.8, No.2, p.237-244, 2007.

2. 千葉敦子，山本春江，工藤奈織美(自治医科大学)，浅田豊，竹森幸一：健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索—減塩教室参加者の1年間の伝達状況—，日本ヒューマンケア科学学会誌，Vol.1, No.1, p.2-10, 2008.

3. 山本春江，千葉敦子，浅田豊，竹森幸一：シナリオ学習を用いた減塩教室における参加者から家族への教育効果の可能性，家族看護学研究，Vol.13, No.1, p.2-10, 2007.

b 総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

1. 千葉敦子，竹森幸一，山本春江，工藤奈織美，浅田 豊：TYA方式による健康教室参加者の学びと参加体験に関する現象の検討，日本健康教育学会誌，15(3)、156-166，2007.

2. 竹森幸一，山本春江，浅田 豊，竹森幸一，千葉敦子，工藤奈織美(自治医科大学)，三上聖治(弘前学院大学看護学科)：[論説]ブックレット「健康と

生活シリーズ」No.2, No.5, No.7の紹介，青森保健大学雑誌，Vol.8, No.2, p.295-302, 2007.

d 学会発表など

1. 千葉敦子，千葉恵津子，山本春江，李相潤，鎌田明美，工藤奈織美：職場における運動推進事業の波及効果に関する検討，日本公衆衛生学会，2007年10月25日，松山市，日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.300, 2007.

2. 千葉恵津子，千葉敦子，鎌田明美，山本春江，李相潤，工藤奈織美：職場における運動推進事業と主観的ストレスの関連，日本公衆衛生学会，2007年10月25日，松山市，日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.299, 2007.

3. 工藤奈織美，李相潤，山本春江，千葉敦子，千葉恵津子，鎌田明美：豪雪地における一般労働者の冬の身体活動量への影響要因，日本公衆衛生学会，2007年10月25日，松山市，日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.314, 2007.

4. 鎌田明美，工藤奈織美，千葉恵津子，千葉敦子，李相潤，山本春江：豪雪地における一般労働者の身体活動量と運動教室参加との関連，日本公衆衛生学会，2007年10月25日，松山市，日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.314, 2007.

5. 山本春江，李相潤，工藤奈織美，千葉恵津子，鎌田明美，千葉敦子：豪雪地における一般労働者の身体活動量と所属課の季節的関連，日本公衆衛生学会，2007年10月25日，松山市，日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.314, 2007.

6. 山本春江，千葉敦子，千葉恵津子，鎌田明美：積雪寒冷地における運動習慣形成と継続に関する検討(1)農村と都市との運動状況の比較から，第29回全国保健師学術研究会，2007年11月16日，大津市，第29回全国保健師学術研究会講演集，p.246-247, 2007.

7. 千葉敦子，山本春江，千葉恵津子，鎌田明美：積雪寒冷地における運動習慣形成と継続に関する検討(2)農村と都市との運動状況とストレスの関連，第29回全国保健師学術研究会，2007年11月16日，大津市，第29回全国保健師学術研究会講演集，p.248-249, 2007.

8. 山本春江，李相潤，千葉敦子，千葉恵津子：

職場の運動習慣における「支援的環境」の形成要因の検討, 第5回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会, 2007.

3) 藤井 博英

学術論文 (原著)

1) 看護系学生 (生徒) における携帯電話の利用とメリット・デメリットへの意識: 共著: 2007年2月: 弘前大学医学部保健学科紀要第6巻: p65-76

2) 看護教育研究 精神看護学における当事者参加型の授業効果: 共同: 2007年4月: 看護教育48巻4号: p348-353

3) そう痒感のあるキュウリローション使用による止痒効果との保湿作用の検証: 共同: 2007年10月: 日本看護技術学会誌6巻2号 p30-33

4) 統合失調症患者における精神科訪問看護受け入れ拒否の要因: 共同: 2007年12月: 日本看護学会論文集精神看護38号: p93-95

5) 臨地実習における看護学生へのハラスメントの実態 (第2報) 看護学生に対する調査: 共同: 2008年1月: 日本看護学会論文集看護教育38号: p311-313

6) 臨地実習における看護学生へのハラスメントの実態 (第1報) 看護学生に対する調査: 共同: 2008年1月: 日本看護学会論文集看護教育38号: p308-310

総説、論説、研究ノート、調査書、報告書

1) (解説) 看護研究の手順とスムーズに進めるためのコツ: 2007年1月: ナースセミナー: 28(1): p18-25

2) (解説) 看護ケアができる! 疾患別看護過程うつ病: 2008年1月プチナース17巻1号 p51-69

4) 藤田 あけみ

総説、雑誌など

・藤田あけみ: 大腸がん、プチナース、照林社、16(12)、51-71、2007.

・藤田あけみ: 成人看護学実習 消化管、ナーシングカレッジ、医学芸術社、11(4)、107-114、2007.

学会発表など

・工藤奈織美¹⁾、吉川由希子¹⁾、工藤文子¹⁾、三上

みどり¹⁾、鳴海みどり¹⁾、三國裕子¹⁾、赤羽衣里子¹⁾、藤田あけみ¹⁾、西沢義子¹⁾、中村由美子¹⁾: 教科書の記述に見る家族看護—看護基礎教育に必要な家族看護の視点—家族看護学研究第14回学術集会、2007年9月1-2日、青森県立保健大学、青森市。1) 青森県看護教育研究会家族看護グループ

・藤田あけみ¹⁾、吉川由希子²⁾、村松仁³⁾: 臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方—第1報 基礎看護学実習・成人看護学実習において—、第27回日本看護科学学会学術集会、2007年12月7-8日、東京国際フォーラム、東京。1) 青森県立保健大学、2) 札幌市立大学、3) 上武大学

・吉川由希子¹⁾、藤田あけみ²⁾、村松仁³⁾: 臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方—第2報 小児看護学実習・母性看護学実習において—、第27回日本看護科学学会学術集会、2007年12月7-8日、東京国際フォーラム、東京。1) 札幌市立大学、2) 青森県立保健大学、3) 上武大学

・村松仁¹⁾、吉川由希子²⁾、藤田あけみ³⁾: 臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方—第3報 老年看護学実習・精神看護学実習において—、第27回日本看護科学学会学術集会、2007年12月7-8日、東京国際フォーラム、東京。1) 上武大学、2) 札幌市立大学、3) 青森県立保健大学

5) 福井 幸子

a. 学術論文 (原著)

・木村恵美子¹⁾、小山敦代²⁾、角濱春美¹⁾、福井幸子¹⁾、秋庭由佳³⁾、上泉和子¹⁾、坂江千寿子⁴⁾、佐藤真由美¹⁾、藤本真記子¹⁾、杉若裕子 Chiu⁵⁾: 根拠に基づくイノベティブ看護技術(第1報)—国内文献からの抽出—、青森保健大学雑誌、8(1)、7-16、2007.

¹⁾: 青森県立保健大学、²⁾: 明治鍼灸大学、³⁾ 青森中央短期大学、⁴⁾ 茨城キリスト教大学、⁵⁾ カイザーパマネンテ・サンフランシスコ・メディカルセンター

・福井幸子¹⁾、木村恵美子¹⁾、角濱春美¹⁾、小山敦代²⁾、秋庭由佳³⁾、上泉和子¹⁾、坂江千寿子⁴⁾、佐藤真由美¹⁾、藤本真記子¹⁾、杉若裕子 Chiu⁵⁾: 根

拠に基づくイノベティブ看護技術(第2報)—看護技術の普及の実態—, 青森県立保健大学雑誌, 8(1), 17-26, 2007年

¹: 青森県立保健大学, ²: 明治鍼灸大学, ³: 青森中央短期大学, ⁴: 茨城キリスト教大学, ⁵: カイザーパマネンテ・サンフランシスコ・メディカルセンター

・福井幸子¹、大串靖子¹、小山敦代²、石鍋圭子¹: 看護基礎教育における「看護記録」に関する調査, 日本看護教育学会誌, 17(2), 21-30, 2007.

¹: 青森県立保健大学, ²: 明治鍼灸大学

c 書籍、単行本、教科書・参考書

・福井幸子¹: 看護ケアができる! 疾患別看護過程肺炎, プチナース: 16(7), 51-71, 2007.

¹: 青森県立保健大学

6) 早川 ひと美 一般発表など

早川ひと美¹、佐藤真由美¹、上泉和子¹、石鍋圭子¹、リボウィッツ志村よし子¹、益田早苗²、鄭佳紅¹、熊野則子³、木村香⁴: 新卒看護職育成のための、教育研修プログラムのあり方に関する研究 第1報、青森県保健医療福祉研究発表会、2007年2月、青森県立保健大学、青森市、青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、P.112~113

¹: 青森県立保健大学、²: 武蔵野大学、³: 元青森県立中央病院、⁴: 青森市立病院

佐藤真由美¹、早川ひと美¹、上泉和子¹、石鍋圭子¹、リボウィッツ志村よし子¹、益田早苗²、鄭佳紅¹、熊野則子³、木村香⁴: 新卒看護職育成のための、教育研修プログラムのあり方に関する研究 第2報、青森県保健医療福祉研究発表会、2007年2月、青森県立保健大学、青森市、青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、P.114~115

¹: 青森県立保健大学、²: 武蔵野大学、³: 元青森県立中央病院、⁴: 青森市立病院

早川ひと美¹、上泉和子¹、鄭佳紅¹、舘田菊子²、リボウィッツ志村よし子¹、細川満子¹: 青森県における包括ケアシステムの定着にむけて—医療機関における橋渡しナースの評価に関する研究—、第44回日本病院管理学会学術総会、2007年10月、横浜ロイヤルパークホテル、横浜市、病院管

理44(第45回日本病院管理学会学術総会演題抄録集)P.239

¹: 青森県立保健大学、²: 青森県健康福祉部

佐藤真由美¹、上泉和子¹、石鍋圭子¹、リボウィッツ志村よし子¹、益田早苗²、鄭佳紅¹、早川ひと美¹、木村香³:

¹: 青森県立保健大学、²: 武蔵野大学、³: 青森市立病院

7) 平尾 明美 誌上发表

・平尾明美: 咳・喀痰, 症状からみた看護過程の展開-病態生理とケアとポイント, 186-194, 2007, 医学書院, 東京.

・平尾明美: 血痰(喀痰), 症状からみた看護過程の展開-病態生理とケアとポイント, 195-199, 2007, 医学書院, 東京.

・平尾明美: 看護ケアができる! 疾患別看護過程心不全, プチナース, 16(9), 59-79, 2007.

・平尾明美: 胸部大動脈瘤で手術を受けた患者, ペーパーペイシエントから学ぶ 機能障害別看護ベーシックトレーニング, 93-99, 2008, メディカ出版, 大阪.

・中村恵子, 平尾明美, 藤井瑞恵, 神島滋子, 工藤京子, 三浦博美, 須田恭子: 救急部門勤務後2,3年目看護師の職場適応(適応力)と支援モデル構築に関する研究, 平成18年度から平成19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書 研究代表者中村恵子, 23-36, 2007年3月

・中村恵子, 平尾明美, 藤井瑞恵, 神島滋子, 工藤京子, 三浦博美, 須田恭子: 救急部門勤務後2,3年目看護師の職場適応(適応力)と支援モデル構築に関する研究, 平成18年度から平成19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書 研究代表者中村恵子, 64-68, 2007年3月

学会発表

・今明秀, 箕輪良行, 林寛之, 大庭正敏, 山田康雄, 北川善己, 平尾明美, 中村恵子: 救急医療の標準化の普及に向けて私たちの果たすべき役割は? 二次病院対象の外傷診療標準化コースと看護師コース, 第10回日本臨床救急医学会, 2007年5月17日18日, 神戸市国際会議場, 日本臨床救急医学会雑誌, 10(2), 163.

・平尾明美, 三浦博美, 中村由美子, 太田美子, 加藤美香子, 川浪学子: 救急看護師への電話トリアージ教育に関する研究第9回日本救急看護学会学術集会, 2007.11月9日10日, ホテル阪急エキスポパーク, 日本救急看護学会雑誌, 日本救急看護学会雑誌, 9(2), 152.

・平尾明美, 中村恵子, 三浦博美, 神島滋子: 看護師の職場適応に関する研究 救急部門勤務看護師の卒後3年目までの体験とその適応, 第9回日本救急看護学会学術集会, 2007.11月9日10日, ホテル阪急エキスポパーク, 日本救急看護学会雑誌, (2), 183.

・神島滋子, 中村恵子, 平尾明美, 三浦博美: 看護師の職場適応に関する研究 救急部門勤務看護師の卒後2年目までの体験とその受け止め, 第9回日本救急看護学会学術集会, 2007.11月9日10日, ホテル阪急エキスポパーク, 日本救急看護学会雑誌, 9(2), 200.

8) 本間 ともみ

a. 学術論文 (原著)

1) 鳴井ひろみ¹, 本間ともみ¹, 三浦博美¹, 井澤美樹子¹, 吹田夕起子¹, 出貝裕子², 中村恵子³: 代替療法を取り入れるがん患者の医療者への相談状況と期待. 青森県立保健大学雑誌, 8 (1), 53-62, 2007.

¹: 青森県立保健大学健康科学部看護学科, ²: 八戸市立市民病院, ³: 札幌市立大学看護学部看護学科

d. 学会発表

1) 平典子¹, 鳴井ひろみ², 本間ともみ²: プレゼンスが生じる要因とその成果—緩和ケアにおける家族の体験から—第22回日本がん看護学会学術集会, 2008年2月9-10日, 名古屋国際会議場, 名古屋, 第22日本がん看護学会学術集会講演集, 219, 2008年

¹: 北海道医療大学, ²: 青森県立保健大学

2) 鳴井ひろみ², 平典子¹, 本間ともみ²: プレゼンスが生じる要因とその成果—緩和ケアにおける患者の体験から—第22回日本がん看護学会学術集会, 2008年2月9-10日, 名古屋国際会議場, 名古屋, 第22日本がん看護学会学術集会講演集, 218, 2008年

¹: 北海道医療大学, ²: 青森県立保健大学

9) 細川 満子

総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

・福井幸子, 細川満子, 泉美紀子: 訪問看護におけるスタンダードプリコーション遵守に関する検討, 平成18・19年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書, 2007.

講演など

・青森県看護協会主催: 訪問看護師養成講習会「訪問看護展開論」講師: 青森県福祉プラザ, 平成19年7月1日.

・青森県介護支援専門員協会主催: 平成19年度青森県介護支援専門員更新研修・専門研修講師, ユートリー, 八戸市, 平成19年7月10日.

・青森県看護協会主催: 平成19年度保健師助産師看護師実習指導者講習会「実習指導方法(在宅)」講師, 青森県福祉プラザ, 平成19年9月3日.

・青森県訪問看護協議会東青支部主催: 青森県訪問看護協議会東青支部研修会「訪問看護記録について」講師, 青森県福祉プラザ, 平成19年10月18日.

・青森県立保健大学健康科学教育センター主催: 平成19年度社会福祉主事資格認定講習会「介護概論」講師: 青森県立保健大学, 青森市, 平成19年11月5日.

・上北地域県民局(上十三保健所)主催: 平成19年度ケアプラン作成研修会講師: 十和田市東公民館, 十和田市, 平成20年2月27日.

学会発表など

・細川満子, 石鍋圭子, 三津谷恵: 青森県下北地域における地域包括ケア推進へ向けた青森県立保健大学の活動, 2007年10月27日, 第47回全国国保地域医療学会, 抄録集, p. 212, 2007.

・細川満子, 工藤奈織美(自治医科大学), 三津谷恵, 山本春江: 退院後の療養者の生活状況調査からみた回復期病院の退院支援の課題, 2008年3月16日, 2007年度日本在宅ケア学会学術集会, 講演集, p.117, 2008.

・工藤奈織美(自治医科大学), 山本春江, 工藤奈織美, 細川満子, 三津谷恵: 在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題—第1報: インタビュー調査による発症から在宅療養に至るまでの経過から, 2008年3月15日, 2007年度日本在宅ケア学会学術集会, 講演集, p.84, 2008.

・三津谷恵, 細川満子, 山本春江, 工藤奈織美(自

治医科大学)：在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題—第2報：インタビュー調査による在宅療養の現状から，2008年3月15日，2007年度日本在宅ケア学会学術集会，講演集，p.85，2008.

・細川満子，三津谷恵，山本春江，千葉敦子，山田典子，他：在宅看護実習前に学生が身につけておくべき実習態度（第2報）—教員のアンケート調査からの検討—，2008年3月8日，平成19年度青森県看護教育研究会誌，p1-5，2008.

10) 石鍋 圭子

学術論文

・井澤美樹子，村岡宏子，細川満子，石鍋圭子：2.境界型（IGT/IFG）の成人男性における受診中断に至った経験の意味づけ，日本糖尿病教育・看護学会誌11(1)，19-27，2007.

・塗谷智子，石鍋圭子：造血幹細胞威力患者の無菌室入室前後のQOL変化に関する検討，日本ヒューマンケア科学学会誌1(1)，P43-54，2007.

学会発表など

・今城博子，石鍋圭子：回復期リハビリにおける脳卒中患者の主体性発揮に関する研究，第6回日本リハビリテーション看護学会，2007年11月，青森。（青森県立保健大学）

総説

・石鍋圭子：リハビリテーション看護に求められる専門性とは，リハビリナース1(1)，2008年1月.

報告書

・川村佐和子（主任研究者），石鍋圭子，紙屋克子，川口有美子，佐藤美穂子，田中雅子，小倉朗子：在宅重度障害者に対する効果的な支援の在り方に関する研究，障害保健福祉総合研究事業平成19年度 総括・分担研究報告書，1-272，008年3月.

・川村佐和子（主任研究者），石鍋圭子，紙屋克子，川口有美子，古和久幸，佐藤美穂子，田中雅子，島崎謙治，小倉朗子：在宅重度障害者に対する効果的な支援の在り方に関する研究，平成17年～19年度厚生労働省科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）研究報告書，1-8，2008年3月

11) 伊藤 治幸

報告書

1) 藤井博英¹⁾、貴田岡博史²⁾、坪井ふみ子²⁾、島山なを子²⁾、大村義一郎²⁾

柏葉英美³⁾、田子内紀子⁴⁾、伊藤治幸¹⁾、角濱春美¹⁾：そう痒感患者へのキュウリローション塗布効果の検証—皮膚表面pH正常化と睡眠効果—、健康科学指定研究報告書、2008.

1) 青森県立保健大学、2) 岩手県立遠野病院、3) 岩手県立二戸高等看護学院、4) 岩手県立久慈病院

2) 藤井博英¹⁾、角濱春美¹⁾、清水健史¹⁾、伊藤治幸¹⁾、成田博史²⁾：効果的な訪問看護システムの検証—精神科訪問看護アウトカム尺度の妥当性の検討—、健康科学特別研究報告書、2008. 1) 青森県立保健大学、2) 青森県立つくしが丘病院

12) 角濱 春美

学術論文（原著）

総説・論説・研究ノート・調査書・報告書など

・角濱春美：看護学における「SLEEP PROMOTION」の概念分析—認知症高齢者の睡眠を整えるケア概念モデル作成の基盤として—、聖路加看護学会誌第11巻1号，p.29-37，平成19年6月.

・吹田夕起子，角濱春美，中村恵子：看護・介護職者が入所した認知症高齢者の適応を判断する視点と適応を促進する援助，日本ヒューマンケア科学学会誌1巻1号，p84～93，平成20年3月

・角濱春美：看護ケアができる！疾患別看護過程慢性腎不全，プチナース第16巻4号，p.59-79，平成19年4月.

・角濱春美：フィジカルアセスメントでカラダが分かる，クリニカルスタディ28巻5号，p346-361，平成19年5月.

・藤本真記子，福井幸子，佐藤真由美，角濱春美：フィジカルアセスメント技術実践能力獲得のためのSPを導入したOSCEシステム開発，平成17年～18年度科学研究費補助金〔基盤研究（C）〕研究成果報告，平成19年5月.

学会発表など

・藤井博英，角濱春美：看護技術の成果としての「癒し」はありうるか？，日本看護技術学会第6回学術集会，平成19年10月.

13) 上泉 和子

b. 報告書

上泉和子¹, 片田範子², 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³, 畑豊², 新居学², 中山和弘⁴, 鄭佳紅¹: Web 版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護の質評価に関する研究, 平成 19 年度文部科学研究費補助金研究報告書, 2008

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学, ⁴: 聖路加看護大学

c. 著書

上泉和子: 創造と変革の基礎 1. 戦略的変革—変革理論, 36-46, 2007 年 8 月, 中西睦子編集, 看護サービス管理第 3 版, 医学書院, 東京.

d. 一般発表など

Kazuko Kamiizumi¹, Noriko Katada², Atsuko Uchinuno², Reiko Sakashita², Noriko Awaya³, Reiko Sakurai⁴, Keiko Tei¹: Development of a Web-Based Nursing Care Quality Improvement System in Japan, ICN Conference and CNR 2007, 2007 年 5 月 30-6 月 1 日, 示説発表, パシフィコ横浜, 神奈川, 1999

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 元大分県立看護科学大学, ⁴: 大分県立看護科学大学
鄭佳紅¹, 上泉和子¹, 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³: Web 版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護ケアの評価—構造・過程・アウトカムの関係—, 第 11 回日本看護管理学会年次大会, 2007 年 8 月 24-26 日, 口述発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学

坂下玲子¹, 内布敦子¹, 上泉和子², 鄭佳紅², 桜井礼子³: Web 版看護ケアの質評価総合システムを用いた病棟構造評価の分析, 第 11 回日本看護管理学会年次大会, 2007 年 8 月 24-26 日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 兵庫県立大学, ²: 青森県立保健大学, ³: 大分県立看護科学大学

上泉和子¹, 鄭佳紅¹, 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³: Web 版看護ケアの質評価総合システムを用いた過程評価の分析, 第 11 回日本看護管理学会年次大会, 2007 年 8 月 24-26 日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学

桜井礼子¹, 栗屋典子², 鄭佳紅³, 坂下玲子⁴: Web 版「看護ケアの質評価総合システム」におけるアウトカム評価の指標の検討, 第 11 回日本看護管理学会年次大会, 2007 年 8 月 24-26 日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007
¹: 大分県立看護科学大学, ²: 元大分県立看護科学大学, ³: 青森県立保健大学, ⁴: 兵庫県立大学
早川ひと美¹, 上泉和子¹, 鄭佳紅¹, 館田菊子², リボウィッツ志村よし子¹, 細川満子¹: 青森県における包括ケアシステムの定着にむけて—医療機関における橋渡しシナースの評価に関する研究—, 第 44 回日本病院管理学会学術総会, 横浜ロイヤルパークホテル, 神奈川, 病院管理, 44suppl, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 青森県健康福祉部
佐藤真由美, 上泉和子, 石鍋圭子, リボウィッツ志村よし子, 益田早苗, 鄭佳紅, 早川ひと美, 木村香: 新卒看護師の社会化を促進するための新卒教育担当者研修のありかたについて, 日本看護科学学会第 27 回学術集会, 2007 年 11 月, 東京.

14) 木村 恵美子

著書など なし

学術論文(原著)

・(原著) 木村恵美子, 小山敦代, 角濱春美, 福井幸子, 秋庭由佳 (青森中央学院大学), 上泉和子, 坂江千寿子 (茨城キリスト教大学), 佐藤真由美, 藤本真記子, ライダー島崎玲子 (青森中央学院大学), 杉若裕子: 根拠に基づくイノベティブ看護技術(1)看護技術の抽出, 青森県立保健大学雑誌 8 巻 1 号

・(原著) 福井幸子, 角濱春美, 木村恵美子, 小山敦代, 秋庭由佳 (青森中央学院大学), 上泉和子, 坂江千寿子 (茨城キリスト教大学), 佐藤真由美, 藤本真記子, ライダー島崎玲子 (青森中央学院大学) 杉若裕子: 根拠に基づくイノベティブ看護技術(1)看護技術の抽出, 青森県立保健大学雑誌 8 巻 1 号

学術論文(総説、論説、ノート)

・木村恵美子: リンパ浮腫ケア Complex Decongestive Physiotherapy 研修報告, 青森県立保健大学雑誌, 8(1), 2007.

・木村恵美子: 看護ケアができる; 疾患別看護過程: 肝硬変、プチ・ナース 照林社, 2007 年 5 月号.

・木村恵美子：看護に活かす癒しの療法；心身の《流れを取り戻す》リンパ浮腫ケア-リンパドレナージ、ナース専科、アンファミエ、2007年6月号。

・木村恵美子：看護代替療法、看護教育、医学書院、2007年8月号。

学会発表など

・木村恵美子、河内香久子：リンパ浮腫ケア：リンパドレナージによる排液効果の検証：健常者による基礎的データの報告一、第22回日本がん看護学会学術集会、2008年2月、名古屋市。

・奥朋子、増島麻里子、作田裕美、木村恵美子ら：リンパ浮腫ケアにおける現状の問題と課題、第22回日本がん看護学会学術集会、2008年2月、名古屋市。

・石川美帆子、下山良子、米田佳恵、木村恵美子ら：両下肢の著名なリンパ浮腫患者へのドレナージ効果、第11回東北緩和医療研究会、2007年10月、盛岡市。

・小山敦代、木村恵美子、佐藤真由美ら：PBLを導入した授業方法の評価、2年間の基礎看護実習終了後調査から、第17回日本看護学教育学会、2007年8月、福岡市。

・木村恵美子：フェルディクリニックにおけるリンパ浮腫ケアの研修報告、第8回日本赤十字看護学会、2007年6月、名古屋市。

講演など

・木村恵美子：リンパ浮腫研修会、リンパ浮腫患者へのケアについて、青森県内施設看護師40人、木村恵美子企画講演、2007年9月7-9日、青森県立保健大学、青森市。

・木村恵美子：臨床実習指導者研修；看護過程、2007年8月29-30日、青森県看護協会、県民福祉プラザ、青森市。

・木村恵美子：リンパ浮腫ケア；フェルディ式複合物理療法の講義と実践指導、2007年4月25日、6月2日、6月4日、6月18日、7月12日、7月31日、十和田市立病院大会議室およびリンパ浮腫ケア室、十和田市。

・佐藤佳代子、木村恵美子：第4回緩和セミナー；リンパ浮腫治療乳門 演習デモンストレーター、2007年6月2日、十和田観光ホテル、十和田市。

・木村恵美子：リンパ浮腫ケア；フェルディ式複合物理療法の実践指導、2007年6月5日、6月24日、

7月5日、7月31日、2008年1月31日、2月28日、3月11日、3月18日、青森県立中央病院リンパ浮腫治療室、青森市。

・木村恵美子：市民公開講座；手術後におこるむくみのケア；リンパドレナージ、2007年7月14日、青森県立保健大学、青森市。

・木村恵美子：フェルディクリニック研修講演、2007年9月2日、国立がんセンター中央病院大会議室、東京都。

15) 三津谷 恵

学会発表など

・三津谷恵、石鍋圭子：フォーカスグループインタビューを用いた地域に住み続ける条件-A町住民の結果から-

日本公衆衛生学会、2007年10月25日、松山市、日本公衆衛生学会雑誌Vol.54, No.10, p.388, 2007.

・工藤奈織美(自治医科大学)、山本春江、工藤奈織美、細川満子、三津谷恵：在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題-第1報：インタビュー調査による発症から在宅療養に至るまでの経過から、2008年3月15日、2007年度日本在宅ケア学会学術集会、講演集,p.84, 2008.

・三津谷恵、細川満子、山本春江、工藤奈織美(自治医科大学)：在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題-第2報：インタビュー調査による在宅療養の現状から、2008年3月15日、2007年度日本在宅ケア学会学術集会、講演集,p.85, 2008.

・細川満子、工藤奈織美(自治医科大学)、三津谷恵、山本春江：退院後の療養者の生活状況調査からみた回復期病院の退院支援の課題、2008年3月16日、2007年度日本在宅ケア学会学術集会、講演集,p.117, 2008.

16) 三浦 博美

b. 総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

1) 中村恵子¹、平尾明美²、藤井瑞枝¹、神島滋子¹、工藤京子¹、三浦博美²、¹: 札幌市立大学看護学部看護学科、²: 青森県立保健大学：救急部門勤務後 2、3年目看護師の職場適応(適応力)と支援モデル構築に関する研究、平成18~19年度科学研究費補助金基盤研究C(課題番号:18592369)

2) 三浦博美：看護ができる！疾患別看護過程 肺

がん. プチナース, 16(11), 51-71, 2007

e. 学会発表など

1) 三浦博美¹、中村恵子²、平尾明美¹、神島滋子²: 看護師の職場適応に関する研究—救急部門勤務看護師の卒後3年目までの体験とその適応—. 第9回日本救急看護学会学術集会, 2007年11月9,10日, ホテル阪急エキスポパーク, 吹田市, 第9巻2号日本救急看護学会雑誌, 183, 2007年

¹: 青森県立保健大学健康科学部看護学科,²: 札幌市立大学看護学部看護学科

2) 神島滋子¹、中村恵子¹、平尾明美²、三浦博美² 1 札幌市立大学看護学部科学部 2 青森県立保健大学健康: 看護師の職場適応に関する研究—救急部門勤務看護師の卒後2年目までの体験とその受け止め—. 第9回日本救急看護学会学術集会, 2007年11月9,10日, ホテル阪急エキスポパーク, 吹田市, 第9巻2号日本救急看護学会雑誌, 200, 2007年

¹: 札幌市立大学看護学部看護学科,²: 青森県立保健大学健康科学部看護学科

3) 平尾明美¹、三浦博美¹、中村由美子¹、太田美子²、加藤美香子³、川浪学子⁴: 救急看護師への電話トリアージ教育に関する研究、第9回日本救急看護学会学術集会, 2007年11月9,10日, ホテル阪急エキスポパーク, 吹田市, 第9巻2号日本救急看護学会雑誌, 152, 2007年.

¹: 青森県立保健大学健康科学部看護学科,²: 青森県立中央病院³: むつ総合病院⁴: 青森市民病院

17) 鳴井 ひろみ

書籍など

・井上智子編集: 症状からみた看護過程の展開, 医学書院, 2007年4月. (視力障害、易感染性, 371-380, 411-419. 分担執筆)

学術論文

・鳴井ひろみ、本間ともみ、三浦博美、井澤美樹子、吹田夕起子、出貝祐子、中村恵子: 代替療法を取り入れるがん患者の医療者への相談状況と期待, 青森県立保健大学雑誌, 8(2), 213-222, 2006.

学会発表

・鳴井ひろみ、平典子、本間ともみ: プレゼンスが生じる要因とその成果-緩和ケアにおける患者の体験から-, 第22回日本がん看護学会学術集会, 2008年2月

・平典子、鳴井ひろみ、本間ともみ: プレゼンス

が生じる要因とその成果-緩和ケアにおける患者の体験から-, 第22回日本がん看護学会学術集会, 2008年2月

18) 大串 靖子

原著論文

木村紀美¹、大串靖子²、早坂佳子³: 青森県の看護教育史研究—津軽地方における女学校附属看護婦養成所について—, 弘前学院大学看護紀要, 第3巻, 29-39, 2008.3

¹: 弘前学院大学, ²: 青森県立保健大学, ³: 青森県健康福祉部

総説、報告書

①青森県看護教育史研究会 (代表大串靖子¹・小山敦代²・山本春江¹・一戸とも子³・木村紀美⁴・早坂佳子⁵・田中広美¹) 編: 青森県看護教育史年表～青森県内看護教育機関の開設・改廃の歴史、第2版～、2008.2

¹: 青森県立保健大学健康科学部看護学科 2: 明治国際医療大学 ³: 弘前大学医学部保健学科 4: 弘前学院大学看護学部看護学科 5: 青森県健康福祉部

②大串靖子¹・小山敦代²・山本春江¹・一戸とも子³・木村紀美⁴・早坂佳子⁵・田中広美¹: 青森県における看護教育史に関する研究、平成19年度青森県立保健大学健康科学特別研究 (基盤研究B) 報告書: 2008.3

¹: 青森県立保健大学健康科学部看護学科 2: 明治国際医療大学 ³: 弘前大学医学部保健学科 4: 弘前学院大学看護学部看護学科 5: 青森県健康福祉部

学会発表

①一戸とも子、大串靖子、小山敦代、山本春江、田中広美、木村紀美、早坂佳子: 青森県内看護師2年課程養成機関の史的変遷の分析、日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 157, 2007.

②繁平清美、大串靖子、小山敦代: 教育背景による看護実践能力の特性(第1報)、Six-Dimension Scale of Nursing Performance による他者評価から、日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 146, 2007.

③堀内輝子、高田まり子、佐久間真樹、小山敦代、大串靖子: 看護技術演習における主体的学習行動支援プログラムの検証—第1報、学習内容の到達度評価から、日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 144, 2007.

④成田真澄、大串靖子、小山敦代: 看護学生の倫理

的能力を測定する質問紙の作成と信頼性・妥当性の検証、日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、41、2007.

⑤大串靖子 細越幸子 小山敦代 山本春江 一戸とも子 木村紀美 早坂佳子 田中広美：地方における看護教育史研究一年表作成の取り組み一、日本看護歴史学会第21回学術集会講演集、24-25、2007.

講演など

- ① 大串靖子：レポートの書き方、認定看護管理者教育課程セカンドレベル 2007年度
- ② 大串靖子：患者家族教育、学び直しプログラム、2007年度

学会、研究会、地方会の主催

①青森県看護教育史研究会：青森県立保健大学、弘前大学医学部保健学科、弘前学院大学看護学部（開催場所持ち回り）、平成19年4月～20年3月

19) 大井 けい子

原著論文

・今田葉子、永見桂子、大平肇子、村本淳子、前原澄子、吉川由希子、大井けい子、中村由美子、新道幸恵、澁谷泰秀、浦野茂、藤田徹：医療過疎地域の病院で出産した褥婦の視点から見た周産期における良質なケアの構成概念について、三重県立看護大学紀要、Vol.11、p59-71、2008.3

・大平肇子、今田葉子、永見桂子、村本淳子、前原澄子、吉川由希子、大井けい子、中村由美子、新道幸恵、澁谷泰秀、浦野茂、藤田徹：保健師の視点からみた医療過疎地域における母子ケアのための保健師と助産師の連携、三重県立看護大学紀要、Vol.11、p9-19、2008.3

学会発表など

・永見桂子、大平肇子、今田葉子、村本淳子、大井けい子、新道幸恵、前原澄子、澁谷泰秀、浦野茂、藤田徹：医療過疎地域における周産期母子ケア提供のための助産師と医師の役割に関する研究、第33回日本看護研究学会、盛岡市、2007.7.28.

・石井邦子、村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、岩間薫、高橋司寿子：看護系大学の統合カリキュラムによる助産師教育の実態調査、第48回日本母性衛生学会、つくば市、2007.10.11

・浦野茂、藤田徹、村本淳子、永見桂子、大平肇子、前原澄子、新道幸恵、大井けい子、澁谷泰秀：褥婦への退院指導のエスノメソドロジー的相互行為分析

施設助産師の専門性の視点から、第48回日本母性衛生学会、つくば市、2007.10.12

・藤田徹、浦野茂、村本淳子、永見桂子、大平肇子、前原澄子、新道幸恵、大井けい子、澁谷泰秀：施設助産師による家庭訪問のエスノメソドロジー的相互行為分析 新生児への働きかけ場面を通じた母親指導、第48回日本母性衛生学会、つくば市、2007.10.12

・村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、石井邦子、岩間薫：4年生大学での助産師教育における統合カリキュラムの良い点と悪い点、第27回日本看護科学学会、東京、2007.12.7.

・山本真樹子、大関信子、大井けい子、佐藤愛、行方かおり：「次の子を産みたい」と思う母親の気持ちを支えるケアの検討、第22回日本助産学会、神戸市、2008.3.16

報告書

・新道幸恵、村本淳子、大井けい子、森恵美、石井邦子、岩間薫、遠藤俊子、渡部尚子、鈴木幸子、成田伸、齊藤益子、吉沢豊予子、山本あい子：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討。平成19年度科学研究費〔基盤研究(B)〕2008.3

講演など

・新道幸恵、村本淳子、遠藤俊子、吉沢豊予子、大井けい子、森恵美、石井邦子、岩間薫、鈴木幸子、成田伸、齊藤益子、山本あい子、渡部尚子：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の意義と成果（交流集会）、東京、2007.12.8

・大井けい子：認定看護師教育課程「不妊看護」講師、『不妊看護援助論Ⅲ 喪失・グリーフケア（流早産・死産で子どもを失った家族への援助）』2007年12月14日、社団法人日本看護協会 神戸研修センター、兵庫

20) 大津 美香

b 総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

・大津美香：生活管理の視点からの慢性心不全の支援。臨床老年看護、第15巻1号、13-18、2008.

d 国内外で開催された学会発表

・大津美香¹、森山美知子²：高齢慢性心不全患者の疾病の自己管理に関する実態調査。日本老年看護学会第12回学術集会、2007年11月11日、神戸国際会議場、神戸、p.167

¹：青森県立保健大学、²：広島大学大学院

・ 大津美香¹、森山美知子²、慢性心不全の疾病の自己管理の実態と悪化要因との関連. 日本病院管理学会第45回学術総会, 2007年10月25日, 横浜ロイヤルパークホテル, 横浜, p.141

¹: 青森県立保健大学, ²: 広島大学大学院

・ Haruka Otsu¹, Shigeko Takayama², and Yoko Watanabe³: Wandering behavior in elderly people with Alzheimer's Disease in relation to the degree of impaired cognitive function. 23rd Conference of Alzheimer's Disease International, 2007年10月10日~2007年10月12日, Caracas, Venezuela, p.70

¹: 青森県立保健大学, ²: 神戸市看護大学, ³: 県立広島大学

・ 川口望¹、門脇里香²、高山成子³、半田陽子⁴、大津美香⁵、大内隆⁴、認知症高齢者の1年間の骨密度、重心動揺の変化. 日本看護学会第38回学術集会 老年看護, 2007年9月14日, 長崎ブリックホール, 長崎, p.47

¹: 呉医療センター, ²: 倉敷平成病院, ³: 神戸市看護大学, ⁴: 県立広島大学, ⁵: 青森県立保健大学

・ 高柳智子¹、高山成子²、半田陽子²、小河育恵³、大津美香⁴、在宅高齢者の通所サービス利用開始2年間における主観的幸福感の経時的変化と関連要因. 第33回日本看護研究学会学術集会, 2007年7月29日, 盛岡市民文化ホール, 盛岡, p.127

¹: 新潟県立看護大学, ²県立広島大学, ³: 関西福祉大学, ⁴: 青森県立保健大学

21) 大 関 信 子

原著論文

・ Ozeki, N. : Transcultural Stress Factors of Japanese Mothers Living in the United Kingdom. *Journal of Transcultural Nursing*. Vol. 19, No.1, January 2008, pp47-54.

・ Ozeki, N., Mizuguchi, M (1) : Japanese Mothers Living New York with Young Children: Transcultural and child Rearing Stress Factors and Mental Health. *Journal of Japanese Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology* Vol. 12, No.32. Nov. 2007, pp506-517 ¹: 東京大学大学院 医学系研究科

学会発表

Nobuko OZEKI, Hiroshi USHIJIMA(1), Alan

KNOWLES, Yutaka ASADA

Transcultural Stress and Adaptation of Female Foreign Students

The 15th International Congress of The International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology (京都市) 平成19年5月14日 Abstract: p159

¹: 東京大学大学院医学系研究科

大関信子、ノールズ・アラン、浅田豊: 北京在住日本人母親の育児ストレス要因の分析. 第66回日本公衆衛生学会. 松山市. 抄録集p663. 平成19年10月25日.

大関信子、渋谷泰秀、佐藤 愛、アラン・ノールズ、浅田豊: 国家試験前の看護学生のストレスコーピング方法と支援策の検討. 第27回日本看護科学学会学術集会、東京都、抄録集 p339

2007年12月7日

地域貢献

「コメディカルのコミュニケーション: 課題と展望」第7回 IACS (the International Association for communication Sciences) 学術集会シンポジスト (弘前市)

平成19年11月17日

22) 坂 本 祐 子

b総説, 論説, 研究ノート, 調査書, 報告書等

1. 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金報告書: 高齢者の胃ろう閉鎖, 膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業 (中島紀恵子) (膀胱留置カテーテル班)

2. 坂本祐子, 中村恵子監: 看護ケアができる! 疾患別看護過程 白血病. プチナース, 16(13), 51-72, 2007

c. 学会報告

1. 坂本祐子: 術後譫妄症状と重心移動の対応性に関する研究—第1報—. 2007年8月, 盛岡市, 第32回日本看護研究学会学術集会

2. 坂本祐子: 術後譫妄症状と重心移動の対応性に関する研究—第2報—. 2007年12月, 東京フォーラム, 第27回日本看護科学学会学術集会

e. 研究会

1. 青森高齢者ケア研究会 企画開催
2. 青森高齢者ケア研究会 企画開催

23) 佐 藤 真 由 美

a. 学術論文

木村恵美子¹, 小山敦代¹, 角濱春美¹, 福井幸子¹, 秋庭由佳², 上泉和子¹, 坂江千寿子³, 佐藤真由美¹, 藤本真記子¹, 杉若裕子 Chiu⁴: 根拠に基づくイノベーション看護技術(第1報)ー国内文献からの抽出ー, 青森県立保健大学雑誌, 第8巻第1号, 7-15, 2007.

¹: 青森県立保健大学看護学科, ²: 青森中央短期大学看護学科, ³: 茨城キリスト教大学看護学部, ⁴: カイザーパマネンテ サンフランシスコ メディカルセンター

福井幸子¹, 角濱春美¹, 木村恵美子¹, 小山敦代¹, 秋庭由佳², 上泉和子¹, 坂江千寿子³, 佐藤真由美¹, 藤本真記子¹, 杉若裕子 Chiu⁴: 12) 根拠に基づくイノベーション看護技術(第2報)ー看護技術の普及の実態ー, 青森県立保健大学雑誌, 第8巻第1号, 17-26, 2007.

¹: 青森県立保健大学看護学科, ²: 青森中央短期大学看護学科, ³: 茨城キリスト教大学看護学部, ⁴: カイザーパマネンテ サンフランシスコ メディカルセンター

d. 学会発表

佐藤真由美¹, 早川ひと美¹, 上泉和子¹, 石鍋圭子¹, リボウィッツ志村よし子¹, 益田早苗², 鄭 佳紅¹, 木村 香³: 新卒看護師の社会化を促進するための教育担当者研修のありかたについて, 第27回日本看護科学学会学術集会, 平成19年12月17日~8日, 東京国際フォーラム, 東京, 第27回日本看護科学学会学術集会講演集, 289, 2007.

¹: 青森県立保健大学看護学科, ²: 武蔵野大学看護学部, ³: 青森市民病院

小山敦代¹, 木村恵美子², 佐藤真由美², 田中広美: PBLを導入した授業方法の評価, 2年間の基礎看護実習終了後調査から, 日本看護学教育学会第17回学術集会, 2007年8月, 福岡市, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 2007.

¹: 明治鍼灸大学, ²: 青森県立保健大学

24) 佐藤 愛

報告書など

・新道幸恵, 佐藤愛, 西野加代子, 宮本昭子, 高田昌代, 谷川裕子, 岩間薫: 若年妊婦の親役割形成へのドゥーラによる支援システム開発に関する研究, 平成17~19年度科学研究費補助金(萌芽)研究成果報告書, 2008.

・あおもり思春期研究会報告書(第2号), 2008.

学会発表

・大関信子, 渋谷泰秀, 佐藤愛, アラン・ノールズ, 浅田豊: 国家試験前の看護学生のストレスコーピング方法と支援策の検討, 第27回日本看護科学学会学術集会講演集, 339, 2007.

・谷川裕子, 高田昌代, 佐藤愛, 工藤優子, 岩間薫, 宮本昭子, 西野加代子, 新道幸恵: 若年妊婦支援のためのドゥーラ養成セミナーの評価, 第48回日本母性衛生学会学術集会抄録集, 201, 2007.

・岩間薫, 佐藤愛, 西野加代子, 谷川裕子, 高田昌代, 工藤優子, 宮本昭子, 新道幸恵: ドゥーラによる妊産婦並びに育児中の女性への支援システム構築に関する基礎調査(第1報)ー育児中の女性のドゥーラの支援希望と看護者の支援状況との関連ー, 第22回日本助産学会学術集会集録, 68, 2008年3月.

・工藤優子, 佐藤愛, 高田昌代, 谷川裕子, 新道幸恵, 宮本昭子, 岩間薫, 西野加代子: ドゥーラによる妊産婦並びに育児中の女性への支援システム構築に関する基礎調査(第2報)ー出産経験のある女性におけるドゥーラの要件ー, 第22回日本助産学会学術集会集録, 69, 2008年3月.

・佐藤愛, 岩間薫, 新道幸恵, 高田昌代, 西野加代子, 谷川裕子, 工藤優子, 宮本昭子: ドゥーラによる妊産婦並びに育児中の女性への支援システム構築に関する基礎調査(第3報)ー助産師のドゥーラに対する意識ー, 第22回日本助産学会学術集会集録, 70, 2008年3月.

・山本真樹子, 大関信子, 大井けい子, 佐藤愛, 行方かおり: 「次の子を産みたい」と思う母親の気持ちを支えるケアの検討, 第22回日本助産学会学術集会集録, 152, 2008年3月.

25) 清水 健史

学会発表

村松仁¹, 清水健史²: 精神看護学における視聴覚教材の効果の検討, 第33回日本看護研究学会, 2007年7月, 盛岡市

¹: 上武大学 ²: 青森県立保健大学

解説

中村恵子¹, 藤井博英², 清水健史²: 看護ケアができる! 疾患別看護過程うつ病, プチナース, 17(1), 51-69, 2008.

¹: 札幌市立大学 ²: 青森県立保健大学

報告書

藤井博英¹, 角濱春美¹, 清水健史¹, 伊藤治幸¹,

成田博史²: 効果的な訪問看護システムの検証-精神科訪問看護のアウトカム尺度の開発と測定結果から-, 平成19年度青森県立保健大学健康科学特別研究報告書, 平成20年3月。

1: 青森県立保健大学: 2: 青森県立つくしが丘病院

26) 其田 貴美枝

1. 誌上発表

館貴美枝, 石鍋圭子: 第5章リハビリテーションに必要なアセスメント, 最新訪問看護テキストステップ2、石鍋圭子, 川越博美, 山崎摩耶, 佐藤美穂子, 25-35, 2005年4月, 訪問看護協会出版会, 東京

其田貴美枝: 第4章3節1-3集めた資料をどう扱うか, 第5章私の行った事例研究, ナーシンググラフィカ19 基礎看護看護研究, 川村佐和子, 68-73, 84-92, 2007年3月, メディカ出版, 大阪

川村佐和子, 牛込三和子, 小倉朗子, 本田彰子, 近藤紀子, 松下祥子, 村田加奈子, 原田光子, 幸山靖子, 其田貴美枝: 在宅神経系難病看護の特徴とその普及のための研修体制に関する検討, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業特定疾患患者の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上に関する研究, 中島孝, 平成18年度地域における看護支援に関する研究報告集, 23-27, 2007年3月

2. 一般発表

館貴美枝¹, 石鍋圭子², 嶋口みどり¹: 在宅療養者への意思伝達装置の導入と活用における現状と課題~訪問看護事例の考察から~, 第9回日本難病看護学会学術集会, 2004年8月27-28日, ウィル愛知, 愛知県名古屋市, 日本難病看護学会誌, Vol. 9, No. 1, 46

¹訪問看護ステーションやよい ²青森県立保健大学

Kimie Tate¹, Keiko Ishinabe¹, Midori Shimaguchi²: An LIS Client with a Stroke History Relating to Use of a Computer as Means of Communication, Prevention and Management of Chronic Conditions: International Perspectives, January 25-27, 2006, Bangkok, Thailand, Prevention and Management of Chronic Conditions: International Perspectives, 214

¹Aomori University of Health and Welfare, ²Yayoi home care agency

館貴美枝¹, 石鍋圭子¹, 川村佐和子¹: 在宅 ALS 療養者の意思伝達装置使用に関する促進要因と抑制要因の検討, 第11回日本難病看護学会学術集会, 2006年8月25-26日, 北海道立道民活動センター「かでる2・7」, 北海道札幌市, 日本難病看護学会誌, Vol. 11, No. 1, 61

¹青森県立保健大学

川村佐和子¹, 石鍋圭子¹, リボウィッツ・志村よし子¹, 其田貴美枝¹, 原口道子²: 在宅ケアシステムにおける関係職種連携に関する日米比較-法律的視点による検討-, 第12回日本難病看護学会学術集会, 2007年8月24-25日, 青森県立保健大学, 青森県青森市, 日本難病看護学会誌 Vol. 12, No. 1, 48

¹青森県立保健大学, ²青森県立保健大学大学院博士後期課程

川村佐和子¹, 小倉朗子², 小西かおる³, 牛込三和子⁴, 其田貴美枝¹, 原口道子¹, 原田光子¹, 幸山靖子⁵, 近藤紀子⁶, 中山優季², 本田彰子⁷, 松下祥子⁸: 神経難病における地域アセスメント・療養環境の評価方法の構築に関する検討, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業特定疾患患者の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上に関する研究平成19年度研究報告会, 2007年12月14-15日, 東京都医科歯科大学湯島キャンパス5号館, 東京

¹青森県立保健大学 ²東京都神経科学総合研究所 ³昭和大学 ⁴群馬パース大学 ⁵弘前学院大学 ⁶日本赤十字武蔵野短期大学 ⁷東京医科歯科大学 ⁸首都大学東京

27) 杉本 晃子

1. 書籍

(共著) 中村由美子・杉本晃子 (2007). 核家族. 日本小児看護学会監修・編集. 小児看護事典. へるす出版.

2. 学会発表

Yumiko Nakamura, Eriko Akahane, Akiko Sugimoto, et al. Constructing a Model for Family Functions Utilizing Structural Equation Modeling. The 8th International Family Nursing Conference. June. 4-7, 2007. (Bangkok, Thailand) (p.198.)

28) 吹田 夕起子

学術論文 (原著)

・鳴井ひろみ, 本間ひろみ, 三浦博美, 井澤美樹子, 吹田夕起子, 出貝裕子¹, 中村恵子²: 代替療法を取り入れるがん患者の医療者への相談状況と期待. 青森県立保健大学雑誌, 8 (1), 53-62, 2007.

¹: 八戸市立市民病院, ²: 札幌市立大学

総説、論説、研究ノート、報告書など

・吹田夕起子, 角濱春美, 中村恵子¹: 看護・介護職者が入所した認知症高齢者の適応を判断する視点と適応を促進する援助. 日本ヒューマンケア科学会誌, 1(1), 84-93, 2008年3月.

¹: 札幌市立大学

・吹田夕起子: ライフレビュー介入研究, 要介護者の意欲高揚を図るケアおよび介護目標が解る総合的評価表の開発事業, 特定非営利活動法人ライフデザインニング (編), 平成19年度独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金助成金事業報告書, 13-14, 82-94, 2008年3月.

書籍、単行本など

・吹田夕起子: 認知症高齢者のアセスメント, 認知症高齢者の看護, 中島紀恵子・太田喜久子・奥野茂代・水谷信子 (編), 61-78, 2007年5月, 医歯薬出版, 東京.

学会、研究室、地方会などの主催

・第8回青森高齢者ケア研究会主催, 2007年10月27日, 青森県立保健大学

・第9回青森高齢者ケア研究会主催, 2008年3月9日, 青森県立保健大学

29) 竹森 幸一

学術論文

・竹森幸一: 都道府県別たばこ消費本数と主要死因別標準化死亡比との関連. 厚生学の指標, 54(5), 37-43, 2007.

・山本春江, 千葉敦子, 浅田 豊, 竹森幸一: シナリオ学習を用いた減塩教室における参加者ら家族への教育効果の可能性. 家族看護学研究, 13(1), 2-10, 2007.

・三上聖治, 竹森幸一, 浅田 豊, 仁平 将: ミクロネシア連邦ポンペイ島における健康や病気に関連した日本語由来のポナペ語についての一考察. 弘前学院大学看護紀要, 2, 49-57, 2007.

・千葉敦子, 竹森幸一, 山本春江, 工藤奈織美, 浅

田 豊: TYA方式による健康教室参加者の学びと参加体験に関する現象の検討. 日本健康教育学会誌, 15(3), 156-166, 2007.

講演

・竹森幸一: 第3回下北フォーラム in 現代GP, 青森県の短命の要因は?, むつ市中央公民館, 2008年3月21日

学会発表

・竹森幸一: たばこ消費本数と主要死因別標準化死亡との関連. 第43回日本循環器予防学会, 2007.

・浅田 豊, 山本春江, 竹森幸一, 千葉敦子, 長谷川衣子, 長谷川しぐれ, 齋藤菜推美: 健康教育TYA方式における実践目標の主體的構築の評価 教育プログラム調整に伴う学びの変化の有無と学習課程の概略. 第56回東北公衆衛生学会, 2007.

・西村美八, 竹森幸一, 山本春江: 20, 30代女性の結婚, 妊娠, 出産, 育児が生活習慣に及ぼす影響. 第66回日本公衆衛生学会, 2007.

30) 田中 広美

b. 報告書など

田中広美¹, 大串靖子¹: 病棟における看護師の職務遂行状況の現状, 平成19年度青森県立保健大学健康科学部特別研究報告書, 2007.

¹: 青森県立保健大学

大串靖子¹, 小山敦代², 山本春江¹, 一戸とも子³, 木村紀美⁴, 田中広美¹, 早坂佳子⁵: 青森県における看護教育史に関する研究, 平成19年度青森県立保健大学健康科学特別研究報告書, 2007.

¹: 青森県立保健大学, ²: 明治鍼灸大学, ³: 弘前大学, ⁴: 弘前学院大学, ⁵: 青森県健康福祉部

d. 学会発表

田中広美¹, 大串靖子¹: 職場環境の現状に対する看護管理者の意識, 第17回日本看護学教育学会学術集会, 平成19年8月, 福岡国際会議場, 福岡, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 160, 2007.

¹: 青森県立保健大学看護学科

小山敦代¹, 木村恵美子², 佐藤真由美², 田中広美: PBLを導入した授業方法の評価, 2年間の基礎看護実習終了後調査から, 日本看護学教育学会第17回学術集会, 2007年8月, 福岡市, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 250, 2007.

¹: 明治鍼灸大学, ²: 青森県立保健大学

一戸とも子¹, 小山敦代², 大串靖子³, 田中広美³, 山本春江³, 木村紀美⁴, 早坂佳子⁵: 青森県内看護師2年課程養成機関の史的変遷の分析, 日本看護学教育学会第17回学術集会, 2007年8月, 福岡市, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 157, 2007.

¹: 弘前大学, ²: 明治鍼灸大学, ³: 青森県立保健大学, ⁴: 弘前学院大学, ⁵: 青森県健康福祉部

大串靖子¹, 細越幸子², 小山敦代³, 山本春江¹, 田中広美¹, 木村紀美⁴, 一戸とも子⁵, 早坂佳子⁶: 地方における看護教育史研究一年表作成の取り組み, 日本看護歴史学会第21回学術集会講演集, 24-25, 2007.

¹: 青森県立保健大学, ²: 日本赤十字秋田短期大学, ³: 明治鍼灸大学, ⁴: 弘前学院大学, ⁵: 弘前大学, ⁶: 青森県健康福祉部

3 1) 鄭 佳 紅

1. 誌上発表

上泉和子¹, 片田範子², 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³, 畑豊², 新居学², 中山和弘⁴, 鄭佳紅¹: Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護の質評価に関する研究, 平成19年度文部科学研究費補助金研究報告書, 2008

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学, ⁴: 聖路加看護大学

鄭佳紅¹: クリニカルアウトカムの評価—インシデント発生率の測定—, インターナショナルナーシングレビュー, 30 (5), 20-24, 2007

¹: 青森県立保健大学

鄭佳紅¹: 変革期における人員配置の考え方・取り組み方, ナースマネジャー, 9 (9), 6-12, 2007

¹: 青森県立保健大学

2. 一般発表など

Kazuko Kamiizumi¹, Noriko Katada², Atsuko Uchinuno², Reiko Sakashita², Noriko Awaya³, Reiko Sakurai⁴, Keiko Tei¹: Development of a Web-Based Nursing Care Quality Improvement System in Japan, ICN Conference and CNR 2007, 2007年5月30-6月1日, 示説発表, パシフィコ横浜, 神奈川, 1999

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 元大分県立看護科学大学, ⁴: 大分県立看護科学大学

鄭佳紅¹, 上泉和子¹, 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³: Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護ケアの評価—構造・過程・アウトカムの関係—, 第11回日本看護管理学会年次大会, 2007年8月24-26日, 口述発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学

坂下玲子¹, 内布敦子¹, 上泉和子², 鄭佳紅², 桜井礼子³: Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた病棟構造評価の分析, 第11回日本看護管理学会年次大会, 2007年8月24-26日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 兵庫県立大学, ²: 青森県立保健大学, ³: 大分県立看護科学大学

上泉和子¹, 鄭佳紅¹, 内布敦子², 坂下玲子², 桜井礼子³: Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた過程評価の分析, 第11回日本看護管理学会年次大会, 2007年8月24-26日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 兵庫県立大学, ³: 大分県立看護科学大学

桜井礼子¹, 栗屋典子², 鄭佳紅³, 坂下玲子⁴: Web版「看護ケアの質評価総合システム」におけるアウトカム評価の指標の検討, 第11回日本看護管理学会年次大会, 2007年8月24-26日, 示説発表, 高知市文化プラザかるぽーと, 高知, 2007

¹: 大分県立看護科学大学, ²: 元大分県立看護科学大学, ³: 青森県立保健大学, ⁴: 兵庫県立大学

早川ひと美¹, 上泉和子¹, 鄭佳紅¹, 舘田菊子², リボウィツ志村よし子¹, 細川満子¹: 青森県における包括ケアシステムの定着にむけて—医療機関における橋渡しナースの評価に関する研究—, 第44回日本病院管理学会学術総会, 横浜ロイヤルパークホテル, 神奈川, 病院管理, 44suppl, 2007

¹: 青森県立保健大学, ²: 青森県健康福祉部

3 2) 山本 真樹子

・山本真樹子, 大関信子, 大井けい子, 佐藤愛, 行方かおり: 「次の子を産みたい」と思う母親の気持ちを支えるケアの検討, 第22回日本助産学会学術集会, 2008年3月15日-16日, 神戸国際会議場, 兵庫, 日本助産学会誌集録集, 152, 2008

33) 山田 典子

著書等

研究ノートなど

・山田典子：女性の健康被害を拡大する伝統社会における看護の社会的役割—エジプト国カイロ大学看護学部の実践より—, No8. vol2, 275-281, 2007

・山田典子, 川内規会, 千葉たか子, 渡部一郎, リボウィッツ志村よし子：健康科学教育センター国際科の発展途上国における地域交流の現状—国際交流事業の教育的意義の検討—, No8. vol2, 267-273, 2007

総説

・新井山洋子, 山田典子：保健活動からセーフコミュニティをつくる、保健師ジャーナル、Vol. 63 No. 12, p1074-1079, 2007

その他

・友田尋子, 山田典子：保健医療機関との連携～保健・医療の現場に役立つ対応マニュアルを考えよう～、全国シェルターシンポジウム2006inはこだて発行, p49-65, 2007

・山田典子：成年後見制度のしくみ、看護学生、Vol. 55. No. 12 p30-31, 2008

ブックレット

・山田典子, 山本春江, 宮本真己, 米山奈奈子, 反町吉秀：健康と生活シリーズNo. 11 あなたは見落としていませんか？～被害者の声なき叫びを聞き逃さないために～、青森県立保健大学健康科学教育センター、2007

リーフレット (小冊子)

・青森県男女共同参画課平成18年度男女共同参画DV予防プログラム検討委員会, 委員長山田典子他作成：デートDV予防の取り組みを進めるために (教員用)、青森県庁刊行物、2007

・山田典子：あなたは見落としていませんか？～子ども達の声なき叫びを聞き逃さないために～、青森県立保健大学、2007

学会発表など

・Noriko YAMADA：Protection and support for domestic violence (DV) victims in a local urban setting in Japan: Insufficient support function for socially vulnerable people under decentralized municipality-based social welfare system in Japan, the 2007 ICN Congress to be held in YOKOHAMA. 2007. 5

・山田典子, 米山奈奈子, 宮本真己, 山本春江, 反

町吉秀：ドメスティック・バイオレンス被害者の医療相談窓口の検討—アメリカカリフォルニア州・大韓民国・アフリカケニア国の実践比較より—, 第66回日本公衆衛生学会総会、Vol. 54 No. 10 p561, 愛媛県松山市, 2007. 10

・Noriko YAMADA：Protection and support for intimate partner violence (IPV) in a local urban setting in Japan: 4th Asian Regional Conference on Safe Communities, Thai, Bangkok, 2007. 11

・ASHINO Junko¹, SADA Kikumi², TOYODA Kaori³, UENO Masahi³, YAMADA Noriko⁴, OHNISHI Motoki⁵, OHTA Kazuko¹, UEMURA Kenji⁶, NAGASE Hisako⁷, NIYAMA Youko⁷, SORIMACHI Yoshihide⁸ ¹Towada Safe Community Citizens, ²Sada Architect Office, ³Towada Nursing Home, ⁴Aomori University Health and Welfare, ⁵Aomori Prefectural Government, ⁶Towada Municipal Hospital, ⁷Towada Municipal Health Center, ⁸Kamitosan Public Health Center Development of Community Safety Promotion in Towada City. 4th Asian Regional Conference on Safe Communities, Thai, Bangkok, 2007. 11

・山田典子, 思春期におけるデートDVの実態とNPO・保健福祉職による介入、第11回日本健康福祉政策学会学術大会Okayama2007、p117、兵庫県岡山市, 2007. 12

・山田典子, 山本春江, 宮本真己, 米山奈奈子：被害者支援のための法看護学教育プログラムの検討、2007年度青森県保健医療福祉研究発表会、p26-27、青森県青森市, 2008. 2

・三津谷恵, 細川満子, 山本春江, 今敏子, 玉懸多恵子, 鈴木久美子, 古川照美, 山田典子, 加藤欣子, 櫻井尚子：在宅看護実習前に学生が身につけるべき実習態度—学生の問題事例と実習要項からの検討—, 青森県看護教育研究会誌第36号, p5-8, 青森県青森市, 2008. 3

報告書

山田典子：DV被害者の支援における早期介入と看護職の役割、平成16年度～18年度科学研究費補助金(萌芽研究 No. 16659595)研究成果報告書、2007. 6
山田典子：被害者支援のための法看護学教育プログラムの検討、平成18年度～19年度健康科学特別研究基盤B、NoB-8研究成果報告書、2008. 3

山田典子, 早川ひと美, 大津美香他：ベレノバ大学

2007 研究生受け入れの報告 青森県立保健大学国際科事業報告、2008. 3

34) 山本 春江

学術論文 (原著)

・山本春江, 千葉敦子, 浅田豊, 竹森幸一: シナリオ学習を用いた減塩教室における参加者から家族への教育効果の可能性, 家族看護学研究, Vol. 13, No. 1, p. 2-10, 2007.

・千葉敦子, 山本春江, 竹森幸一, 工藤奈織美(自治医科大学), 浅田 豊, 長谷川衣子, 長谷川しぐれ(鶴田町役場): 健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索ー減塩教室参加者の特性に関する検討ー, 青森保健大学雑誌, Vol. 8, No. 2, p. 237-244, 2007.

・千葉敦子, 山本春江, 工藤奈織美(自治医科大学), 浅田豊, 竹森幸一: 健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索ー減塩教室参加者の1年間の伝達状況ー, 日本ヒューマンケア科学学会誌, Vol. 1, No. 1, p. 2-10, 2008.

・小山敦代, 一戸とも子(弘前大学保健学科), 大串靖子, 田中広美, 木村紀美(弘前学院大学看護学科), 山本春江, 早坂佳子(青森県県幸福支部): 青森県における看護教育史に関する研究(第2報)ー2年課程看護師養成所の特質と課題・展望ー, 青森県立保健大学雑誌, Vol. 8, No. 1, p. 105-114, 2007.

学術論文 (原著以外)

・山本春江: 卒後教育として家族支援研修の経過と課題, 保健の科学, Vol. 50, No. 1, p. 26-33, 2008.

・千葉敦子, 竹森幸一, 山本春江, 工藤奈織美, 浅田 豊: TYA方式による健康教室参加者の学びと参加体験に関する現象の検討, 日本健康教育学会誌, 15(3)、156-166, 2007.

・大串靖子, 小山敦代, 田中広美, 山本春江, 一戸とも子, 木村紀美, 早坂佳子: 青森県看護教育史年表第2版, 青森県看護教育史研究会, 2008.

・竹森幸一, 山本春江, 浅田 豊, 竹森幸一, 千葉敦子, 工藤奈織美(自治医科大学), 三上聖治(弘前学院大学看護学科): [論説]ブックレット「健康と生活シリーズ」No. 2, No. 5, No. 7 の紹介, 青森保健大学雑誌, Vol. 8, No. 2, p. 295-302, 2007.

・大串靖子, 小山敦代, 田中広美, 山本春江, 一戸とも子, 木村紀美, 工藤佳子: 青森県における看護教育史に関する研究, 青森県立保健大学健康科学特別

研究成果報告書, 2008. 3.

講演など

・青森県看護協会主催: 訪問看護師養成講習会「訪問看護対象論」: 青森県福祉プラザ, 平成19年7月26日.

・青森県介護労働安定センター主催: ヘルパー養成研修2級課程「福祉サービスを提供する際の基本的態度」「介護事例の検討」: アスパム, 青森市, 平成19年7月16日平成19年12月11日.

・青森県介護労働安定センター主催: ヘルパー養成研修2級課程「介護事例の検討」: はまなす会館, 青森市, 平成19年12月22日

・青森県・日本公衆衛生協会主催: 保健師等北海道・東北ブロック別研修会「PDCA サイクルに基づく保健活動の実際」コーディネーター, ホテルアラスカ, 平成19年8月23日.

・野辺地病院看護部主催: 看護職員研修会「家族看護」: 野辺地病院, 平成19年8月4日

・青森県・青森県保険者協議会主催: 平成19年度特定保健指導者育成研修「行動変容につながる保健指導」, 青森県立保健大学, 平成19年10月27日.

・青南病院主催: 看護職員研修会「家族看護」: 八戸市, 青南病院, 平成20年2月1日

・西北地方健康福祉こどもセンター主催: 地域健康福祉対策企画・支援事業に係る保健師記録研修会「今求められる保健師記録II」, サンルートホテル五所川原, 平成20年2月12日.

学会発表など

・大串靖子, 細越幸子, 小山敦代, 山本春江, 田中広美, 木村紀美, 一戸とも子, 早坂佳子: 地方における看護教育史研究一年表作成の取り組み, 日本看護歴史学会第21回学術集会, 2007年9月1日, 京都市, 日本看護歴史学会第21回学術集会講演集 24-25, 2008.

・一戸とも子, 小山敦代, 大串靖子, 田中広美, 山本春江, 木村紀美, 早坂佳子: 青森県内看護師2年課程養成機関の史的変遷の分析, 第17回日本看護学教育学会, 2007年8月10日, 福岡市, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, p. 157, 2007.

・山本春江, 李相潤, 工藤奈織美, 千葉恵津子, 鎌田明美, 千葉敦子: 豪雪地における一般労働者の身体活動量と所属課の季節的関連, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌

Vol. 54, No. 10, p. 314, 2007.

・工藤奈織美, 李相潤, 山本春江, 千葉敦子, 千葉恵津子, 鎌田明美: 豪雪地における一般労働者の冬の身体活動量への影響要因, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol. 54, No. 10, p. 314, 2007.

・鎌田明美, 工藤奈織美, 千葉恵津子, 千葉敦子, 李相潤, 山本春江: 豪雪地における一般労働者の身体活動量と運動教室参加との関連, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol. 54, No. 10, p. 314, 2007.

・千葉恵津子, 千葉敦子, 鎌田明美, 山本春江, 李相潤, 工藤奈織美: 職場における運動推進事業と主観的ストレスの関連, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol. 54, No. 10, p. 299, 2007.

・千葉敦子, 千葉恵津子, 山本春江, 李相潤, 鎌田明美, 工藤奈織美: 職場における運動推進事業の波及効果に関する検討, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol. 54, No. 10, p. 300, 2007.

・山田典子, 山本春江, 宮本真己, 米山奈々子, 反町吉秀: ドメスティック・バイオレンス被害者の医療相談窓口の検討—3カ国の実践比較より, 日本公衆衛生学会, 2007年10月25日, 松山市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol. 54, No. 10, p. 561, 2007.

・山本春江, 千葉敦子, 千葉恵津子, 鎌田明美: 積雪寒冷地における運動習慣形成と継続に関する検討 (1) 農村と都市との運動状況の比較から, 第29回全国保健師学術研究会, 2007年11月16日, 大津市, 第29回全国保健師学術研究会講演集, p. 246—247, 2007.

・千葉敦子, 山本春江, 千葉恵津子, 鎌田明美: 積雪寒冷地における運動習慣形成と継続に関する検討 (2) 農村と都市との運動状況とストレスの関連, 第29回全国保健師学術研究会, 2007年11月16日, 大津市, 第29回全国保健師学術研究会講演集, p. 248—249, 2007.

・山本春江, 工藤奈織美, 中森千春, 金浜庸子, 祐川さおり(むつ市), 川口徹, 桜木康弘, 吹田陽子(下北地域センター): 機能訓練クラス会開催に向けた大学と地域の連携プロセスの検討, 2008年2月15日, 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集 p. 78-79, 2008.

・工藤奈織美(自治医科大学), 山本春江, 工藤奈織美, 細川満子, 三津谷恵: 在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題—第1報: インタビュー調査による発症から在宅療養に至るまでの経過から, 2008年3月15日, 2007年度日本在宅ケア学会学術集会, 講演集, p. 84, 2008.

・三津谷恵, 細川満子, 山本春江, 工藤奈織美(自治医科大学): 在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題—第2報: インタビュー調査による在宅療養の現状から, 2008年3月15日, 2007年度日本在宅ケア学会学術集会, 講演集, p. 85, 2008.

・細川満子, 工藤奈織美(自治医科大学), 三津谷恵, 山本春江: 退院後の療養者の生活状況調査からみた回復期病院の退院支援の課題, 2008年3月16日, 2007年度日本在宅ケア学会学術集会, 講演集, p. 117, 2008.

35) 山本 加奈子

学会発表

・山本加奈子¹、小山敦代²、大串康子¹、: ラオスにおける看護業務の現状分析に関する研究～教育的支援に向けた課題の明確化～第一報、第27回日本看護科学学会、378. ¹: 青森県立保健大学 ²: 明治鍼灸大学

・山本加奈子¹、小山敦代²、大串康子¹、: ラオスにおける看護業務の現状分析に関する研究～教育的支援に向けた課題の明確化～第二報、第27回日本看護科学学会、378. ¹: 青森県立保健大学 ²: 明治鍼灸大学

講演など

・山本加奈子: ラオスの医療の現状について、八戸市立北陵中学3年生120名、2007年4月12日、八戸市立北陵中学校、八戸市

・山本加奈子、田中広美: 介護専門職員講座、居宅介護職員40名、7月13日、青森県社会福祉協議会、県民福祉プラザ、青森市

・山本加奈子、田中広美: 社会福祉主事資格認定講習会、福祉事務所職員、民間福祉施設職員44名、2007年5月28日、6月4日、青森県立保健大学健康科学教育センター、青森県立保健大学、青森市

・山本加奈子: がんによるさまざまな苦痛に対し

て、補助的症狀緩和を図るためのアロマセラピーの知識・技術の習得、十和田市立中央病院緩和ケアリンクナース 22 名、2007 年 7 月 12 日、十和田市立中央病院、十和田市

- 山本加奈子：アロマセラピー研修会、看護臨床現場で患者ケアに役立つアロマセラピーについて、青森県内施設看護師 42 名、2007 年 11 月 10-11 日、山本加奈子企画運営、青森県立保健大学、青森市

1) 岩月 宏泰

a. 学術論文

1) Meguro R, Asano Y, Odagiri S, Li C, Iwatsuki H, Shoumura K: Nonheme-iron histochemistry for light and electron microscopy: a historical, theoretical and technical review, Arch Histol Cytol, 70(1), pp1-19, 2007.

2) 岩月宏泰, 岩月順子, 久保貴裕: 片脚スクワット運動が片脚立位時の重心動揺に及ぼす影響—凍結路歩行時の転倒予防を目指して. 寒地技術論文, 報告集, 23 : 293-296, 2007.

3) 岩月宏泰, 岩月順子: 理学療法専攻学生を対象とした凍結路転倒予防用具についての意識調査. 寒地技術論文, 報告集, 23 : 507-511, 2007.

b. 学会発表:

1) 岩月宏泰, 鈴木孝夫: 強制運動による酸化ストレスがラット海馬神経細胞に及ぼす影響, 第42回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 34(大会特別号), 244, 2007年5月24-26日, 新潟市.

2) 岩月宏泰, 小島まゆみ: 身体障害者療護園利用者の縦断的体重変動と健康観との関連, 第42回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 34(大会特別号), 536, 2007年5月24-26日, 新潟市.

3) 生田泰敏, 岩月宏泰: 1年以上「福友ハツラツ教室」に参加した地域高齢者の身体機能と健康意識についての調査, 第42回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 34(大会特別号), 420, 2007年5月24-26日, 新潟市.

4) 安田雅美, 岩月順子, 岩月宏泰: 療法士の職務負担感についての要因構造分析, 第42回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 34(大会特別号), 1134, 2007年5月24-26日, 新潟市.

5) 久保貴裕, 河田江美, 岩月宏泰: 立位時に後方への外乱負荷をした際の下肢筋の運動学的解析, 第42回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 34(大会特別号), 259, 2007年5月24-26日, 新潟市.

6) 岩月宏泰: A Qualitative Evaluation of Motion Analysis Skills in Physical Therapy Students using the Eye Mark Recorder, 第62回日本体力医学会大会, Proc., 313, 2007年9月14-16日, 秋田市.

7) 岩月宏泰: 理学療法士・作業療法士の職務負担感

についての要因構造分析, 第45回日本病院管理学会総会, 病院管理 44, 235, 2007年10月25日-26日, 横浜市.

8) 岩月宏泰, 岩月順子: リハビリテーション実施計画書の利用者及びその家族に対する満足度調査, 第10回経営行動科学学会年次大会, Proc. 87-90, 2007年11月10-11日, 東京都.

9) 岩月宏泰, 久保貴裕, 岩月順子: 凍結路を想定した歩行の運動学的解析. 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会, Proc. 68-69, 2008年2月15日, 青森市.

10) Iwatsuki H, Shoumura K, Suzuki T: MORPHOLOGICAL EVIDENCE OF APOPTOSIS IN THE RAT KIDNEYS FOLLOWING STRENUOUS EXERCISE, World Congress of Physical Therapy 2007, 2007年5月31日—6月7日, Vancouver.

c. 報告書

岩月宏泰: リハビリテーション実施計画書作成のポイント. 通所介護&リハ, 5: 50-55, 2007.

d. 講演

1) 岩月宏泰: 血液検査で何がわかるのか, NPO法人斗南どんどこ健康村主催, むつグランドホテル, 2007年6月17日.

2) 岩月宏泰: 学部説明・模擬講義, 青森県立八戸高校, 2007年8月22日.

3) 岩月宏泰: 脳血管障害のリハビリテーション, NPO法人斗南どんどこ健康村主催, むつグランドホテル, 2007年9月22日.

4) 岩月宏泰: 職員研修, リハビリテーション報酬に関する介護保険と医療保険の違い, となみ療護園, 2007年10月28日.

5) 岩月宏泰: 職業講話, 青森市立戸山西中学校, 2007年11月12日.

2) 川口 徹

a. 学術論文(原著など)

・川口徹: 地域に根ざした理学療法による地域貢献と可能性—保健医療福祉の過疎地での展開. コミュニティワーク実践研究紀要, 2: 14-20, 2008.

d. 国内外で開催された学会発表(口頭発表)

・古江亮祐 1, 川口徹: 股関節外旋による筋力増強が片脚立位の重心動揺に及ぼす効果について. 第42回日本理学療法学会大会, 2007年5月, 新潟市.

1: 小林病院

3) 李 相 潤

・ Sato Astuko¹, Menzawa Kazuko², Lee Sangun, Hatakeyama Aiko¹, Sasaki Hidetada¹: Dietary Guidance for Obese Children and Their Families Using a Nutritional Balance Chart. J Am school of health 4, 95-102, 2007.

(¹Akita University of Nursing and Welfare, ²Hirosaki University)

「学会発表」

・ 李相潤、鈴木孝夫、橋本淳一、佐藤厚子: 高齢ラットを用いた低速トレッドミルにおける運動時間の相違が筋組織に及ぼす影響. 第23回日本健康科学学会、平成19年11月(東京)

4) 三 浦 雅 史

a 学術論文(原著)

1. 三浦雅史, 小田桐愛, 須藤宗¹, 三上綾子². カーリング選手のコンディショニングに関する検討. 理学療法研究 25, 35-38, 2008.

¹青森県立中央病院、²鷹揚郷青森病院

b 総説

1. 三浦雅史. あおもり「杖なし会」の活動と理学療法教育. 東北理学療法教育, 5(1), 1-4, 2007.

c 書籍・テキストなど

1. 三浦雅史. 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、第5巻 検査・測定と評価「関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査方法」. 日本体育協会(編). 東京, 文光堂, pp.32-33, 2007年9月. (共著)

d 学会発表

1. 小田桐愛, 三浦雅史, 吉俣美登利¹. 妊産婦の歩行分析、腰痛予防のための基礎研究. 第42回日本理学療法学会, 2007年5月25日, 新潟市, 2007

¹あおもり協立病院

2. 大門守雄¹, 三浦雅史, 中祐介². テーピングが膝関節位置覚へ及ぼす影響—Open Kinetic Chain と Closed Kinetic Chain の比較. 第42回日本理学療法学会, 2007年5月25日, 新潟市, 2007

¹兵庫県立総合リハビリテーションセンター、²中嶋病院

3. 三浦雅史. シンスプリントに対する装具療法(第2報)運動療法を併用した治療効果について. 第42

回日本理学療法学会, 2007年5月25日, 新潟市, 2007

4. 三浦雅史. 特定高齢者に対する介護予防事業のトレーニング効果. 平成19年度青森県理学療法士会症例検討会, 2008年2月, 青森市, 2008

その他 研究報告書

1. 三浦雅史. 講義・実習の電子媒体化とその活用について. 青森県立保健大学教育改善等助成研究費, 2008

5) 盛 田 寛 明

a 学術論文(原著)

1. 山下弘二, 盛田寛明, 小島俊夫¹. 脳卒中片麻痺患者におけるセグメンタル生体電気インピーダンス法を用いた筋量評価. 理学療法科学 23(1), 105-109, 2008.

¹健生病院

b 総説など

1. 盛田寛明, 渡部一郎. 物理療法; 牽引療法. 総合リハビリテーション 35 (5), 507-509, 2007.

c 書籍・辞書・テキストなど

1. 在宅ケア事典. (監) 日本在宅ケア学会, (編) 白澤政和¹, 福島道子², 他. 東京, 中央法規出版, 2007年12月. (共著)

¹大阪市立大学, ²日本赤十字看護大学

1-1. 盛田寛明. 閉じこもり. pp.126-127.

1-2. 盛田寛明. 通所リハビリテーション. pp.316-317.

1-3. 盛田寛明. 訪問リハビリテーション. pp.326-327.

1-4. 盛田寛明. 遊びリハビリテーション. pp.338-339.

1-5. 盛田寛明. 機能訓練. pp.372-375.

1-6. 盛田寛明. 保健機関・福祉施設におけるリハビリテーション. pp.478-479.

2. 盛田寛明. 第1部 Section 9 理学療法を支える法体系, 社会保障制度. 概説理学療法. (編) 嶋田智明¹. 東京, 文光堂, pp.102-114, 2007年12月. (共著)

¹神戸大学

3. 盛田寛明. 第1部専門職としての理学療法 Section 9 理学療法を支える法体系, 社会保障制度. 概説理学療法 教師用読本. (編) 嶋田智明¹. 東京, 文光堂, pp.124-138, 2008年3月. (共著)

¹神戸大学

d 学会発表

1. 盛田寛明, 磯 博康¹, 伊藤 日出男², 桜木康広, 勘林秀行, 李 相潤, 橋本淳一, 齋藤圭介³, 金沢善智⁴, 中村正直⁵, 氣仙 裕⁶, 千葉 直⁵. 低頻度の訪問リハビリテーションが日常生活活動自立度に及ぼす長期的な効果. 第42回日本理学療法学会大会, 2007年5月25日, 新潟市, 理学療法学 34 (supl 2), 530, 2007

¹大阪大学大学院, ²元青森県立保健大学, ³吉備国際大学, ⁴目白大学, ⁵むつりハビリテーション病院, ⁶東通村診療所

2. Hiroaki Morita, Hideki Sato. EFFECTS OF EXERCISE ON SELF-RATED HEALTH IN RETIRED MEN IN JAPAN. The World Confederation for Physical Therapy International Congress 2007, Jun 5, 2007, Vancouver, Canada.

3. Hiroaki Morita, Hideo Ito¹, Yasuhiro Sakuragi, Sangun Lee, Hideyuki Kanbayashi, Keisuke Saito², Yoshinori Kanazawa³. EFFECTS OF LOW-FREQUENCY VISITING PHYSICAL THERAPY ON ACTIVITIES OF DAILY LIVING AND FAMILY RELATIONSHIPS OF SUBJECTS IN REHABILITATION-DEPRIVED REGIONS. The World Confederation for Physical Therapy International Congress 2007, Jun 4, 2007, Vancouver, Canada.

¹元青森県立保健大学, ²吉備国際大学, ³目白大学

6) 長 門 五 城

a 学術論文 (原著)

長門五城. デュシェンヌ型筋ジストロフィーにおける電動車椅子座位保持に対するアプローチ. 理学療法研究 25, 39 - 43, 2008.

7) 小 田 桐 愛

d. 一般発表

1) 小田桐愛, 三浦雅史, 吉俣美登利: 妊産婦の歩行分析—腰痛予防のための基礎研究—. 第42回日本理学療法学会大会. 2007年5月24日~26日, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 新潟市, 第42回日本理学療法学会大会抄録集, p268, 2007.

8) 尾 崎 勇

紙上発表

1) Ozaki I, Hashimoto I¹: Human tonotopic maps and their rapid task-related changes studied

by magnetic source imaging. Can J Neurol Sci 34: 146–153, 2007.

¹: 金沢工業大学.

2) Jin CY¹, Ozaki I, Suzuki Y, Baba M¹ and Hashimoto I²: Hemispheric asymmetry in N100m current sources in auditory evoked fields: Comparison of ipsilateral versus contralateral responses. Cheyne D, Ross B, Stroink G, Weinberg H, editors, “Biomagnetism (International Congress Series 1300)” Amsterdam:Elsevier Science BV, pp 61-64, 2007.

¹: 弘前大学医学部脳研神経統御部門

²: 金沢工業大学.

3) Ozaki I: Changes in the primary sensory cortex during cognitive tasks. Proceedings of 2007 IEEE/ICME International Congress on Complex Medical Engineering. IEEE Catalog Number: 07EX1719C ISBN: 1-4244-1078-9 Beijing: Beijing Chuang yixingtong Exhibition Co. Ltd, pp 1507 – 1511, 2007.

4) Jin CY¹, Ozaki I, Suzuki Y, Baba M¹, Hashimoto I²: Dynamic movement of N100m current sources in auditory evoked fields: Comparison of ipsilateral versus contralateral responses in human auditory cortex. Neuroscience Research 60:397-405, 2008.

¹: 弘前大学医学部脳研神経統御部門

²: 金沢工業大学.

5) 尾崎 勇: 第9章 中枢神経系. 吉岡利忠, 内田勝雄編. 生体機能学テキスト第2版. 東京: 中央法規出版, pp 239–288, 2007 .

6) 尾崎 勇: Ballistic な示指伸展運動に伴う運動関連脳磁界と筋電図パターン. 臨床脳波 49(9): 570–578, 2007.

7) 尾崎 勇: 体性感覚 HFOs. 臨床脳波 49(1): 33–41, 2007.

8) 尾崎 勇, 橋本 勲¹: 電気磁気生理学. 体性感覚野高周波振動の発見. 神経内科66(6): 534-544, 2007.

¹: 金沢工業大学.

- 9) 福島真人, 尾崎 勇, 鈴木保巳, 小林哲生¹, 鄭 址旭¹: 選択的注意に伴う聴覚誘発電位の変化. 臨床神経生理 35(6): 499-514, 2007.
¹: 京都大学大学院工学研究科.
- 10) 高田博仁¹, 尾崎 勇: 後角病変と後索病変の鑑別における SEP の有用性. 頸髄症例の検討から. 臨床脳波 50(1): 10-17, 2008.
¹: 国立病院機構 青森病院神経内科.
- 一般発表, 講演など**
- 1) 石川県知的クラスター創成事業 研究チームミーティング基調講演会. 2007年2月9日 金沢市金沢テクノパーク, 電機金沢事業所リサーチセンター
尾崎 勇 「磁界計測による認知機構の解明について」
- 2) 横浜町健康づくり講演会 2007年2月22日(木) 横浜町ふれあいセンター
尾崎 勇 「メタボリック・シンドロームについて(特に糖尿病について)」
- 3) 2007 IEEE/ICME International Conference on Complex Medical Engineering -CME 2007(複合医工学国際会議) 2007年5月23-27日 中国北京市(Beijing Jingfeng Hotel)
Oral session : Cognitive Neuroimaging by Multimodal Techniques
Changes in the Primary Sensory Cortex during Cognitive Tasks
Isamu Ozaki
- 4) 第48回日本神経学会総会
2007年5月16-18日 愛知県名古屋市(名古屋国際会議場)
Marchiafava-Bignami 病の体性感覚誘発電位
尾崎 勇, 小川雅也¹, 鈴木千恵子², 富山誠彦², 東海林幹夫²
¹: 青森県立中央病院 神経内科
²: 弘前大学医学部 神経内科
- 5) 第11回認知神経科学学会学術集会
2007年7月21-22日 福岡県福岡市(九州大学医学部百年講堂)
選択的注意に伴う聴覚誘発電位の変化
福島真人¹, 尾崎 勇, 鈴木保巳, 鄭 址旭 (ジョン・ジーウク)², 小林哲生²
¹: 青森県立あすなろ医療療育センター
²: 京都大学大学院工学研究科
- 6) 第37回日本臨床神経生理学会学術大会
11月21-23日, 栃木県宇都宮市(栃木県総合文化センター, 宇都宮東武ホテルグランデ)
・ワークショップ 2 「問題症例の脳波・誘発電位」
低酸素脳症の体性感覚誘発電位
鈴木千恵子¹, 尾崎 勇, 東海林幹夫¹
¹: 弘前大学医学部脳神経内科学講座
・一般演題
選択的注意に伴う聴覚誘発電位の変化
福島真人¹, 尾崎 勇, 鈴木保巳, 鄭 址旭(ジョン・ジーウク)², 小林哲生²
ボトムアップの注意に伴う聴覚誘発電位の変化
元橋 亮 (青森県立保健大学), 尾崎 勇, 福島真人¹, 鄭 址旭², 小林哲生²
¹: 青森県立あすなろ医療療育センター
²: 京都大学大学院工学研究科
- 9) 渡部 一郎
- a. 学術論文 (原著)**
1. 渡部朋子、渡部一郎：リウマチ疾患患者の食習慣とメタボリックシンドロームの危険性：日本RAのリハビリ研究会 21:46-51, 2007
 2. 滝沢茂男、武藤佳恭、家本晃、高田一、長岡健太郎、渡部一郎：2種の創動運動の温熱画像による分析. Biomedical Thermology 26(4), 98-105, 2007
 3. 渡部一郎：若年習慣性喫煙者の1本喫煙後の生理作用：Biomedical Thermology 26, 67-71, 2007
 4. 三浦隆之、須藤竜生、渡部一郎：脳卒中症例の麻痺側・健側の手関節部皮膚温の臨床的検討、Biomedical Thermology 27, 72-76, 2007
 5. 渡部朋子、渡部一郎：大学生の夜間間食と腹囲：日本バイオフィリアリハビリテーション学会 10:1-4, 2007
 6. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The relationship between dietary habits and abdominal circumference in Japanese college students. 4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, ISBN978-88-7587 -345-5, Monduzzi Editore(Bologna, Italy), pp717-721, 2007
 7. Hidekatsu Yanai, Ichiro Watanabe, Kojiro Ishii, Mie Morimoto, Hironobu Fujiwara, Shigeru Yoshida, Shu-Ping Hui, Kazuhiko Matsuno and Hitoshi Chiba : Attenuated aerobic exercise capacity in CD36

deficiency, J Med Genetics44:445-447,2007

8. 渡部朋子、渡部一郎：青森の大学生の腹囲と食習慣・高血圧の関連.日本ヒューマンケア学会 1,56-59,2008
9. 渡部一郎、岸直也:脳卒中肩手症候群の肩・頸部温熱療法による交感神経ブロック様作用, Biomedical Thermology 27,45-49,2008

b. 総説

1. 盛田寛明、渡部一郎：牽引療法,総合リハビリテーション 35(5),507-509, 2007
2. 渡部一郎：「転換期にある保健・医療・福祉の課題～医療制度改革がもたらした現状と課題」、青森保健大学会誌 8(1):129-130, 2007
3. 岩川幹生、中野章生、小川麻子、山内俊彦、渡部一郎：帯電微粒子水が人体に及ぼす生理学的影響,松下電工技報 55(4),35-50, 2007
4. 渡部一郎：リハビリテーションによる痛みの軽減・予防と対策,流 259,24-30,2008
5. 渡部一郎：関節リウマチの運動療法と指導のポイント・注意点,通所介護&リハ 6(1),59-63, 2008

c. 著書

1. 渡部一郎:RA のリハビリテーション,内科学(朝倉書店)、1051-1053,2007
2. 渡部一郎：物理療法、NEW MOOK 整形外科 20 リハビリテーション (越智隆弘、菊地臣一編)、pp84-97, 金原出版 2007(東京)

発表

1. 渡部一郎：野辺地福祉健康セミナー、メタボリックシンドローム、2007.1.27,野辺地老人センター
2. 渡部一郎：習慣性喫煙者の1回喫煙が局所循環・局所発汗に与える影響：青森保健医療福祉研究発表会 2007.2.16、青森
3. 渡部朋子、渡部一郎：大学生の食習慣と腹囲の関係：青森保健医療福祉研究発表会 2007.2.16、青森
4. 渡部一郎：外来関節リウマチのメタボリックシンドロームと食運動習慣、52回日本リウマチ学会(横浜)、2007,4,27
5. 渡部一郎：脳卒中に対する頸部温熱療法の麻痺側上肢血流改善作用。第72回日本温泉気候物理医学会,2007.5.18,箱根
6. 渡部一郎、岩川幹生、山内俊幸：静電微粒子水の人に対する生理学的検討。第72回日本温泉気

候物理医学会,2007.5.18,箱根

7. 渡部一郎,上月正博,田中尚文, 永田雅章, 馬庭壮吉, 前田真治：リハビリテーション専門医の療法士養成校教育と実習受け入れ教育の現状と課題-リハビリテーション関連専門職委員会のアンケート結果から-,第44回日本リハビリテーション医学会、2007.6.6,神戸
8. 渡部一郎(教育講演)：喫煙とメタボリック症候群自動車損害保険機構 2007.6.22,八戸
9. 渡部一郎(特別講演)：RAの痛みとリハビリテーション 日本リウマチ友の会青森支部会 2007.6.23,青森
10. Ichiro Watanabe: The questionnaire survey of Japanese rehabilitation doctors in the therapist education. 4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
11. Ichiro Watanabe, Naoya Kishi : Thermotherapy on the neck improved the circulation of the hemi paralytic hands in stroke patients:4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
12. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The relationship between dietary habits and abdominal circumference in Japanese college students. 4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
13. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The Dietary habits of the patients in rheumatoid arthritis and risks of metabolic syndrome.4th World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, Seoul(Korea),June 10-14,2007
14. 渡部朋子、渡部一郎：大学生の食習慣と高血圧。第11回日本バイオフィリアリハビリテーション学会、2007年8月24日、横浜
15. 渡部一郎、岸直也：頸部温熱療法の交感神経抑制作用、第24回日本サーモロジー学会,2007.8.31, 東京
16. 渡部一郎(シンポジウム)：サーモロジー(温熱学)研究の展望、第24回日本サーモロジー学会,2007.8.31,東京
17. 渡部一郎(特別講演)：RAの痛みと心のケア 第4回関節リウマチトータルマネージメント研究会 2007.10.20,東京

18. 渡部一郎(シンポジウム): 関連専門職の動向から見たリハ科専門医の需給, 第2回日本リハビリテーション医学会専門医会, 2007.12.8, 札幌
19. 渡部一郎(教育講演): 一般医家に役立つ骨・関節疾患のリハビリテーション研修会-運動器疾患の物理療法, 日本リハビリテーション医学会, 2007.12.15, 東京
20. 渡部一郎: リウマチの痛みとリハビリテーション(教育講演)、第36回苫小牧リハビリテーション研究会 2008.3.18, 苫小牧

10) 山下 弘 二

学術論文(原著など)

- ・山下弘二: 多目的な障害予防のためのニコニコ体操. 青森県立保健大学紀要 8(1): 1-6, 2008.
- ・山下弘二, 小田桐愛, 佐藤秀一, 佐藤秀紀他: 中高年者における日常身体活動量と身体特性および脈波伝搬速度との関連性. 理学療法科学 22(1): 133-137, 2007.
- ・勘林智子, 佐藤秀一, 佐藤秀紀, 山下弘二: シートクッションの材質特性が前方リーチ動作に及ぼす影響. 青森県立保健大学紀要 8(1): 37-44, 2007.
- ・佐藤秀一, 佐藤秀紀, 山下弘二: 起立動作における下肢の力学的負担の計測. 青森県立保健大学紀要 8(1): 45-48, 2007.
- ・佐藤秀一, 佐藤秀紀, 山下弘二: 起立動作時の座面傾斜角度と膝関節エネルギー量. 青森県立保健大学紀要 8(1): 63-66, 2007.

会発表など

- ・山下弘二, 小島俊夫, 佐藤秀一, 佐藤秀紀: 生体電気インピーダンス法による脳卒中片麻痺患者の筋量測定の検討. 第34回日本理学療法学会大会, 新潟市, 2007年5月24日.

1) 千葉 たか子

1. 誌上発表

千葉たか子¹:エンパワーメント指標考察 -ジェンダーと開発の領域において-。青森県立保健大学雑誌、第8巻第1号、27-36、2007

¹ 青森県立保健大学

千葉たか子¹:マドプール村の開発 -インド国西ベンガル州の少数民族の村の変化-。青森県立保健大学雑誌、第8巻第2号、225-235、2007

¹ 青森県立保健大学

千葉たか子¹:オンクル・カラとエンパワーメント-インドの女性のための自立支援民間団体の活動-。

(財)アジア女性交流・研究フォーラム『アジア女性研究』第17号、55-61、2008

¹ 青森県立保健大学

山田典子¹、川内規会¹、千葉たか子¹、渡邊一郎¹、リュボヴィッツよし子¹:健康科学教育センター国際科の発展途上国における地域交流の現状-国際交流事業の教育的意義の検討-。青森県立保健大学雑誌、第8巻第2号、267-273、2007

¹ 青森県立保健大学

2. 一般発表など

千葉たか子¹:エンパワーメント指標の考察 -開発と女性の領域で-。日本社会福祉学会第55回大会、2007年09月22日、大阪市立大学、大阪市、『日本社会福祉学会第55回全国大会報告要旨集』、316

¹ 青森県立保健大学

2) 石田 賢哉

a 学術論文

石田賢哉:社会福祉からみたリスクマネジメントとは 保険、医療、福祉分野からみたリスクマネジメントのレビュー。コミュニティワーク実践紀要第2号2008、59-66、2008年3月

b 総説・報告書など

報告書:社団法人茨城県精神障害者福祉会連合会【調査研究プロジェクト】『平成18年度障害保健福祉推進事業等事業(障害者自立支援調査プロジェクト)報告書』2007年6月

(担当部分第3章-4 41-71)

c 教科書など

石田賢哉:第8章3 ソーシャルワークリサーチ(社会福祉調査),大正大学社会福祉研究会編:人間っていいな社会福祉原論I,113-115,2007年5月,大正大学出版会。

d 学会発表

1) 石田賢哉:作業所職員の職務満足と負担感、支援の視点、大切にしている作業所像について-練馬区作業所連絡会に加盟する作業所職員との共同研究-。日本社会福祉学会東北部会第7回研究大会,2007年7月20日,仙台市。

2) 石田賢哉:作業所に通う精神障害のある人の就労への意向と希望について-作業所の役割の再検討と障害者自立支援法のより良い運用に向けてのいくつかの課題-。日本精神障害者リハビリテーション学会第15回名古屋大会,2007年11月22日,名古屋市。

3) 加賀谷 真紀

発表等

・大和田猛^{*1},工藤久^{*2},加賀谷真紀^{*1},工藤英明^{*2},戸来睦雄^{*3}(^{*1}青森県立保健大学,^{*2}秋田看護福祉大学,^{*3}弘前福祉短期大学)「グループホームにおける認知症高齢者のケア効果の実態に関する調査研究(青森県立保健大学健康科学特別研究)」より「グループホーム職員の認知症諸療法等の理解度と関連要因について」平成19年度第4回青森県立保健大学研究談話会2007年9月。

講演等

・加賀谷真紀:社会福祉法人青森市社会福祉協議会主催 介護員養成研修3級課程「介護概論」青森市2007年10月。

4) 増山 道康

1. 誌上発表・単行本

増山道康:占領初期「理想的社会保障制度」構想の展開過程と帰結。青森県立保健大学雑誌、第8巻第1号、77-90、2007

¹:青森県立保健大学

増山道康:障害者自立支援法がもたらした現状と課題-障害者とその家族に焦点をあてて。青森県立保健大学雑誌、第8巻第1号、125-128、2007

増山道康:社会福祉サービス事業者のための苦情解決研修プログラム-職員のスキル向上のための特

性要因図を活用した OJT。健康と生活シリーズ NO.14,青森県立保健大学教育センター,2008

2. 一般発表など

増山道康：北国の小規模大学における高大連携授業について。日本福祉学教育学会第3回大会,2007年11月2-3日,北星大学,札幌,報告要旨集43-44,2007

増山道康：障害者自立支援法の小規模作業所等経営への影響について。日本NPO学会第10回年次大会,2008年3月15-16日,中央大学,文京区,報告要旨集22,2008

5) 大竹 昭裕

<著書>

・大竹昭裕『「法律と生活」学習資料』（青森県立保健大学健康科学教育センター研修科平成19年度教育改善研究助成、2007年10月）

・大竹昭裕「法律の留保」、「民定憲法」、「自然権」、「マグナ・カルタ」、「人権宣言」、「近代立憲主義」、「ワイマール憲法」、「世界人権宣言」、「国際」大沢秀介編『確認 憲法用語300』（成文堂、2008年1月）

<講演など>

・大竹昭裕「平成19年度社会福祉主事資格認定講習会 法学（憲法中心）」（青森県立保健大学健康科学教育センター、2007年9月）

6) 大山 博史

学術論文（原著）

1) 大山博史, 坂下智恵：わが国における高齢者自殺とその予防—現状と課題—。老年精神医学雑誌, 19, 153-161, 2008.

2) Oyama H, Sakashita T, Ono Y¹, Goto, M.², Fujita, M.³, Koida, J.⁴ Effect of community-based intervention using depression screening on elderly suicide risk: a meta-analysis of the evidence from Japan. Community Mental Health Journal 44, 2008

¹:慶應義塾大学, ²:新潟大学, ³:新潟精神医療センター, ⁴:岩手県立二戸病院

3) 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 大山博史, 福田誠¹, 嗟峨井勝: 国保レセプトと住民基本健康診断データを用いた「脳卒中」と「虚血性心疾患」のリスクスコア計算法的中度の比較。日本ヒューマンケ

ア科学会誌, 1 (1) , 61-69, 2008.

¹:青森県健康福祉部

その他

1) 中路重之, 佐々木義のり, 渡邊直樹, 大山博史: 産業医のメンタルヘルスとの関わりを中心とした調査研究—北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形産業保健推進センター共同調査研究—。青森産業保健推進センター平成18年度調査研究報告書, 独立行政法人労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター。2007

書籍、単行本等

1) 坂下智恵, 大山博史: 高齢者への精神保健学的アプローチ。エイジング心理学—老いについての理解と支援—, 谷口幸一, 佐藤真一編, 177-191, 2007年8月, 北大路書房, 京都.

2) 大山博史: 自殺予防. 在宅ケア事典, 日本在宅ケア学会監修, 102-103, 2007年12月, 中央法規出版, 東京.

学会発表

1) 大野裕¹, 栗田主一², 大山博史, ほか: 地域における自殺予防活動の重要性と NOCOMIT-J のかわり. 第103回日本精神神経学会総会, 2007年5月17日-19日, 高知県立県民文化ホール, 高知市.

¹:慶應義塾大学, ²:仙台市立病院,

2) 大山博史, 坂下智恵: プライマリケアにおけるうつ病治療と自殺対策. 第22回日本家庭医療学会, 2007年6月23日-24日, 損保会館, 東京.

3) 加賀司¹, 岩藤裕樹¹, 坂下智恵, 工藤清次郎¹, 高橋玲子¹, 橋本修², 山下博², 大山博史: 精神科デイ・ケアにおける報酬付き就労体験プログラムの効果—統合失調症者に対する過程評価と1年半後の経過—. 第12回日本デイケア学会, 平成19年9月13日-15日, 北海道厚生年金会館, 札幌市.

¹:医療法人清照会湊病院, ²:青森県精神保健職親会

4) 大山博史, 坂下智恵: 医療関係者のうつ・自殺予防を考える. 第55回日本職業・災害医学会, 2007年11月2日-3日, 名古屋国際会議場, 名古屋市

5) 大山博史: 「アルコール、うつ、自殺」について. 第19回東北アルコール関連問題研究会, 2007年11月17日-18日, まべち苑, 二戸市

6) 鈴木希久子¹, 坂下智恵, 八嶋昭子¹, 小又陽子¹, 反町秀吉², 鳥谷部牧子², 千葉敦子, 渡邊直樹³, 大山博史: 青森県七戸町における中高年者自殺予防活動—うつ病対策による地域介入プログラムの効果

評価一. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 2007 年 2 月 15 日, 青森県立保健大学, 青森市
1:七戸町健康福祉課, 2:上北地域県民局地域健康福祉
部保健総室, 3:青森県精神保健福祉センター

7) 齋藤 史彦

c 書籍・翻訳書・辞書・テキストなど

社団法人日本社会福祉士養成校協会編 第 19 回社
会福祉士国家試験解説集 p250~253 平成 19 年 7
月

8) 坂下 智恵

学術論文(原著)

1) 坂下智恵: 自殺率とうつ病受診率の関連性に影響
を与える要因—四国地方郡部における国保レセプト
データを用いた予備的研究—. 最新精神医学, 12(4),
369-376, 2007

2) 大山博史, 坂下智恵: わが国における高齢者自殺
とその予防—現状と課題—. 老年精神医学雑誌,
19(2), 153-161, 2008

3) Oyama H, Sakashita T, Ono Y, Goto M, Fujita
M, Koida J.: Effect of community-based
intervention using depression screening on elderly
suicide risk: a meta-analysis of the evidence from
Japan. Community Mental Health Journal 44,
2008

1:慶應義塾大学, 2:新潟大学, 3:新潟精神医療センター,
4:岩手県立二戸病院

書籍

1) 坂下智恵, 大山博史: 高齢者への精神保健学的ア
プローチ. エイジング心理学—老いについての理解
と支援—, 谷口幸一, 佐藤眞一編, 177-191, 2007
年 8 月, 北大路書房, 京都.

学会発表

1) 坂下智恵, 大山博史: プライマリケアにおけるう
つ病治療と自殺対策. 第 22 回日本家庭医療学会,
2007 年 6 月 23-24 日, 損保会館, 東京.

2) 加賀司¹, 岩藤裕樹¹, 坂下智恵, 工藤清次郎¹,
高橋玲子¹, 橋本修², 山下博², 大山博史: 精神科
デイ・ケアにおける報酬付き就労体験プログラムの
効果—統合失調症者に対する過程評価と 1 年半後の
経過—. 第 12 回日本デイケア学会, 平成 19 年 9 月
13-15 日, 北海道厚生年金会館, 札幌市.

1:医療法人清照会湊病院, 2:青森県精神保健職親会

3) 大山博史, 坂下智恵: 医療関係者のうつ・自殺予
防を考える. 第 55 回日本職業・災害医学会, 2007
年 11 月 2-3 日, 名古屋国際会議場, 名古屋市

4) 鈴木希久子¹, 坂下智恵, 八嶋昭子¹, 小又陽子¹,
反町秀吉², 鳥谷部牧子², 千葉敦子, 渡邊直樹³,
大山博史: 青森県七戸町における中高年者自殺予防
活動—うつ病対策による地域介入プログラムの効果
評価—. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会,
2007 年 2 月 15 日, 青森県立保健大学, 青森市
1:七戸町健康福祉課, 2:上北地域県民局地域健康福祉
部保健総室, 3:青森県精神保健福祉センター

9) 安田 勉

学会発表

・安田勉「労働者のメンタルヘルスケアの一環とし
ての研修会の方法と課題」日本精神衛生学会主催 M
CRT 第 2 回全国研究集会, 2007 年 5 月

・安田勉「学生への『カウンセリング』指導に関
する—考察」東北心理科学研究会夏の集会, 2007
年 9 月

学術論文など

・安田勉「児童の発達と児童養護施設における支援
—各施設からの事例をもとに—」児童養護あおもり,
第 23 号, 2008 年 3 月

講演等

・安田勉: 平成 19 年度臨床実習指導者会議特別講
演 講師 (青年期の心理と臨床実習における留意点),
弘前ホスピタルアカデミー, 2007 年 4 月

・安田勉: 青森県保健師自主学習会 14 回研修会 講
師 (仕事に活かす交流分析), 青森県保健師自主学習
会 step1 主催, 2007 年 4 月

・安田勉: 介護福祉士会総会基調講演 講師 (介護
労働者の生きがいとメンタルヘルス), 青森県介護福
祉士会主催, 2007 年 5 月

・安田勉: 平成 19 年度青森県児童相談所児童福祉
司研修会 講師 (ソーシャルワーカーのための面接
技法 I), 青森県中央児童相談所主催, 2007 年 5 月

・安田勉: 平成 19 年度青森県児童相談所児童福祉
司研修会 講師 (ソーシャルワーカーのための面接
技法 II・III), 青森県中央児童相談所主催, 2007 年
5 月

・安田勉: 平成 19 年度訪問看護師養成研修会 講
師 (面接技法), 青森県看護協会主催, 2007 年 6 月

・安田勉: 平成 19 年度介護支援専門員研修会 講

師（対人個別援助技術）、青森県介護支援専門員協会
主催、2007年7月

・安田勉：青森県栄養士会保健指導実践者育成研修
会（行動変容へのアプローチ—行動科学からカウ
ンセリングの技術を学ぶ） 講師、青森県栄養士会
主催、2007年7月

・安田勉：青森県立中央病院研修会 講師（家族面
接の技法）、青森県立中央病院主催、2007年9月

・安田勉：平成19年度介護福祉基礎講座 講師（老
人・障害者の心理）、青森県社会福祉協議会主催、
2007年9月

・安田勉：平成19年度施設等相談援助職員中堅研
修会（面接技法とコミュニケーション）、秋田県福祉
保健研修センター主催、2007年11月

・安田勉：五所川原児童相談者研修会 講師（面接
技法・解決志向的アプローチ）、五所川原児童相談所
主催、2007年11月

・安田勉：五所川原児童相談者研修会 講師（面接
技法・解決志向的アプローチ）、五所川原児童相談所
主催、2007年12月

・安田勉：平成19年度栄養改善推進中央研修会（行
動変容のためのアプローチ—栄養指導のためのカウ
ンセリング技術、2007年12月

・安田勉：相談支援従事者スキルアップ研修会（相
談支援における面接技法とコミュニケーション）秋
田県、2008年2月

1) 浅田 豊

著書など

・浅田豊監修・執筆：放課後子どもプラン運営の手引き、青森県放課後子どもプラン推進委員会発行、2008年3月。

学術論文(原著など)

・千葉敦子、竹森幸一、山本春江、工藤奈織美、浅田豊：TYA方式による健康教室参加者の学びと参加体験に関する現象の検討。日本健康教育学会誌 第15巻、第3号、P156-166。2007年8月。

・千葉敦子、山本春江、竹森幸一、工藤奈織美、浅田豊、長谷川衣子、長谷川しぐれ：健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索－減塩教室参加者の特性に関する検討－。青森県立保健大学雑誌 第8巻第2号、P237-244。2007年12月。

・千葉敦子、山本春江、工藤奈織美、浅田豊、竹森幸一：健康教室における参加者の学びが家族や地域へ波及する現象についての探索－減塩教室参加者の1年間の伝達状況－。日本ヒューマンケア科学学会誌 第1巻第1号 p2-10。2008年3月。

学会発表

・浅田豊、山本春江、竹森幸一、千葉敦子(青森県立保健大学)、長谷川衣子、長谷川しぐれ、齋藤菜推美(青森県鶴田町)：健康教育TYA方式における実践目標の主体的構築の評価～教育プログラム調整に伴う学びの変化の有無と学習過程の概略～ 第56回東北公衆衛生学会、2007年。

・Nobuko OZEKI, Hiroshi USHJIMA1), Alan KNOWLES, Yutaka ASADA : Trans-cultural Stress and Adaptation of Female Foreign Students The 15th International Congress of The International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology (京都市) 平成19年5月14日 Abstract: p159 1 : 東京大学大学院医学系研究科

・大関信子、ノールズ・アラン、浅田豊：北京在住日本人母親の育児ストレス要因の分析。第66回日本公衆衛生学会。松山市。抄録集 p663。平成19年10月25日。

・大関信子、渋谷泰秀、佐藤愛、アラン・ノールズ、浅田豊：国家試験前の看護学生のストレスコ

ーピング方法と支援策の検討。第27回日本看護科学学会学術集会、東京都、抄録集 p339 2007年12月7日

2) 藤田 修三

著書

①編者：上野川修一、菅野道廣、山田和彦

著者：吉田昭、菅野道廣、藤田修三ほか

『食べ物と健康I』南江堂(東京)平成19年4月

②編者：奥田豊子、春木ら

著者：奥田豊子、藤田修三ほか多数

『管理栄養士コースで学ぶ』同文書院(東京)平成19年4月

学術論文

①齋藤長徳、高橋サツ、藤田修三

齋藤長徳、藤田修三効率的な栄養管理を行うための合理的な給食経営管理に関する研究、

青森県立保健大学雑誌、8(1)99-104(2007)

②黒石市での肥満改善健康教育プログラムの実施効果、青森県立保健大学雑誌、8(1)91-9(2007)

学会発表

①熊谷貴子、森永八江、岩崎朋美、大室裕美子、藤田修三

食事機能リハビリテーション食の開発研究

第61回日本栄養・食糧学会大会、平成19年5月

②森永八江、駒田亜衣、藤田修三

黒石市における肥満改善を目的とした健康教育プログラムの影響

第54回日本栄養改善学会学術総会、平成19年9月

③藤田修三、森永八江、熊谷貴子、村上直子、近藤文俊、村元英美、高田晴子

肥満の改善健康教室での加速度脈波の導入

第6回日本加速度脈波・複雑系研究会、平成19年11月

④熊谷貴子、野川綾佳、藤田修三

モチ小麦を用いた摂食・嚥下機能リハビリテーション食の開発研究

2007年度青森県保健医療福祉研究発表会、平成20年2月

⑤森永八江、佐藤伸、藤田修三

加速度脈波の動物実験用測定システムの開発

2007年度青森県保健医療福祉研究発表会、平成20年2月

3) 羽 入 辰 郎

著書

『マックス・ヴェーバーの哀しみ』、単著、PHP新書、2007年11月。

原著論文

「ポパイとサザエさん——日米における倫理的文化形態の差異とその相互葛藤への一考察」（『倫理学の文化形態論的研究』、平成17年度—平成19年度科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書）

4) 廣 森 直 子

学術論文

・廣森直子, 山内修, 中堀久子, 工藤睦美: 青森県における知的障害のある人の生涯学習活動の現状と課題—受講生調査から—。青森県立保健大学雑誌, 8(2), 245-253, 2007

学会発表 (口頭)

・廣森直子: 青森県における知的障害者の生涯学習活動—生涯学習活動の受講生調査から—。第31回教育社会学・社会教育学 東北・北海道研究集会, 函館市公民館, 2007年6月

・廣森直子, 朴木佳緒留, 平川景子: 男女平等の職場づくりと女性労働者の学び—自治体職員と女性ユニオン東京組合員の事例から—。日本社会教育学会第54回研究大会, 東京農工大学, 2007年9月

・廣森直子: 地域における知的障害者の生涯学習活動の現状と課題—青森県の実態調査から—。日本教育社会学会第59回大会, 水戸大学, 2007年9月

5) 岩 井 邦 久

a 学術論文 (原著)

1) Iwai, K., Matsue, H.: Ingestion of *Apios americana* Medikus tuber suppresses blood pressure and improves plasma lipids in spontaneously hypertensive rats. *Nutr. Res.*, **27**(4), 218-224, 2007.

b 総説など

1) Iwai, K.: Healthy Benefits and Bioactive Phenolic Compounds in the Fruit of *Viburnum dilatatum* Thunb. *Recent Progress in Medicinal Plants*, Vol. 23, *Phytopharmacology & Therapeutic Values V.*, pp. 121-140, 2008.

c 書籍など

1) 岩井邦久: ナガイモ. *健康*, 6月号, pp. 1-1, 2007.

d. 学会発表

1) 岩井邦久, 小野寺昭夫, 岩井佳代, 松江一: ガマズミ果実残渣由来ポリフェノールの酸化抑制効果. 第61回日本栄養・食糧学会大会, 2007年5月17日, 国立京都国際会議場, 京都市.

2) 西嶋智彦, 岩井邦久, 齋藤康雄, 松江一: りんごペクチンがフラボノイド吸収に与える影響. 第61回日本栄養・食糧学会大会, 2007年5月17日, 国立京都国際会議場, 京都市.

3) 岩井邦久, 松江一: 微弱発光測定による食品成分の抗酸化活性の評価に関する研究. 研究談話会・特別研究報告, 2007年9月12日, 青森県立保健大学, 青森市.

4) 岩井邦久: ガマズミ四方山話—マタギの秘薬から健康食素材へ—. *医療・健康福祉関連ビジネスサロン*, 2007年10月26日, 八戸ユートリー, 八戸市.

5) 岩井邦久: 海藻と健康. 第9回食育と未病フォーラム, 2007年10月27日, 青森中央学院大学, 青森市.

6) K. Iwai, A. Onodera, K. Iwai, H. Matsue: Antioxidative and antihyperglycemic effects of dietary *Viburnum dilatatum* pomace polyphenols in diabetic mice. 3rd International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2007), 2007/11/25-28, Kyoto.

7) D. Kashiwakura, H. Matsue, K. Iwai: α -Glucosidase inhibitory activity of brown algae *Ecklonia stolonifera* polyphenol. 3rd International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2007), 2007/11/25-28, Kyoto.

8) K. Iwai, S. Kuramoto, H. Matsue: Suppressing effect of *Apios americana* on blood pressure in SHR and its active peptide. International Conference on Food Factors for Health Promotion (ICoFF2007), 2007/11/27-12/1, Kyoto.

9) 岩井邦久: 地域食資源に含まれる糖質の新しい生理機能—アピオス, リンゴを中心に—. 第7回青森糖質研究会, 2008年2月8日, 弘前大学, 弘前市.

10) 森永八江, 岩井邦久, 富田, 奈良岡哲志, 松江一: エチゼンクラゲの有効利用に関する研究. 高濃度ペプチド溶液の調製法の開発. 2007年度青森県保

健医療福祉研究発表会, 2008年2月15日, 青森県立保健大学, 青森市.

11) 岩井邦久: 「地域資源を生かした産官学連携による地域産業の振興」～ガマズミやアピオスから三八の特産品作りを目指して～. 地域産業活性化に向けた異業種交流講演会 (八戸インテリジェントプラザ), 2008年2月18日, 八戸プラザホテル, 八戸市.

12) 岩井邦久: 青森の地域食資源の機能性研究, 利用, 現場での活動. グリコ乳業株式会社講演会, 2008年3月18日, グリコ乳業株式会社中央研究所, 東京都.

e 学会、研究室、地方会などの主催

1) 第1回ガマズミ活用研究会, 2007年11月12日, 三戸町役場, 三戸町.

2) 市民フォーラム「食育と健康フォーラム」. 2007年10月27日, 青森中央学院大学, 青森市.

3) 第2回ガマズミ活用研究会・試食会, 2008年3月14日, 青森国際ホテル, 青森市.

6) 井澤 弘美

学術論文 (原著)

Hiromi IZAWA, Gen WATANABE, Kazuyoshi TAYA and Masaru SAGAI. : Inhibitory Effects of Foods and Polyphenols on the Activation of the Aryl Hydrocarbon Receptor Induced by Diesel Exhaust Particles. *Environmental Sciences* 14(3), 149-156, 2007.

Hiromi IZAWA, Machiko KOHARA, Gen WATANABE, Kazuyoshi TAYA and Masaru SAGAI. : Diesel exhaust particle toxicity on spermatogenesis in the mouse is arylhydrocarbon receptor dependent. *Journal of Reproduction and Development* 53(5) 1069-1078, 2007.

Hiromi IZAWA, Machiko KOHARA, Gen WATANABE, Kazuyoshi TAYA and Masaru SAGAI. : Effects of diesel exhaust particles on the male reproductive system in strains of mice with different aryl Hydrocarbon receptor responsiveness. *Journal of Reproduction and Development* 53(6) 1191-1197, 2007.

学会発表

井澤弘美, 嵯峨井勝, 駒田亜衣, 山田真司, 福田誠. 心疾患と脳血管疾患のリスクを予測する各種 Health Risk Appraisal ソフトの妥当性の比較検討.

第39回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2007年7月

駒田亜衣, 森永八江, 山田真司, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝. 心疾患発症リスクスコアと食事性因子に関する公衆栄養学的研究. 第54回栄養改善学会学術総会. 2007年9月

嵯峨井勝, 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 福田誠. 脳卒中と心疾患のリスクを予測する各種計算法の精度の比較と発症予防効果の評価. 第66回日本公衆衛生学会総会. 2007年10月

7) 熊谷 貴子

a 学術論文 (原著)

1) 斎藤長徳¹, 森永八江, 駒田亜衣, 高橋サツ², 熊谷貴子, 藤田修三: 黒石市での肥満改善健康教育プログラムの実施効果. *青森県立保健大学雑誌*, 8, 91-98, 2007.

¹: 黒石市国民健康保険黒石病院, ²: 黒石市福祉部
2) 花田玲子¹, 熊谷貴子: 食生活習慣と献立作成能力の関連について, *東北女子大学・東北女子短期大学紀要*, 46, 53-63, 2007.

¹: 東北女子大学

b 報告書

1) 藤田修三, 熊谷貴子, 森永八江: モチ小麦を用いた嚥下障害改善および高齢者用機能食の開発研究, *青森県立保健大学・特別研究 最終報告書平成17年度～18年度*, 2007.

d 国内外で開催された学会発表

1) 熊谷貴子, 森永八江, 藤田修三, 岩崎朋美, 大室裕美子: 食事機能リハビリテーション食の開発研究, 第61回日本栄養・食糧学会大会, 2007.5.17-20, 国立京都国際会館, 京都市.

2) 藤田修三, 森永八江, 熊谷貴子, 村上直子, 近藤文俊, 村元英美, 高田晴子: 肥満の改善健康教室での加速度脈波の導入—黒石市での3ヶ年間調査より—. 第6回加速度脈波複雑系研究会, 2007.11.17, ナチュラルホテル エルセラーン, 名古屋市.

3) 花田玲子, 熊谷貴子: 栄養士を目指す学生の献立作成能力と食習慣の関連, 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会, 2008.2.15, 青森県立保健大学, 青森市.

4) 熊谷貴子, 野川綾佳, 藤田修三: モチ小麦を用いた摂食・嚥下機能リハビリテーション食の開発研究, 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会,

2008. 2. 15, 青森県立保健大学, 青森市.

8) 松 江 一

a 学術論文 (原著)

- 1) 井澤弘美、野澤めぐみ、佐藤伸、松江一、嵯峨井勝、藤田修三、他 4 名. 地域健康教室への血液サラサラ検査の導入. 日本未病システム学会誌 11 (1), 194-195, 2005.
- 2) K. Iwai, M-Y. Kim, A. Onodera, H. Matsue: α -Glucosidase inhibitory and antihyperglycemic effects of polyphenols in the fruit of *Viburnum dilatatum* Thunb. J. Agric. Food Chem. 54(13). 4588-4592, 2006.
- 3) Iwai K., Kuramoto S., and Matsue H.: J. Clin. Biochem. Nutri. Antihypertensive and Hypolipidemic Effects of Tuber of *Apios Americana* Medikus in SHR. Vol. 41, 115, 2007.
- 4) 松江 一、高谷芳明、内沢秀光、一戸秀隆: 新しい健康機能糖質の生産とその利用-その2. 食品工業, 49 (14), 36-46, 2006.

c 書籍

- 1) 松江一: イカスミの抗腫瘍活性成分 (分担執筆); 呼子のイカはなぜ美味しい?、野村祐三編集、太田善久監修、pp52-61、株式会社幻燈社メデアコンサルタント、2006年11月発行

d. 学会発表

- 1) 西嶋智彦、岩井邦久、斉藤康雄、松江一: リンゴペクチンがフラボノイドに与える影響. 第61回日本栄養・食量学会, 2007年5月19日, 京都国際会議場, 京都市.
- 2) 岩井邦久、小野寺昭夫、岩井佳代、松江一: ガマズミ果実残渣由来ポリフェノールの酸化抑制効果. 第61回日本栄養・食量学会, 2007年5月19日, 京都国際会議場, 京都市.
- 3) K. Iwai, S. Kuramoto and H. Matsue: Suppressing effects of *Apios Americana* on blood pressure in SHR and its active peptide. International Conference on Food Factors for Health Promotion. ICoFF2007, Nov. 28-Dec. 1, 2007, Kyoto, Japan.
- 4) K. Iwai, A. Onodera, K. Iwai and H. Matsue: Antioxidative and antihyperglycemic

effects of dietary *Viburnum dilatatum* pomace polyphenols in diabetic mice. 3rd International Conference on Polyphenols and Health. ICPH2007, Nov. 25-27, 2007, Kyoto, Japan.

- 5) D. Kashiwakura, K. Iwai and H. Matsue: α -Glucosidase inhibitory activity of brown algae *Ecklonia stolonifera* polyphenol. 3rd International Conference on Polyphenols and Health. ICPH2007, Nov. 25-27, 2007, Kyoto, Japan.

e 依頼講演又特別講演

- 1) 松江一: 地域資源に新たな可能性を求めて、平成19年度東北町食生活改善推進研修会、研修会特別講演、2007年4月20日, 上北町
- 2) 松江一: イカ・タコ・青森県の食資源-メタボを防ぐには-、平成19年度健康教室 in 佐井村、教育講演、2007年7月26日, 佐井村.
- 3) 松江一: 地域資源に新たな可能性を求めて-先端科学を地域食資源に-、弘前大学地域共同研究センター教育講演、2007年7月31日, 弘前市.
- 4) 松江一: 朝食について-朝ご飯はなぜ必要か?-、青森市立小柳小学校保健活動教育講演、2007年11月22日, 青森市.
- 5) H. Matsue, M. Kim and K. Iwai: The Approach to Local Region Vitalization Utilizing Physiological Functions of the Fruit of *Viburnum dilatatum* Thunb. International Symposium on Health-benefit Functional Food from Regional Bio-resources. 2008. 24 Taegu, Korea
- 6) H. Matsue, M. Kim and K. Iwai: New light of development of regional resources. Special lecture for CEO of venture enterprises on Kypook University. 2008. 25 Taegu, Korea

f 学会、研究室、地方会などの主催

- 1) 市民フォーラム「食育と健康フォーラム」. 2007年10月27日, 青森中央短期大学, 青森市. 日本未病学会システム評議員及び実行委員.
- 2) 平成19年度日本食品科学工学会理事会総会. 2008年3月28日, 東京都, 本部理事として議長.

- 3) 青森県立保健大学研究談話会の開催、2007年度11回開催、発表者20名、延べ参加人数235名、実行委員長。
- 4) 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会の開催、2008年2月15日、青森県立保健大学、青森市、口述発表18題、ポスター発表13題、参加人数169名、大会実行委員長。
- 5) 第一回青森県食育県民大会、パネル展示朝食について-朝ご飯はなぜ必要か?-、主催青森県、2007年11月3日、青森県立保健大学、青森市。

g 特許など(承認されたタイトル、決定日など)

- 1) 岩井邦久、松江一、倉本修介、市田淳治：公開特許公報2007-32690、(1)-(12)

9) 森永八江

a 学術論文(原著)

- 1) 斎藤長徳¹、森永八江、駒田亜衣、高橋サツ²、熊谷貴子、藤田修三：黒石市での肥満改善健康教育プログラムの実施効果。青森県立保健大学雑誌, 8, 91-98, 2007.

¹：黒石市国民健康保険黒石病院, ²：黒石市福祉部

- 2) 駒田亜衣、山田真司、森永八江、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝：食品群および栄養素等摂取量の脳卒中発症への影響について～リスクスコアによる解析～。日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 32-41, 2008.

- 3) 山田真司、駒田亜衣、森永八江、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝：加齢変化と健康指標 Japanese Health Practice Index(JHPI)の関連について。日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 70-75, 2008.

b 報告書

- 1) 藤田修三、熊谷貴子、森永八江：モチ小麦を用いた嚥下障害改善および高齢者用機能食の開発研究。青森県立保健大学・特別研究 最終報告書平成17年度～18年度, 2007.

d 国内外で開催された学会発表

- 1) 森永八江、駒田亜衣、藤田修三：肥満の解消を目的とする栄養教育プログラムの食生活改善効果～食物記録法と食物摂取頻度調査法(FFQ)による食事調査結果の比較～。日本家政学第59回大会, 2007.5.11-13, 長良川国際会議場, 岐阜市, 114.

- 2) 熊谷貴子、森永八江、藤田修三、岩崎朋美、大室裕美子：食事機能リハビリテーション食の開発研究。第61回日本栄養・食糧学会大会, 2007.5.17-20, 国

立京都国際会館, 京都市。

- 3) 嵯峨井勝、駒田亜衣、井澤弘美、森永八江、羽鳥有香、佐藤伸：住民基本健診データによる冠動脈発症のリスク計算の試みと総コレステロールの意義について、第38回日本動脈硬化学会プログラム、2006.pp208, 東京都。

- 4) 森永八江、駒田亜衣、藤田修三：黒石市における肥満改善を目的とした健康教育プログラムの影響。第54回栄養改善学会学術総会, 2007.9.19-21, 長崎ブリックホール, 長崎市, 154.

- 5) 駒田亜衣、森永八江、山田真司、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝：心疾患発症リスクスコアと食事因子に関する公衆栄養学的研究, 第54回栄養改善学会学術総会, 2007.9.19-21, 長崎ブリックホール, 長崎市, 189.

- 6) 藤田修三、森永八江、熊谷貴子、村上直子、近藤文俊、村元英美、高田晴子：肥満の改善健康教室での加速度脈波の導入-黒石市での3ヶ年間調査より-。第6回加速度脈波複雑系研究会, 2007.11.17, ナチュラルホテル エルセラーン, 名古屋市。

- 7) 森永八江、佐藤伸、藤田修三：加速度脈波の実験動物用測定システムの開発。2007年度青森県保健医療福祉研究発表会, 2007.2.15, 青森県立保健大学, 青森市。

- 8) 山田真司、駒田亜衣、森永八江、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝：健康指標 JHPI の加齢による変化について。2007年度青森県保健医療福祉研究発表会, 2007.2.15, 青森県立保健大学, 青森市。

- 9) 駒田亜衣、山田真司、森永八江、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝：栄養素等摂取量と脳卒中のリスクファクターとの関連に関する研究。2007年度青森県保健医療福祉研究発表会, 2007.2.15, 青森県立保健大学, 青森市。

10) 佐藤 伸

a 学術論文(原著)

- 1) Sato S, Mukai Y, Yamate J², Kato J³, Kurasaki M⁴, Hatai A¹, Sagai M: Effect of polyphenol-containing azuki bean (*Vigna angularis*) extract on blood pressure elevation and macrophage infiltration in the heart and kidney of spontaneously hypertensive rats. Clin Exp Pharmacol Physiol, 35, 43-49, 2008.

¹: 函館短期大学, ²: 大阪府立大学・院, ³: 北海道

農業試験場,⁴:北海道大学・院

2) 駒田亜衣, 山田真司, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:食品群および栄養素等摂取量の脳卒中発症への影響についてーリスクスコアによる解析ー. 日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 32-42, 2008.

3) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:加齢変化と健康指標 Japanese Health Practice Index (JHPI)の関連について. 日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 70-76, 2008.

4) 駒田亜衣, 森永八江, 山田真司, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養素等摂取量の比較に関する研究. 栄養学雑誌, 66(2), 69-76, 2008.

b 報告書など

1) 佐藤伸: イギリス研修報告:ケルセチンは血圧上昇と NAD(P)H オキシダーゼの発現に影響を及ぼすか? 青森県立保健大学雑誌, 8, 49-52, 2007.

2) 佐藤伸, 藤田修三, 森永八江, 向井友花:ポリフェノール(リグノフェノール、ケルセチン)の血圧上昇に及ぼす影響及びそのメカニズムの解明. 平成 18~19 年度青森県立保健大学 健康科学特別研究〔基盤 A・2〕研究成果報告, 2008

3) 佐藤伸, 畑井朝子¹, 向井友花, 蔵崎正明²:小豆ポリフェノールの血圧上昇と脳卒中に及ぼす影響およびそのメカニズムの解明. 平成 17~平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 2008

¹: 函館短期大学, ²: 北海道大学・院

c 学会発表

1) 向井友花, 佐藤伸, 羽鳥有香, 畑井朝子¹, 加藤淳², 駒田亜衣, 嵯峨井勝:小豆抽出物による自然発症高血圧ラット (SHR) の降圧作用. 日本家政学会第 59 回大会, 岐阜市, 2007 年 5 月

¹: 函館短期大学, ²: 北海道農業試験場

2) 佐藤伸, 向井友花, 畑井朝子¹, 嵯峨井勝:SHR の血圧、内皮型 NO 合成酵素及びカベオリン-1 の発現に及ぼす小豆抽出物の影響. 第 43 回高血圧関連疾患モデル学会学術総会, 大阪市, 2007 年 9 月

¹: 函館短期大学

3) 向井友花, 畑井朝子¹, 加藤淳², 佐藤伸小豆抽出物が自然発症高血圧ラット (SHR) の血圧および一酸化窒素 (NO) 産生に及ぼす影響日本食品科学工学会第 54 回大会, 福岡市, 2007 年 9 月

¹: 函館短期大学, ²: 北海道農業試験場

4) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:健康指標 JHPI の加齢による変化について. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2008 年 2 月

5) 駒田亜衣, 山田真司, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:栄養素等摂取量と脳卒中のリスクファクターとの関連に関する研究. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2008 年 2 月

6) 森永八江, 佐藤伸, 藤田修三:加速度脈波の実験動物用測定システムの開発. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2008 年 2 月

7) 佐藤伸, 向井友花, 山手丈至¹:高血圧自然発症ラットの血圧上昇およびマクロファージ浸潤に及ぼす小豆抽出物の影響. 第 24 回日本毒性病理学会総会, 名古屋市, 2008 年 2 月

¹: 大阪府立大学・院

8) 佐藤伸, 向井友花, 嵯峨井勝:ポリフェノールを含む小豆抽出物が高血圧自然発症ラットの血圧上昇および内皮型一酸化窒素合成酵素の発現に及ぼす影響. 第 78 回日本衛生学会総会, 熊本市, 2008 年 3 月

11) 山田 真司

a 学術論文(原著)

1) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:加齢変化と健康指標 Japanese Health Practice Index(JHPI)の関連について, 日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 70-75, 2008.

2) 駒田亜衣, 山田真司, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝:食品群および栄養素等摂取量の脳卒中発症への影響についてーリスクスコアによる解析ー, 日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 32-41, 2008.

3) 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 佐藤伸, 嵯峨井勝:国保レセプトと住民基本健康診断データを用いた「脳卒中」と「虚血性心疾患」のリスクスコア計算法的な比較, 日本ヒューマンケア科学会誌, 1, 61-69, 2008.

4) 駒田亜衣, 森永八江, 山田真司, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝: 基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養素等摂取量の比較に関する研究. 栄養学雑誌, 66(2), 69-76, 2008.

d 国内外で開催された学会発表

1) 駒田亜衣, 森永八江, 山田真司, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝: 心疾患発症リスクスコアと食事因子に関する公衆栄養学的研究, 第 54 回栄養改善学会学術総会, 長崎ブリックホール, 長崎市, 2007 年 9 月.

2) 井澤弘美, 嵯峨井勝, 駒田亜衣, 山田真司, 福田誠. 心疾患と脳血管疾患のリスクを予測する各種 Health Risk Appraisal ソフトの妥当性の比較検討, 第 39 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2007 年 7 月.

3) 嵯峨井勝, 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 福田誠: 脳卒中と心疾患のリスクを予測する各種計算法の精度の比較と発症予防効果の評価. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007 年 10 月.

4) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝: 健康指標 JHPI の加齢による変化について. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2008 年 2 月.

5) 駒田亜衣, 山田真司, 森永八江, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝: 栄養素等摂取量と脳卒中のリスクファクターとの関連に関する研究. 2007 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2008 年 2 月.

1) 川内 規会

a. 学術論文 (原著)

・川内規会：手話通訳者および手話学習者が捉えるコミュニケーション行為の認識—手話に関する調査に基づいた現状と課題から、青森県立保健大学雑誌第8巻第1号, 115-122, 2007.

・山田典子、川内規会、千葉たか子、渡部一朗、リボウィッツ志村よし子：健康科学教育センター国際科の発展途上国における地域交流の現状—国際交流事業の教育的意義の検討—、青森県立保健大学雑誌第8巻第2号, 267-273, 2007.

d. 学会発表

・川内規会：家族・地域のきずなを再生する取り組みから家族関係を考える、日本コミュニケーション学会第8回東北支部研究大会、2007年10月27日、東北工業大学, 仙台市.

・川内規会：親子のきずな再生を目指した家族コミュニケーションに関する一考察—地方公共団体の取り組みから、国際コミュニケーション科学学会第7回年次大会、2007年11月17日-18日、弘前学院大学, 弘前市.

・川内規会：「グローバル化社会における英語教育の方向性—コミュニケーションの視点から」発表およびシンポジスト、2007年度日本コミュニケーション学会東北支部研究会、2008年3月9日、仙台メディアテーク, 仙台市.

2) 奈良岡 恵子

学会発表

・奈良岡恵子、ドナーコーディネーターの継続教育について、第43回日本移植学会総会、2007年11月24日、仙台市

報告書

・文部科学省社会人の学び直しニーズ対応プログラム 医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム平成19年度報告書、2008年3月

講演等

・奈良岡恵子：「臓器移植について」、平成19年弘前大学医学部附属病院研修医オリエンテーション、2007年4月11日（弘前市）

・奈良岡恵子：「青森県の移植医療の現状」、弘前大

学21世紀教育テーマ科目・人間の尊厳B、2007年12月7日（弘前市）

研修会等

・文部科学省社会人の学び直しニーズ対応プログラム平成19年度医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学びなおしプログラム、2007年2月23日～24日、3月7日～8日 運営

3) 駒田 亜衣

一般発表など

1. 森永八江、駒田亜衣、藤田修三「肥満の解消を目的とする栄養教育プログラムの食生活改善効果、食物記録法と食物摂取頻度調査法 (FFQ) による食事調査結果の比較」、日本家政学会第 59 回大会、2007.5 (岐阜市)
2. 井澤弘美、嵯峨井勝、駒田亜衣、山田真司、福田誠「心疾患と脳血管疾患のリスクを予測する各種 Health Risk Appraisal ソフトの妥当性の比較検討」、第 39 回日本動脈硬化学会総会・学術集会プログラム・抄録集、pp.251、2007.7(大阪市)

4) 乗鞍 敏夫

a. 学術論文 (原著)

- 1) Xu S., Kojima-Yuasa A., Azuma H., Huang X., Norikura T., Kennedy D.O., Matsui-Yuasa I.: (1S)-Acetoxychavicol acetate and its enantiomer inhibit tumor cells proliferation via different mechanisms. *Chem. Biol. Interact.*, 172(3), 216-223, (2008)
- 2) Norikura T., Kojima-Yuasa A., Shimizu M., Huang X., Xu S., Kametani S., Rho S.N., Kennedy D.O., Matsui-Yuasa I.: Anticancer Activities and Mechanisms of *Blumea balsamifera* Extract in Hepatocellular Carcinoma Cells. *Am. J. Chi. Med.*, 36(2), 411-424, (2008)
- 3) Kametani S., Oikawa T., Kojima-Yuasa A., Kennedy D.O., Norikura T., Honzawa M., Matsui-Yuasa I.: Mechanism of Growth Inhibitory Effect of Cape Aloe Extract in Ehrlich Ascites Tumor Cells. *J. Nutr. Sci. Vitaminol.*, 53, 540-546, (2007)
- 4) Huang X., Kojima-Yuasa A., Norikura T., Kennedy D.O., Matsui-Yuasa I.: Mechanism of the anticancer activity of *Zizyphus jujuba* in HepG2 cells. *Am. J. Chi. Med.*, 35(3), 517-532, (2007)
- 5) Norikura T., Kojima-Yuasa A., Kennedy D.O., Matsui-Yuasa I.: Protective effect of

gamma-aminobutyric acid (GABA) against cytotoxicity of ethanol in isolated rat hepatocytes involves modulation in cellular polyamine levels. *Amino Acids*, 32, 419-423, (2007)

c. 学会発表

- 1) Norikura T., Kojima-Yuasa A., Matsui-Yuasa I.; Mechanism of Growth inhibitory effect of *Blumea balsamifera* extract in human hepatocellular carcinoma cell (HepG2). BMB2007, 横浜市, 2007年12月

資 料

平成19年度当初予算

(単位：千円)

県立保健大学関連経費		2,125,944	
(1) 大学運営費	921,954	事務局人件費、臨時職員等	261,619
		校舎等管理経費（光熱水費含む）	183,197
		事務局運営費（入卒業式経費含む）	32,032
		情報システム管理運営費	94,167
		入学者選抜事業費	29,507
		就職対策費	3,245
		大学院経費	42,369
		教員公舎建設費償還金	182,974
		公立大学法人化準備事業等	92,844
		(2) 大学教育研究費	1,203,990
非常勤講師経費等	30,316		
学生経費（備品等整備）	21,219		
図書等整備事業	38,712		
学外実習経費	14,944		
教員研究費	170,476		
健康科学研究教育事業	7,972		
認定看護師等研修事業	11,837		
英語プログラム実施経費	1,420		
奨学寄付金事業費	8,000		

平成 19 年度大学見学実績

No.	月 日	見 学 者	人 数
1	19 年 8 月 28 日	青森市立東中学校	30
2	19 年 8 月 31 日	青森市立三内中学校	70
3	19 年 9 月 4 日	青森市立浜館小学校	14
4	19 年 9 月 20 日	東津軽郡地方教育委員会連絡協議会	24
5	19 年 11 月 6 日	六戸町七百中学校	44

平成19年度ゲストスピーカーの招へい状況

	期 日	授 業 科 目	ゲスト氏名	ゲ ス ト 所 属	授業担当教員
1	H19.5.1	看護マネジメント論	笥 淳夫	国立保健医療科学院施設科学部 部長	鄭 佳紅
2	H19.5.14	在宅看護論	泉 美紀子	訪問看護ステーションあおい森 所長	細川 満子
3	H19.5.28	地域統合実習	山中 朋子	西北地域県民局地域健康福祉部 保健総室 室長	山本 春江
4	H19.6.1	地域統合実習	三和千枝子	西北地域県民局地域健康福祉部 保健総室 健康増進課長	千葉 敦子
5	H19.6.6	社会福祉援助技術 現場実習指導Ⅱ	伊藤 康敦	知的障害児施設 八甲学園	大和田 猛
6	H19.6.25	成人看護学援助論 Ⅱ	消防職員	青森市消防局青森消防署 消防職員(救急救命士)	平尾 明美
7	H19.6.26	社会福祉援助技術 現場実習指導Ⅰ	小笠原 勤	中央児童相談所 所長	入江 良平
8	H19.6.26	社会福祉援助技術 現場実習指導Ⅰ	高橋 忠久	五所川原市財政部収納課 (3月まで五所川原市福祉事務 所査察指導員)	杉山 克己
9	H19.6.29	社会福祉援助技術 現場実習指導Ⅰ	織笠 優	十和田市社会福祉協議会 主任	佐藤 恵子
10	H19.7.2	社会福祉施設運営 論	丸本 富勝	障害者総合福祉センターなつ どまり 所長	山内 修
11	H19.7.19	義肢装具学実習	時吉 英吉	日東義肢製作所 会長 義肢装具士	三浦 雅史
12	H19.7.20	ケアマネジメント論	木村 隆次	日本介護支援専門員協会 会長	桜木 康広
13	H19.10.3	高齢障害理学療法 論	佐藤 正則	(株)アストラル 所長	川口 徹
14	H19.10.4	基礎看護実習Ⅰ	熊野 則子	青森県立中央病院(看護局長)	大串 靖子
15	H19.10.12	地域看護援助論	三上 公子	NPO活き粋あさむし事務局長	山本 春江
16	H19.10.26	成人看護援助論Ⅰ	池田 和子	国立国際医療センターエイズ治 療・研究開発センター コーディネーターナース/患者 支援調整官	石鍋 圭子
17	H19.11.2	神経障害理学療法 学	江西 一成	星城大学リハビリテーション学 部 理学療法学専攻 教授	桜木 康広
18	H19.11.5 H19.11.5 H19.11.5	社会福祉基礎演習 社会福祉基礎演習 社会福祉基礎演習	山内 みどり 脇谷 米子 佐々木アヤ子	CAPネット青森会員	入江 良平 杉山 克己 石田 賢哉
19	H19.11.29	神経内科学	佐藤 達朗	函館医師会病院神経内科科長	尾崎 勇

	期 日	授 業 科 目	ゲスト氏名	ゲ ス ト 所 属	授業担当教員
20	H19.12.4	社会保障論	牛嶋 信治	生命保険文化センター 生活情報室調査役	増山 道康
21	H19.12.12	障害者福祉論	根本 あや子	NPO法人 SANNet 青森 代 表	山内 修
22	H20.1.9	地域看護援助論	小形 麻里	青森市保健所 健康づくり推進 課 主査保健師	千葉 敦子
23	H20.1.21	助産診断・技術学 I	高橋 佳子	青森中央短期大学 看護学科講師	大井 けい子
24	H20.1.22	がん看護	大谷木靖子	昭和大学横浜市北部病院 看護部 がん看護専門看護師	鳴井 ひろみ
25	H20. 1. 25	神経障害理学療法 学	相馬 雅之	青森慈恵会病院 リハビリテー ション科 副部長(作業療法 士)	山下 弘二
26	H20. 1. 25	神経障害理学療法 学	藤林 晃	青森慈恵会病院 リハビリテー ション科 主任言語聴覚士	藤田智香子

平成19年度臨地教授等による事前学外実習の実施状況

	期日	授業科目	臨地教授等	臨地教授等所属	授業担当教員
1	H19.5.23	社会福祉援助技術現 場実習指導Ⅱ	山口 俊輔	児童養護施設 幸樹園 園 長	齋藤 史彦
2	H19.5.29	地域統合実習	米谷 真紀子	つがる市福祉部健康増進課 保健予防係 主任	山田 典子
3	H19.6.5	地域統合実習	浦田 栄里子	三沢訪問看護ステーション 所長	細川 満子
4	H19.6.20	社会福祉援助技術現 場実習指導Ⅱ	長尾 春光	特別養護老人ホーム弘前静 光園 施設長	大和田 猛

平成19年度特別講義実施状況

(保健医療福祉特殊講義 対象)

	内 容
第1回	理学療法学科 期 日 平成19年7月11日(水) 講 師 トロント小児病院神経内科 大坪 宏 テーマ 「てんかんと最新の脳解析」
第2回	社会福祉学科 期 日 平成19年7月20日(金) 講 師 知的障害者更正施設さくら園支援係長 三上 富士子 テーマ 「人権擁護とその制度について」
第3回	人間総合科学科目 期 日 平成19年12月12日(水) 9:00~10:20 講 師 青森銀行取締役総合企画部長 内藤 敦 テーマ 「社会人への視点」
第4回	看護学科 期 日 平成20年1月11日(木) 講 師 日本医療ボランティア協会理事 長谷川 純子 テーマ 「医療とボランティア」

平成19年度各種委員会委員一覧

委員会等名	委員長等	部局長	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	人間総合科学科目	充て職委員	その他	任期 (始~終期)	事務局委員 (充て職)	事務局担当
評価委員会	鈴木学生部長	鈴木学生部長、松江研究センター長	角濱准教授		大山教授			(学長が必要と認める者)	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
将来構想検討委員会	学長	学長、上泉副学長、川村研究科長、 佐藤学部長、鈴木学生部長、 大和田図書館長、石鍋教育センター長、 松江研究センター長	藤井学科長	尾崎学科長	大和田学科長	藤田主任教授		(学長が必要と認める者)	(充て職 のため任 期なし)	局長	企画情報課
地域貢献委員会	上泉副学長	上泉副学長、石鍋教育センター長	千葉講師	三浦講師	山内准教授	井澤(弘)助教	渡邊研修科長、 中村研究開発科長	(副学長が必要と認める者) 駒田助教、奈良岡助手	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
教育改善委員会	上泉副学長	上泉副学長	坂本講師	小田桐助教	佐藤(恵)准教授	バリー カバナー講 師		(副学長が必要と認める者) 川内講師、橋本助教	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
教務委員会	佐藤学部長	佐藤学部長	山本教授 吹田講師 木村講師	渡部教授 桜木講師 盛田講師	入江教授 齋藤講師 坂下講師	岩井准教授 浅田講師		(学部長が必要と認める者)	H19.4.1 H21.3.31	次長	教務学生課 教務担当
研究科委員会教務学生専門部会	藤井教授		(地域保健福祉学分 野) 藤井教授 浅田講師	(理学療法学分野) 渡部教授 藤田准教授	(生活健康科学分 野) 松江教授 佐藤(伸)准教授	(看護学分野) 大串教授 角濱准教授			規程なし	次長	教務学生課 教務担当
学生委員会	鈴木学生部長	鈴木学生部長	深谷教授 藤田講師	李講師	安田准教授	スコット ヴェス ティ講師	学生相談専門部会 長	(学生部長が必要と認める者)	H19.4.1 H21.3.31	教務学生課長	教務学生課 学生担当
学生相談専門部会	大山教授		細川講師	李講師	安田准教授	浅田講師	保健嘱託員	(学生部長が必要と認める者) 大山教授	任期の記 載なし		教務学生課 学生担当
健康管理専門部会	鈴木学生部長	鈴木学生部長	福井講師	勘林准教授	長谷川助教	廣森助教	学校医、 保健嘱託員		任期の記 載なし		教務学生課 学生担当
学生募集対策委員会	鈴木学生部長	鈴木学生部長	鄭講師	勘林准教授	杉山准教授	岩井准教授		(広報記録委員会から1名)	H19.4.1 H21.3.31	次長	教務学生課 入試担当
就職対策委員会	鈴木学生部長	鈴木学生部長	藤本講師	山下准教授	増山准教授	佐藤(伸)准教授		(学生部長が必要と認める者)	H19.4.1 H21.3.31	次長 教務学生課長	教務学生課 学生担当
学術情報委員会	大和田図書館長	大和田図書館長	三浦助教	三浦講師	杉山准教授	山田(真)准教授		(図書館長が必要と認める者) 井澤(弘)助教	H19.4.1 H21.3.31	企画情報課長、 図書館司書、 情報担当職員	企画情報課
広報記録委員会	大和田図書館長	大和田図書館長	佐藤(愛)講師 細川講師	岩月准教授 長門助教	加賀谷助教	羽入教授		(図書館長が必要と認める者) 長谷川助教	H19.4.1 H21.3.31	総務課長、企画 情報課長、教務 学生課長	総務課、企画情 報課、教務学生 課
動物実験委員会	松江研究センター長	松江研究センター長	山田講師	吉村教授	山内准教授			(学長が必要と認める者) 佐藤(伸)准教授	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課
施設管理専門部会	松江研究センター長			鈴木教授 李講師		井澤助教			任期の規 程なし		企画情報課
人権に関する委員会	大山教授		竹森教授	勘林准教授	大山教授	嵯峨井教授		(学長が必要と認める者) 大串教授	H19.4.1 H21.3.31	総務課長	総務課
倫理委員会	大関教授		大関教授	成田教授	大竹准教授	山田(真)准教授		(学長が必要と認める者) 角濱准教授、山田(典)講師、山下准教授 (外部委員) 1名	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
衛生委員会	学長	学長	福井講師	桜木講師	千葉准教授			(産業医) 成田教授(理学療法学科委員)	H19.4.1 H21.3.31	総務課長	総務課
健康科学教育・研究センター運 営委員会	学長	学長、石鍋教育センター長、 松江研究センター長					渡邊研修科長、 深谷国際科長、 中村研究開発科長		H19.4.1 H21.3.31	局長 次長	企画情報課

委員会等名	委員長等	部局長	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	人間総合科学科目	充て職委員	その他	任期 (始~終期)	事務局委員 (充て職)	事務局担当
健康科学教育センター運営委員会	石鍋教育センター長	石鍋教育センター長					研修科長、 国際科長	(教育センター長が必要と認める者) 教育センター専任講師、 教育センター専任助手	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
研修科委員会	渡邊研修科長	石鍋教育センター長	竹森教授 佐藤(真)助教	川口准教授 盛田講師	渡邊教授 増山准教授	メリッサ オガサワ ラ助教		(教育センター長が必要と認める者) 教育センター専任助手、廣森助教、 行方助教、橋本助教	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課
看護研修運営委員会	石鍋教育センター長	上泉副学長(顧問)、 石鍋教育センター長	深谷教授 平尾講師 鄭講師 早川助教 三浦助教					(教育センター長が必要と認める者)	任期の記 載なし		企画情報課
社会福祉研修運営委員会	石鍋教育センター長	石鍋教育センター長	細川講師	藤田(智)准教授	山内准教授 増山助准教授	羽入教授	研修科長	(教育センター長が必要と認める者) 行方助教	規程なし	次長 企画情報課長	教育センター
国際科委員会	深谷国際科長	石鍋教育センター長	山田(典) 講師 早川助教	渡部教授 藤田(智)准教授	千葉准教授 石田講師	アラン ノールズ教 授		(教育センター長が必要と認める者) 教育センター専任講師、山本助手、 大津助手、長門助手	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課
健康科学研究センター運営委員会	松江研究センター長	松江研究センター長					中村研究開発科長	(研究センター長が必要と認める者) 研究センター専任助手	H19.4.1 H21.3.31	次長	企画情報課
研究開発科委員会	中村研究開発科長	川村研究科長、 松江研究センター長	川村教授 鳴井講師	佐藤(秀一)准教授	佐藤(恵)准教授	佐藤(伸)准教授		(研究センター長が必要と認める者) 岩井准教授、森永助手、田中助教、 駒田助教、井澤(弘)助教、鄭講師、 小田桐助教、石田講師	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課
特別研究等審査会	松江研究センター長	学長(顧問)					中村研究開発科長	(研究センター長が必要と認める者)	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課
共同研究受入審査委員会	松江研究センター長		深谷教授	吉村教授	大山教授	嵯峨井教授		(学長が必要と認める者) 岩井准教授	H19.4.1 H21.3.31		企画情報課

平成19年度プロジェクト会議委員一覧

委員会等名	委員長等	部局長	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	人間総合科学科目	充て職委員	その他	任期 (始～終期)	事務局委員 (充て職)	事務局担当
公立大学法人移行準備委員会	鈴木学生部長	学長(顧問)、上泉副学長、 佐藤学部長、鈴木学生部長	中村教授		入江教授	藤田(修)教授			プロジェクト のため規程なし	局長	公立大学法 人移行準備室
組織運営分科会	中村教授	石鍋教育センター長		尾崎教授	大竹准教授	羽入教授			プロジェクト のため規程なし	教務学生課長	
中期目標・中期計画分科会	佐藤学部長	学長(顧問)、佐藤学部長、松江研究セン ター長	大串教授 山本教授	佐藤(秀一)准教授	入江教授 杉山准教授	浅田講師			プロジェクト のため規程なし	企画情報課長	
財務会計分科会	上泉副学長	上泉副学長、大和田図書館長、		岩月准教授		藤田(修)教授			プロジェクト のため規程なし	総務課長	
現代GP拡大会議 (*○印は「現代GPコア会 議」メンバー)	○上泉副学長	○学長、○上泉副学長、 ○佐藤学部長、大和田図書館長、 ○石鍋教育センター長、 ○松江研究センター長	○山本教授 中村教授 細川講師 千葉講師	○川口准教授 尾崎教授 勘林教授 桜木講師	渡邊教授 大山教授 佐藤(恵)准教授 杉山准教授	藤田(修)教授 嵯峨井教授 山田(真)准教授 浅田講師		駒田助教、奈良岡助手	プロジェクト のため規程なし	○次長	企画情報課
成績分析プロジェクト		学長(オブザーバー)							プロジェクト のため規程なし	教務学生課長	教務学生課 入試担当
栄養学科開設委員会	佐藤学部長	佐藤学部長				藤田主任教授 嵯峨井教授 松江教授 佐藤(伸)准教授 岩井准教授 山田(真)准教授 浅田講師		杉山みち子	プロジェクト のため規程なし		企画情報課

平成 19年度・健康科学特別研究等審査会委員会名簿

	氏 名	備 考	
顧 問	リボウィッツよし子	学 長	
会 長	松 江 一	健康科学研究センター長	
委 員	中村 由美子	同センター・研究開発科長	
〃	上 泉 和 子	研究センター長が必要と認める者	副学長
〃	川村 佐和子	〃	研究科長
〃	佐 藤 秀 紀	〃	学部長
〃	鈴 木 孝 夫	〃	学生部長
〃	大和田 猛	〃	図書館長（社会福祉学科長）
〃	石 鍋 圭 子	〃	健康科学教育センター長
〃	藤 田 修 三	〃	人間総合科学科目主任教授
〃	藤 井 博 英	〃	看護学科長
〃	尾 崎 勇	〃	理学療法学科長
〃	渡 邊 洋 一	〃	研修科長
〃	深谷 智恵子	〃	国際科長
〃	嵯 峨 井 勝	〃	人間総合
〃	岩 井 邦 久	〃	人間総合
〃	佐 藤 伸	〃	人間総合
〃	大 串 靖 子	〃	看 護
〃	竹 森 幸 一	〃	看 護
〃	山 本 春 江	〃	看 護
〃	角 濱 春 美	〃	看 護
〃	成 田 寛 志	〃	理 学
〃	渡 部 一 郎	〃	理 学
〃	岩 月 宏 泰	〃	理 学
〃	佐 藤 秀 一	〃	理 学
〃	藤 田 智 香 子	〃	理 学
〃	山 下 弘 二	〃	理 学
〃	入 江 良 平	〃	社会福祉
〃	大 山 博 史	〃	社会福祉
〃	増 山 道 康	〃	社会福祉学科
研究センター 研究員	駒 田 亜 衣	研究センター	
事務局	山 村 義 彦	企画情報課長	
〃	岡 村 慶 子	企画情報課	

教 職 員 の 異 動 等

教 員

【採 用 者】

看護学科教授	深 谷 智恵子
社会福祉学科講師	石 田 賢 哉
人間総合科学科目講師	カヴァナ バリー
人間総合科学科目助教	オガサワラ メリッサ
人間総合科学科目助教	リポウィッツ ロバート
看護学科助手	伊 藤 治 幸
看護学科助手	内 城 絵 美
看護学科助手	山 本 真樹子
人間総合科学科目助手	熊 谷 貴 子
健康科学教育センター助手	奈良岡 恵 子
看護学科助手	村 上 眞須美
看護学科助手	市 川 美奈子
看護学科助手	佐々木 綾 子
社会福祉学科助手	種 市 寛 子
人間総合科学科目教授	今 淳

【退 職 者】

健康科学研究センター助教	駒 田 亜 衣
理学療法学科教授	成 田 寛 志
理学療法学科助教	小田桐 愛
看護学科教授	大 串 靖 子
看護学科教授	川 村 佐和子
看護学科教授	竹 森 幸 一
理学療法学科教授	吉 村 教 暉
人間総合科学科目教授	嵯峨井 勝
看護学科講師	赤 羽 衣里子
看護学科助教	田 中 広 美
看護学科助教	行 方 かおり
看護学科助手	其 田 貴美枝

平成19年度定例人事異動一覽表(事務局)

事務局

【転入者】

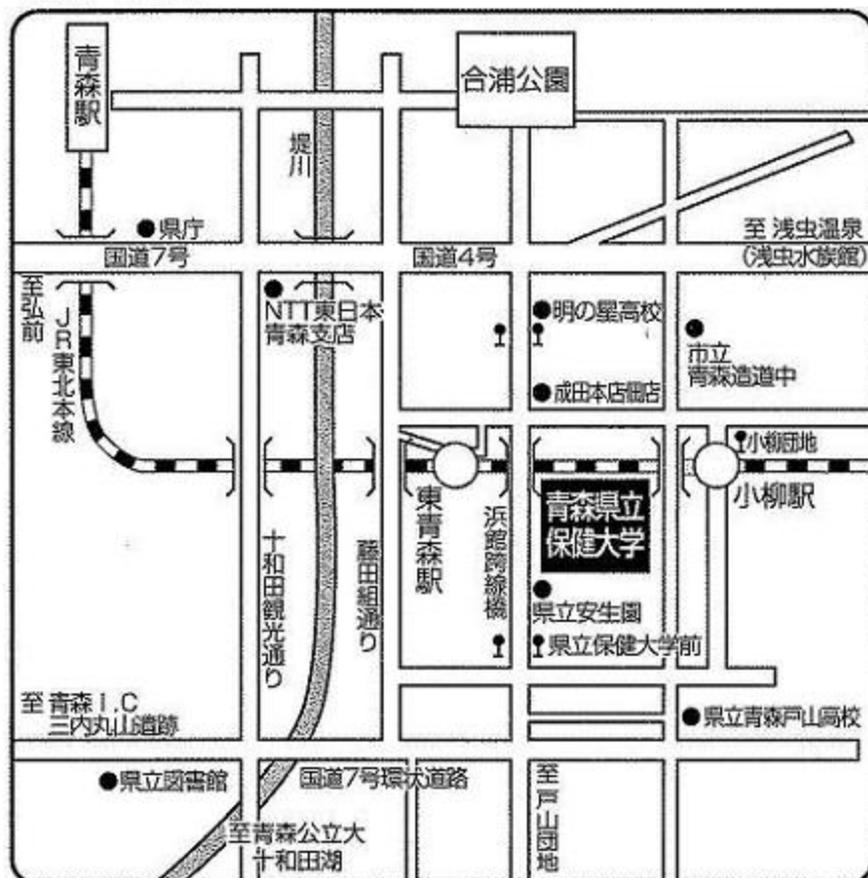
企画情報課長	山	村	義	彦
教務学生課長	前	田	泰	三
主 査	間	山	秀	幸
主 査	岡	村	慶	子
主 査	長	内	俊	幸
主 事	野	呂	香	織

【転出者】

教務学生課長	笹		常	春
主 幹	深	掘		満
主 査	小	田川	聡	子
主 査	成	田	智	佳子

大学の位置と交通案内 (平成20年4月1日現在)

1 大学の位置



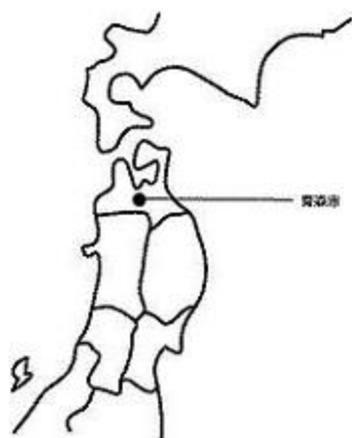
青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1

TEL 017-765-2000 (代表) FAX 017-765-2188

インターネットホームページ <http://www.auhw.ac.jp/>

交通アクセス



■青森市まで

○鉄道

東京駅～青森駅まで3時間58分(東北新幹線「はやて」及びアクセス特急列車)

○航空機

札幌便、東京便、名古屋便、大阪便、福岡便

○フェリー

函館便(約4時間)、室蘭便(約7時間)

■青森市内

○青森駅から約7km

●青森市営バス(戸山団地・沢山線 (いずれも明の星高校・南畑経由に限る))

県立保健大学前バス停まで 約20分

(バス停から徒歩約1分)

●車(タクシーで) 約15分

○JR東青森駅から徒歩で 約10分(約1km)

○JR小柳駅から徒歩で 約10分(約1km)

○青森空港から約15km

●車(タクシーで) 約25分

新たな未来へ

作詞/作曲 小比類巻かほる

1 8

9 G(9) F#7/G G(9) F#7/G

まあつ いま は向 じか まな るい おお も らい な抱 いき たし びめ。

13 CA7 Bm7 Em7 Am7 C/D D7

じて きほ うか へか とな むた かへ うつ こく りみ はち あた れら も しが いあ るい つて くま た

17 B#m7/E E7 Bb7(13) Am7 F#m7 B7 Em7

めく るく き手 のつぬ く なり かち わか すら えに が おる みと ちお し るえ べに く しれ

21 Dm7 G7 CA7 F#m7 B7 Em7 A7

て まか けだ みえ のせ 無 かい も へ か が こや るく のま ま さた がが しい もと じめ た え

25 C/D D7 G Am7/G G#7

ゆい こえ うほ しい んじ まあ ども よあ るわ こら びな たい あま ぶこ

29 Am7/G Em7 A7 Am7

れこ るあ 明に 日触 へれ いほ くん とう もの せだ さい しき のり 葉こ 味

33 C/D D7 G Am7/G G#7

えを よ知 うあ こい のつ のお 日のか おだ おれ ぞか らの ゆえう がき

37 Am7/G Em7 CA7 Bm7

いで たあ めめ たう こと ばん きな ひと るま げも るす よう にと とも びす たれ

41 Bm7/E Em7 Am7 C/D G(9)

つ な ぐ たい あ っ な た な み き ら せ い へ

45 1.

49 2. Ab Bbm7/Ab AbΔ7

し ん じ あ う よ ろ こ び に あ ふ

53 Bbm7/Ab Fm7 Eb7 Bbm7

れ る 明 日 へ い く つ も じ だ い を の り こ

57 Db/Eb Eb7 Ab Bbm7/Ab AbΔ7

え よ う こ の む ね の お お ぞ ら に え が

61 Bbm7/Ab Fm7 DbΔ7 Cm7

い た ゆ め に つ ば さ ひ ろ げ る よ う に と び た

65 Cm7/F Fm7 Bbm7 Db/Eb Ab(9)

つ よ あ ら た な み ら い へ

69 4.

【青森県立保健大学校歌】

新たな未来へ (作詞／作曲：小比類巻かほる)

さあ、今始まる
終わらない旅路
「希望」へと向かう心は
新らしい日を創る

巡る季節の中 交わす笑顔、道標にして
まだ見ぬ世界へ 輝くもの
探し求めてゆこう

信じ合う 喜びにあふれる明日へ
幾つも 時代を乗り越えよう
この胸の 大空に描いた夢に
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

もう 振り向かない
想い抱きしめて
遥か彼方へ続く道
誰もが歩いてきた

つなぐ手の温もり 力になると教えてくれた
かけがえの無いもの 心のまま
互いに伝え合えば

いつまでも 変わらない真心に触れ
本当の優しさの意味を知る
いつの日か 誰かの「勇気」であるよう、
どんな時もずっと 忘れない 出逢えた奇跡を

信じ合う 喜びにあふれる明日へ
幾つも 時代を乗り越えよう
この胸の 大空に描いた夢に
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

編 集 後 記

いま日本では全国の大学の定員総数と受験者の数が同じになる、いわゆる大学全入時代に突入し、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。この激動の時代の中、本学は今年4月に独立法人化されました。同時に栄養学科が新設され、理学療法学科と社会福祉学科は定員増となりました。そして来年には開学10周年を迎えます。まさに一つの周期が終わり、新しい章が始まろうとしているかのように思えます。

大学年報は文字通りアニュアルレポートであり、各年度の本学の活動を記録したものです。教職員の個人研究、共同研究、学際的研究、国際研究、産学官共同研究の成果、人間総合科学科目群、看護学科、理学療法学科、社会福祉学科、大学院博士前期課程、大学院博士後期課程における教育活動、各種委員会活動、地域貢献活動、全国学会、公開講座、健康科学研究センター、健康科学教育センターなどが総括的かつ客観的にまとめられています。

したがってこれはいわゆる「読み物」ではありません。けれどもその各ページからは、独立法人化への助走の時期であると同時に、青森県の一機関としての大学として最後の年でもあった2007年における、本学の多様な活動の諸側面が伺われることと思います。

今号から年報は印刷物という形をとらず、電子ファイルとしてホームページ上で公開されることになりました。原稿の収集および編集作業もまたネットワーク経由で行われました。初めての試みであり、予測外の困難や障害もありましたが、なんとか乗り越えて刊行にこぎ着けることができました。この年報の作成に多大なご支援とご協力をいただいた全学の教職員の方々に心からお礼を申し上げます。

広報情報委員長 入江 良平

広報情報委員会委員氏名

委 員 長	入 江 良 平	(附属図書館長 教授)
委 員	坂 本 祐 子	(看護学科 講師)
”	佐 藤 愛	(看護学科 講師)
”	長 門 五 城	(理学療法学科 助手)
”	種 市 寛 子	(社会福祉学科 助手)
”	山 田 真 司	(栄養学科 准教授)
”	小 野 勝 義	(事務局 経営企画室長)
事 務 局	赤 坂 太 郎	(経営企画室主査)
”	川 上 由 紀 子	(学生課主査)
”	伊 藤 麻 起 子	(非常勤職員)